佐伯有義校訂標注

増補 六國史 巻十一

朝日新聞社藏版

装畫・・田中咄哉州

六國史年表

校訂標注 六國史年表

凡例

一、本書は、六國史閲覽の際之を机右に備へて、前後の事情關係を知るに便利ならむが爲に、之を編纂して附錄とせり。

二、神武天皇より舒明天皇十二年までは二十年を一頁とし、同十三年より以下は八年を一頁とす。其の區別は記事の多少に因れり。他意あるにあらず。

三、記事の範圍は、天皇卽位、立后、立太子、天皇太上天皇太皇太后皇太后皇后の崩薨、任大臣、大臣の薨去は必ず之を記載し、政治、法律、内治外交に關する重大なる事件、天災地變にありては、重大なる者のみを收む。

校訂標注 六國史編纂の經過

予が朝日新聞社の委囑を受け、前後三年に涉りて從事したる六國史校訂標注編纂の事業は、幸に何等の支障もなくして完結せるを以て、此に其の經過に就きて一言する所あらむとす。

此の事業は、朝日新聞社が御大典記念として計畫せられしものにて、事實上御大典と最も深き關係あり、誠に適當なる事業なるのみならず、老生が多年熱望せし事業の一なりしを以て、不學短才を顧みず、進むで其の委囑に應じたり。抑予が國史校訂の事に意を寄せたるは、數十年來の事なるが、其の實際上に見はれたるは、明治四十五年なり。是より先國學者の先輩中、六國史校訂の必要を痛感し、之を遂行せむと企てたるもの少からず。神宮教管長田中頼庸氏は、國史校訂に關して宮內省に建白し、又自ら學者を集めて校訂を企てられしが、世に公にせられしものは、神代卷二卷のみなり。大八洲學會にても、亦嘗て之を計畫し、久米幹文氏主となりて之に從事せられしが、日本書紀の前半卽ち卷十五までを一册として印刷せしのみにて、之も亦頓挫せり。其

の後田口卯吉氏の經營せる經濟雜誌社にて編纂せる國史大系中に之を收めて印刷せられしのみにて、其の以外に單行のものなく、從來の版本は何れも誤脫錯簡ありて實際の用に適せず、之を手にする每に常に痛歎せり。後宮內省に奉職するに至り、圖書寮編修官井上賴圀翁、總務課長近藤久敬氏と此の事に就きて數次談ずる所ありしが、幸に機熟して、明治四十五年一月圖書頭監督の下に、六國史校訂材料取調掛を設けられ、多年の希望は聊か實現せらるゝに至れり。此の時井上翁は其の主任を、予は取調掛を、村岡良弼氏は事務囑托を命ぜられたり。其の年間は之を三年とし、主として諸本の異同を校合するを目的とす。其の後大正八年に至り、更に六國史校訂準備委員を設けられ、圖書寮事務官五味均平氏及予の兩人其の委員を命ぜられ、後編修官田邊勝哉氏も委員を命ぜられたり。五味氏は庶務を執れるのみにて、專ら校訂準備に從事したるは、予と田邊氏なりき、かくて準備事業既に終り、將に校訂委員を設けられむとするに當りて、不幸にして森圖書頭は俄に病歿せられ、宮內省に於ける國史校訂の事業も亦頓挫を來せり。斯くの如く國史校訂の事業は幾度か停頓し挫折して成功せざるを以て、苦悶遣る方なく、いかにもして予が生存中に、此の事業を完成して、先哲の志を達せ

むこ焦慮しつゝありしに、恰も好し朝日新聞社が、御大典記念こして之を計畫し、其の編纂を老生に一任せられたり。故に予は志を決して之を受諾せり。二箇年の歳月必ずしも短きにはあらざれご、六國史合せて百六十巻あり、文字の校訂のみにても容易の事業にあらざるに、全部を通じて注釋を施すこは、不可能に近ければ、此の點に就きて多少躊躇せしかご、今日之を成すにあらざれば、老耄忽ち迫まり、徒に恨を呑みて苔の下に埋もるべきを思ひ「なるわざをならぬこいふはなさぬなりけり」こ叫びつゝ、直に朝日新聞社の委囑を快諾せり。

かくて受諾こ共に、同志を募りて助手を囑托し、内閣文庫を始め、諸家の祕庫に就きて、各種の異本を校合せしめ、其の成るに隨ひて、校訂標注に著手し、漸次脫稿左の順序を以て出版せり。

一、日本書紀上巻　昭和三年十二月廿五日
二、同　下巻　同　四年三月廿八日
三、續日本紀上巻　同　年七月一日
四、同　下巻　同　年十月廿七日

五、日本後紀　同　年十一月廿八日
六、續日本後紀　同　五年二月二十日
七、文德實錄　同　年四月二十日
八、三代實錄上卷　同　年七月廿三日
九、同　下卷　同　年十月十二日
十、六國史索引　同　年十二月
十一、同　年表　同　上

以上の各册、豫告より多少印刷の遲延したるは、標注をば豫定より細密にし、故事熟語等の出典に就きても、一々之を原本と對照せるに因れり。索引の延引せるも、亦同じく編纂上非常の勞力を要せしに基因せり。索引の編纂に就きては、予は經驗少かりし故に、多少の徒勞なきにしもあらざれど、何人が之に當るも、有益なる索引を作ることは、容易の事にあらざるべし。此の事に關しては、索引の序文に已に大略を述べたるが故に、此に贅せず、思ふに校訂標注に就きても、索引に就きても、鈌點多く、自ら滿足せざるもの少からず。況むや他人より之を見れば、一層不滿の點多かるべし。

是れ一は予が淺學の致すところ、一は時間の許さゞるものありしに因れり。其の責は甘むじて之を受くべし。而して其の誤れる點足らざる所は、他日更に補足訂正して、以て其の罪を謝すべし。

凡そ一事一業を成すには、事の大小に依らず、獨力にて成じ得べきものにあらず。必ず。同志の補助に依りて、始めて成功するものなり。予が今囘の編纂に就きても、先輩の諸先生及同志の援助に依りて、幸に之を完成するを得たり。三上文學博士は、重大なる公職を有せらるゝ以外に、內外極めて多端なるにも拘らず、顧問として種々指導せられ、柳田朝日編修顧問も、編修其の他に就きて寸暇なきに拘らず、懇切に援助せられ、田邊圖書寮編修官、加藤神宮禰宜も、直接或は間接に大に援助を與へられしが、就中日々予と机を並べて、熱心に編纂の事を補助せられしは、

大高常丸君

伊藤彌太郎君

海老名襄君

宮崎茂樹君

宮西惟喬君
山本一信君

なり。豚兒義明も亦同じく諸君と共に、父の事業を援けたり。又日々書籍出納其の他に就きて懇切に補助せられしは、林正章君なり。

次に校訂に就きて、最も貴重の材料たる各種の古寫本を、快く閲覽することを許され、或は貸與することを承諾せられしは、德川圀順公爵、前田利爲侯爵、德川義親侯爵、神崎神道管長、鈴鹿義鯨氏、谷森建男氏等の諸氏なり。又平沼男爵、織田小覺先生は故井上翁の藏書に係る無窮會所藏の祕書珍籍を使用することを聽され、之に依りて編纂上最も便利を得たり。茲に謹みて感謝の意を表す。

顧るに六國史校訂の事業は、先哲の心血を濺ぎしところにて、德川時代にありては德川光圀卿、河村秀根、狩谷棭齋、伴信友等の諸先哲、明治以後にありては谷森善臣、小中村清矩、田中賴庸、久米幹文、井上賴囶、飯田武鄕、村岡良弼等の諸先生は、いづれも特に此の事に力を盡され、就中河村氏の如きは、書紀集解の體に倣ひて、五史の集解を編纂せむと、父子多年に涉りて勉められたり。其の事完成せずと雖も、其の

志は尙ぶべし。かく古人の心を籠めし事業をば、朝日新聞社が昭和御大典の記念として之を計畫せられ、有義淺學の身を以て、專ら其の任に當り、幸に先哲の遺業を成すを得たるは、全く同社の賜物にて、心中の喜悅名狀すべからず。たゞ淺學の致すところ、同社の委囑に十分に酬ゆることこ能はざりしを憾む。此に深く之を感謝す。

昭和五年十二月廿五日

佐伯有義

謹みて識す

六國史年表再版に際して

年表の主たる目的は、其の年代に於ける主要なる事項を列擧し、一見して能く其の大要を領解せしむるにあり。然るに其の年代に於ける記事多きときは、能く之を選擇して最も主要なるものを採り、さまで必要ならざるものは割愛せざるべからず。されど之を選擇することは最も困難にて容易ならず。加ふるに成るべく不用なる文字は之を削りて簡明にすべき必要あり。年表の編纂は決して容易なる事業にあらず。然るに曩に本書の編纂に際し、非常に多忙なりしため、十分に推敲の時日なく精選することを得ざりき。爾來此の事を常に念頭に忘れざりしも、未だ之に著手して訂正の余暇なく以て今日に至れり。殊に昨年三月以來は、六國史全部の訂正と日本後記逸文の編輯とに日々逐はれて、今回も亦遂に之を推敲して訂正すること能はざりき。たゞ桓武天皇延曆十一年より淳和天皇天長十年に至る四十二年間は、逸文の編輯に伴ひ改訂の必要ありしを以て、改訂を試みたれど、全篇に渉りて訂正するを得ざりしを遺憾とす。依

りて後日閑暇を得ば、十分に訂正して讀者に酬ゆる所あらむと欲す。此に之を一言して所思を明かにす。

昭和十六年二月二十五日

佐伯有義

六國史年表

神世七代

國常立尊

國狹槌尊

豐斟渟尊

埿土煑尊

沙土煑尊

大戶之道尊

大苫邊尊

面足尊

惶根尊

伊弉諾尊

伊弉冉尊

伊弉諾尊伊弉冉尊

二神共ニ夫婦ト爲テ大八洲國ヲ産ミ給フ　○山川草木ノ神ヲ生ミ次ニ日神大日孁貴、月神、蛭兒、素戔嗚尊ヲ生ミ給フ　○日神ニ天上ノ事ヲ授テ天ニ擧ゲ月神ヲモ天ニ送リ奉ル　○素戔嗚尊ノ無道ヲ怒リ根國ニ逐ヒ給フ　○伊弉冉尊ハ御子火神ヲ生ム時焦カレテ神避マシ伊弉諾尊ハ神功既ニ畢リ幽宮ヲ淡路之洲ニ構テ長ク隱レ坐シキ亦天ニ登リ報命日之少宮ニ留リ坐スト曰フ

天照大神

素戔嗚尊根國ニ就カムトシ姉尊ニ永ク別ヲ告ゲ奉ラムトシテ天ニ昇リシニ大神其神ノ暴惡ヲ知リ稜威ノ嘖讓ヲ發シテ詰問シ給フ誓

書紀二・神代紀下

約ニ依テ其正邪ヲ證セムトシ此ニ三女五男神生マレ給フ　○素戔嗚尊ノ暴行ニ因リ大神ハ發慍天石窟ニ入テ幽居シ給フ諸神其禱ルベキ方ヲ出シ奉リ罪過ヲ素戔嗚尊ニ歸シ千座置戸ヲ科セテ逐ヒ降シキ　○素戔嗚尊天ヨリ降リ出雲國簸之川ニ到テ八岐大蛇ヲ殺シ奇稻田姫ヲ娶テ妃トシ淸ノ地ニ宮ヲ建テ、共ニ住ミ給フ兒大己貴神生レ給フ一ニ曰ク大國主神ハ此神五世孫ナリト已ニシテ素戔嗚尊ハ根國ニ就デ坐シヌ

天津彦彦火瓊瓊杵尊

天照大神ノ御子正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊高皇產靈尊ノ女栲幡千千姫ヲ娶テ天津彦彦火瓊瓊杵尊ヲ生ミマス皇祖高皇產靈尊皇孫ヲ立テ葦原中國ノ主ト爲ムト欲ス然ルニ其國ニ邪神アルヲ以テ之ヲ撥ヒ平ゲムトシテ先ヅ天穗日命ヲ次ニ天稚彦ヲ遣シ最後ニ經津主神武甕槌神ヲ遣シテ大己貴神ト國避ノ事ヲ議セシム大己貴神勅ヲ奉ジテ八十隈ニ隱去リ其子事代主神ハ蒼柴籬ニ避リマシヌ是ニ於テ皇孫天降リテ吾田長屋笠狹之碕ニ到リ留マリ住ミ給フ大山祇神ノ女鹿葦津姫ヲ娶テ火闌降命彦火火出見尊ヲ生ミ給フ　○久シクマシ〱テ彦火瓊瓊杵尊崩ズ日向可愛之山陵ニ葬メ奉ル

彦火火出見尊

兄火闌降命ノ責徵ニ依テ海神ノ宮ニ至リ其女豐玉姫ヲ娶テ留マリ住ミ給フ兒彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊生レマシヌ後久シクシテ彦火火出見尊崩ズ日向高屋山上陵ニ葬メ奉ル

彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊

姨玉依姫ヲ以テ妃トシ彦五瀬命、稻飯命、三毛入野命、神日本磐余彦尊生レ給フ久シクマシ〱テ西洲之宮ニ崩ズ日向吾平山上陵ニ葬メ奉ル

神武 即位前紀

七	甲寅			十 天皇親ラ諸皇子舟師ヲ帥テ東征、十一 筑紫崗水門ニ至ル、十二 安藝國ニ至リ埃宮ニ坐ス
六	乙卯			三 吉備國ニ入リ高嶋宮ニ坐ス三年ノ間舟檝ヲ脩メ兵食ヲ蓄ヘ一擧以テ天下ヲ平ゲムト欲ス
五	丙辰			
四	丁巳			
三	戊午			二 皇師東行難波之碕ニ至ル、三 遡流河内國草香邑青雲白肩之津ニ至ル、四 皇師龍田ニ趣ク更ニ還テ膽駒山ヲ踰テ中洲ニ入ラムト欲ス長髓彦ト孔舍衛坂ニ會戰五瀬命流矢ニ中リ給フ、五 五瀬命竈山ニ至テ薨、六 名草戸畔ヲ誅ス、狹野ヲ越テ熊野神邑ニ至リ引軍漸進海中暴風ニ逢フ熊野荒坂津ニ至テ丹敷戸畔ヲ誅ス、皇軍毒氣ニ中リ振ハズ熊野高倉下神劍ヲ進ツル、八咫烏ノ鄕導ニ依リ菟田下縣ニ達ス、八 兄猾ヲ誅ス、天皇吉野巡幸、九 丹生川上ニ陟テ天神地祇ヲ敬祭、十 八十梟師ヲ國見丘ニ斬ル、十一 兄磯城等ヲ斬ル、十二 長髓彦ヲ撃ツ饒速日命長髓彦ヲ殺シテ歸順
二	己未			二 新城戸畔居勢祝猪祝及高尾張ノ土蜘蛛ヲ誅ス、三 畝傍山東南橿原地ニ帝宅ヲ經始ス
一	庚申			九 媛蹈韛五十鈴媛命ヲ納テ正妃トス

元	辛酉	一	紀三	正 天皇橿原宮ニ卽位、正妃媛蹈鞴五十鈴媛命ヲ皇后トス
二	壬戌	二	同	二 定功行賞道臣命ニ宅地ヲ賜ヒ珍彦ヲ倭國造弟猾ヲ猛田縣主弟磯城ヲ磯城縣主劔根ヲ葛城國造トス頭八咫烏亦賞ニ預ル
三	癸亥	三	同	
四	甲子	四	同	二 靈畤ヲ鳥見山中ニ立テ皇祖天神ヲ祭ル
五	乙丑	五	同	
六	丙寅	六	同	
七	丁卯	七	同	
八	戊辰	八	同	
九	己巳	九	同	
一〇	庚午	一〇	同	
一一	辛未	一一	同	
一二	壬申	一二	同	
一三	癸酉	一三	同	
一四	甲戌	一四	同	
一五	乙亥	一五	同	
一六	丙子	一六	同	
一七	丁丑	一七	同	
一八	戊寅	一八	同	
一九	己卯	一九	同	
二〇	庚辰	二〇	同	

二一	辛巳	二一	紀三	
二二	壬午	二二	同	
二三	癸未	二三	同	
二四	甲申	二四	同	
二五	乙酉	二五	同	
二六	丙戌	二六	同	
二七	丁亥	二七	同	
二八	戊子	二八	同	
二九	己丑	二九	同	
三〇	庚寅	三〇	同	
三一	辛卯	三一	同	**四** 皇輿巡幸腋上嗛間丘ニ登リ國狀ヲ望ミ給フ
三二	壬辰	三二	同	**正** 皇子神渟名川耳尊ヲ皇太子トス
三三	癸巳	三三	同	
三四	甲午	三四	同	
三五	乙未	三五	同	
三六	丙申	三六	同	
三七	丁酉	三七	同	
三八	戊戌	三八	同	
三九	己亥	三九	同	
四〇	庚子	四〇	同	

四一	辛丑	四一	同
四二	壬寅	四二	同
四三	癸卯	四三	同
四四	甲辰	四四	同
四五	乙巳	四五	同
四六	丙午	四六	同
四七	丁未	四七	同
四八	戊申	四八	同
四九	己酉	四九	同
五〇	庚戌	五〇	同
五一	辛亥	五一	同
五二	壬子	五二	同
五三	癸丑	五三	同
五四	甲寅	五四	同
五五	乙卯	五五	同
五六	丙辰	五六	同
五七	丁巳	五七	同
五八	戊午	五八	同
五九	己未	五九	同
六〇	庚申	六〇	同

年	干支	紀元	出典	事項
六一	辛酉	六一	紀三	
六二	壬戌	六二	同	
六三	癸亥	六三	同	
六四	甲子	六四	同	
六五	乙丑	六五	同	
六六	丙寅	六六	同	
六七	丁卯	六七	同	
六八	戊辰	六八	同	
六九	己巳	六九	同	
七〇	庚午	七〇	同	
七一	辛未	七一	同	
七二	壬申	七二	同	
七三	癸酉	七三	同	
七四	甲戌	七四	同	
七五	乙亥	七五	同	
七六	丙子	七六	同	三　天皇橿原宮ニ崩御年一百廿七歲
	丁丑	七七	同	
	戊寅	七八	同	
	己卯	七九	紀四	十一　手研耳命ヲ殺ス
綏靖 元	庚辰	八〇	同	正　即位、葛城高丘宮ニ遷給フ、神武天皇ヲ畝傍山東北陵ニ奉葬

二	辛巳	八一	同	正　五十鈴依媛ヲ皇后トス
三	壬午	八二	同	
四	癸未	八三	同	四　神八井耳命薨
五	甲申	八四	同	
六	乙酉	八五	同	
七	丙戌	八六	同	
八	丁亥	八七	同	
九	戊子	八八	同	
一〇	己丑	八九	同	
一一	庚寅	九〇	同	
一二	辛卯	九一	同	
一三	壬辰	九二	同	
一四	癸巳	九三	同	
一五	甲午	九四	同	
一六	乙未	九五	同	
一七	丙申	九六	同	
一八	丁酉	九七	同	
一九	戊戌	九八	同	
二〇	己亥	九九	同	
二一	庚子	一〇〇	同	

年	干支	紀元	出典	事項
二二	辛丑	一〇一	紀四	
二三	壬寅	一〇二	同	
二四	癸卯	一〇三	同	
二五	甲辰	一〇四	同	正 皇子磯城津彦玉手看尊ヲ皇太子トス
二六	乙巳	一〇五	同	
二七	丙午	一〇六	同	
二八	丁未	一〇七	同	
二九	戊申	一〇八	同	
三〇	己酉	一〇九	同	
三一	庚戌	一一〇	同	
三二	辛亥	一一一	同	
三三	壬子	一一二	同	五 天皇崩御年八十四
安寧				
元	癸丑	一一三	同	七 即位、十 綏靖天皇ヲ倭桃花鳥田丘上陵ニ奉葬
二	甲寅	一一四	同	是年片鹽浮孔宮ニ遷給フ
三	乙卯	一一五	同	正 渟名底仲媛命ヲ皇后トス
四	丙辰	一一六	同	
五	丁巳	一一七	同	
六	戊午	一一八	同	
七	己未	一一九	同	
八	庚申	一二〇	同	

九	辛酉	一二一	同	
一〇	壬戌	一二二	同	
一一	癸亥	一二三	同	正　大日本彦耜友尊ヲ皇太子トス
一二	甲子	一二四	同	
一三	乙丑	一二五	同	
一四	丙寅	一二六	同	
一五	丁卯	一二七	同	
一六	戊辰	一二八	同	
一七	己巳	一二九	同	
一八	庚午	一三〇	同	
一九	辛未	一三一	同	
二〇	壬申	一三二	同	
二一	癸酉	一三三	同	
二二	甲戌	一三四	同	
二三	乙亥	一三五	同	
二四	丙子	一三六	同	
二五	丁丑	一三七	同	
二六	戊寅	一三八	同	
二七	己卯	一三九	同	
二八	庚辰	一四〇	同	

年	干支	紀元	出典	事項
二九	辛巳	一四一	紀 四	
三〇	壬午	一四二	同	
三一	癸未	一四三	同	
三二	甲申	一四四	同	
三三	乙酉	一四五	同	
三四	丙戌	一四六	同	
三五	丁亥	一四七	同	
三六	戊子	一四八	同	
三七	己丑	一四九	同	
三八	庚寅	一五〇	同	十二 天皇崩御年五十七
元	辛卯	一五一	同	二 卽位、八 先帝ヲ畝傍山南御陰井上陵ニ奉葬
二	壬辰	一五二	同	正 輕曲峽宮ニ遷給フ、二 天豐津媛命ヲ皇后トス
三	癸巳	一五三	同	
四	甲午	一五四	同	
五	乙未	一五五	同	
六	丙申	一五六	同	
七	丁酉	一五七	同	
八	戊戌	一五八	同	
九	己亥	一五九	同	
一〇	庚子	一六〇	同	

年	干支	紀元		月	事項
一一	辛丑	一六一	同		
一二	壬寅	一六二	同		
一三	癸卯	一六三	同		
一四	甲辰	一六四	同		
一五	乙巳	一六五	同		
一六	丙午	一六六	同		
一七	丁未	一六七	同		
一八	戊申	一六八	同		
一九	己酉	一六九	同		
二〇	庚戌	一七〇	同		
二一	辛亥	一七一	同		
二二	壬子	一七二	同	二	觀松彦香殖稻尊ヲ皇太子トス
二三	癸丑	一七三	同		
二四	甲寅	一七四	同		
二五	乙卯	一七五	同		
二六	丙辰	一七六	同		
二七	丁巳	一七七	同		
二八	戊午	一七八	同		
二九	己未	一七九	同		
三〇	庚申	一八〇	同		

年	干支	紀元	紀	事項
三一	辛酉	一八一	紀四	
三二	壬戌	一八二	同	
三三	癸亥	一八三	同	
三四	甲子	一八四	同	九　天皇崩御
	乙丑	一八五	同	十　天皇ヲ畝傍山南纖沙谿上陵ニ奉葬
孝昭 元	丙寅	一八六	同	正　即位、七　掖上池心宮ニ遷給フ
二	丁卯	一八七	同	
三	戊辰	一八八	同	
四	己巳	一八九	同	
五	庚午	一九〇	同	
六	辛未	一九一	同	
七	壬申	一九二	同	
八	癸酉	一九三	同	
九	甲戌	一九四	同	
一〇	乙亥	一九五	同	
一一	丙子	一九六	同	
一二	丁丑	一九七	同	
一三	戊寅	一九八	同	
一四	己卯	一九九	同	
一五	庚辰	二〇〇	同	

一六	辛巳	二〇一	同	
一七	壬午	二〇二	同	
一八	癸未	二〇三	同	
一九	甲申	二〇四	同	
二〇	乙酉	二〇五	同	
二一	丙戌	二〇六	同	
二二	丁亥	二〇七	同	
二三	戊子	二〇八	同	
二四	己丑	二〇九	同	
二五	庚寅	二一〇	同	
二六	辛卯	二一一	同	
二七	壬辰	二一二	同	
二八	癸巳	二一三	同	
二九	甲午	二一四	同	正　世襲足媛ヲ皇后トス
三〇	乙未	二一五	同	
三一	丙申	二一六	同	
三二	丁酉	二一七	同	
三三	戊戌	二一八	同	
三四	己亥	二一九	同	
三五	庚子	二二〇	同	

三六	辛丑	一二一	紀四
三七	壬寅	一二二	同
三八	癸卯	一二三	同
三九	甲辰	一二四	同
四〇	乙巳	一二五	同
四一	丙午	一二六	同
四二	丁未	一二七	同
四三	戊申	一二八	同
四四	己酉	一二九	同
四五	庚戌	一三〇	同
四六	辛亥	一三一	同
四七	壬子	一三二	同
四八	癸丑	一三三	同
四九	甲寅	一三四	同
五〇	乙卯	一三五	同
五一	丙辰	一三六	同
五二	丁巳	一三七	同
五三	戊午	一三八	同
五四	己未	一三九	同
五五	庚申	一四〇	同

五六	辛酉	二四一	同	
五七	壬戌	二四二	同	
五八	癸亥	二四三	同	
五九	甲子	二四四	同	
六〇	乙丑	二四五	同	
六一	丙寅	二四六	同	
六二	丁卯	二四七	同	
六三	戊辰	二四八	同	
六四	己巳	二四九	同	
六五	庚午	二五〇	同	
六六	辛未	二五一	同	
六七	壬申	二五二	同	
六八	癸酉	二五三	同	正 日本足彦國押人尊ヲ皇太子トス
六九	甲戌	二五四	同	
七〇	乙亥	二五五	同	
七一	丙子	二五六	同	
七二	丁丑	二五七	同	
七三	戊寅	二五八	同	
七四	己卯	二五九	同	
七五	庚辰	二六〇	同	

年	干支	紀元	出典	事項
七六	辛巳	二六一	紀四	
七七	壬午	二六二	同	
七八	癸未	二六三	同	
七九	甲申	二六四	同	
八〇	乙酉	二六五	同	
八一	丙戌	二六六	同	
八二	丁亥	二六七	同	
八三	戊子	二六八	同	八　天皇崩御
元	己丑	二六九	同	正　即位
二	庚寅	二七〇	同	十　室秋津嶋宮ニ遷給フ
三	辛卯	二七一	同	
四	壬辰	二七二	同	
五	癸巳	二七三	同	
六	甲午	二七四	同	
七	乙未	二七五	同	
八	丙申	二七六	同	
九	丁酉	二七七	同	
一〇	戊戌	二七八	同	
一一	己亥	二七九	同	
一二	庚子	二八〇	同	

一三	辛丑	二八一	同	
一四	壬寅	二八二	同	
一五	癸卯	二八三	同	
一六	甲辰	二八四	同	
一七	乙巳	二八五	同	
一八	丙午	二八六	同	
一九	丁未	二八七	同	
二〇	戊申	二八八	同	
二一	己酉	二八九	同	
二二	庚戌	二九〇	同	
二三	辛亥	二九一	同	
二四	壬子	二九二	同	
二五	癸丑	二九三	同	
二六	甲寅	二九四	同	二　押媛ヲ皇后トス
二七	乙卯	二九五	同	
二八	丙辰	二九六	同	
二九	丁巳	二九七	同	
三〇	戊午	二九八	同	
三一	己未	二九九	同	
三二	庚申	三〇〇	同	

三三	辛酉	三〇一	紀四	
三四	壬戌	三〇二	同	
三五	癸亥	三〇三	同	
三六	甲子	三〇四	同	
三七	乙丑	三〇五	同	
三八	丙寅	三〇六	同	八　先帝ヲ掖上博多山上陵ニ奉葬
三九	丁卯	三〇七	同	
四〇	戊辰	三〇八	同	
四一	己巳	三〇九	同	
四二	庚午	三一〇	同	
四三	辛未	三一一	同	
四四	壬申	三一二	同	
四五	癸酉	三一三	同	
四六	甲戌	三一四	同	
四七	乙亥	三一五	同	
四八	丙子	三一六	同	
四九	丁丑	三一七	同	
五〇	戊寅	三一八	同	
五一	己卯	三一九	同	
五二	庚辰	三二〇	同	

五三	辛巳	三二一	同
五四	壬午	三二二	同
五五	癸未	三二三	同
五六	甲申	三二四	同
五七	乙酉	三二五	同
五八	丙戌	三二六	同
五九	丁亥	三二七	同
六〇	戊子	三二八	同
六一	己丑	三二九	同
六二	庚寅	三三〇	同
六三	辛卯	三三一	同
六四	壬辰	三三二	同
六五	癸巳	三三三	同
六六	甲午	三三四	同
六七	乙未	三三五	同
六八	丙申	三三六	同
六九	丁酉	三三七	同
七〇	戊戌	三三八	同
七一	己亥	三三九	同
七二	庚子	三四〇	同

七三	辛丑	二四一	紀四	
七四	壬寅	二四二	同	
七五	癸卯	二四三	同	
七六	甲辰	二四四	同	正　大日本根子彦太瓊尊ヲ皇太子トス
七七	乙巳	二四五	同	
七八	丙午	二四六	同	
七九	丁未	二四七	同	
八〇	戊申	二四八	同	
八一	己酉	二四九	同	
八二	庚戌	二五〇	同	
八三	辛亥	二五一	同	
八四	壬子	二五二	同	
八五	癸丑	二五三	同	
八六	甲寅	二五四	同	
八七	乙卯	二五五	同	
八八	丙辰	二五六	同	
八九	丁巳	二五七	同	
九〇	戊午	二五八	同	
九一	己未	二五九	同	
九二	庚申	二六〇	同	

年	干支	紀元		事項
九三	辛酉	三六一	同	
九四	壬戌	三六二	同	
九五	癸亥	三六三	同	
九六	甲子	三六四	同	
九七	乙丑	三六五	同	
九八	丙寅	三六六	同	
九九	丁卯	三六七	同	
一〇〇	戊辰	三六八	同	
一〇一	己巳	三六九	同	
一〇二	庚午	三七〇	同	**正** 天皇崩、**九** 玉手丘上陵ニ奉葬、**十二** 黒田廬戸宮ニ遷給フ
元	辛未	三七一	同	**正** 即位
二	壬申	三七二	同	**二** 細媛命ヲ皇后トス
三	癸酉	三七三	同	
四	甲戌	三七四	同	
五	乙亥	三七五	同	
六	丙子	三七六	同	
七	丁丑	三七七	同	
八	戊寅	三七八	同	
九	己卯	三七九	同	
一〇	庚辰	三八〇	同	

一一	辛巳	三八一	紀四	
一二	壬午	三八二	同	
一三	癸未	三八三	同	
一四	甲申	三八四	同	
一五	乙酉	三八五	同	
一六	丙戌	三八六	同	
一七	丁亥	三八七	同	
一八	戊子	三八八	同	
一九	己丑	三八九	同	
二〇	庚寅	三九〇	同	
二一	辛卯	三九一	同	
二二	壬辰	三九二	同	
二三	癸巳	三九三	同	
二四	甲午	三九四	同	
二五	乙未	三九五	同	
二六	丙申	三九六	同	
二七	丁酉	三九七	同	
二八	戊戌	三九八	同	
二九	己亥	三九九	同	
三〇	庚子	四〇〇	同	

三一	辛丑	四〇一	同	
三二	壬寅	四〇二	同	
三三	癸卯	四〇三	同	
三四	甲辰	四〇四	同	
三五	乙巳	四〇五	同	
三六	丙午	四〇六	同	正 彥國牽尊ヲ皇太子トス
三七	丁未	四〇七	同	
三八	戊申	四〇八	同	
三九	己酉	四〇九	同	
四〇	庚戌	四一〇	同	
四一	辛亥	四一一	同	
四二	壬子	四一二	同	
四三	癸丑	四一三	同	
四四	甲寅	四一四	同	
四五	乙卯	四一五	同	
四六	丙辰	四一六	同	
四七	丁巳	四一七	同	
四八	戊午	四一八	同	
四九	己未	四一九	同	
五〇	庚申	四二〇	同	

五一	辛酉	四二一	紀四
五二	壬戌	四二二	同
五三	癸亥	四二三	同
五四	甲子	四二四	同
五五	乙丑	四二五	同
五六	丙寅	四二六	同
五七	丁卯	四二七	同
五八	戊辰	四二八	同
五九	己巳	四二九	同
六〇	庚午	四三〇	同
六一	辛未	四三一	同
六二	壬申	四三二	同
六三	癸酉	四三三	同
六四	甲戌	四三四	同
六五	乙亥	四三五	同
六六	丙子	四三六	同
六七	丁丑	四三七	同
六八	戊寅	四三八	同
六九	己卯	四三九	同
七〇	庚辰	四四〇	同

孝元

年	干支	紀元		事項
七一	辛巳	四四一	同	
七二	壬午	四四二	同	
七三	癸未	四四三	同	
七四	甲申	四四四	同	
七五	乙酉	四四五	同	
七六	丙戌	四四六	同	二　天皇崩御
元	丁亥	四四七	同	正　即位
二	戊子	四四八	同	
三	己丑	四四九	同	
四	庚寅	四五〇	同	三　輕境原宮ニ遷給フ
五	辛卯	四五一	同	
六	壬辰	四五二	同	九　先帝ヲ片丘馬坂陵ニ奉葬
七	癸巳	四五三	同	二　欝色謎命ヲ皇后トス
八	甲午	四五四	同	
九	乙未	四五五	同	
一〇	丙申	四五六	同	
一一	丁酉	四五七	同	
一二	戊戌	四五八	同	
一三	己亥	四五九	同	
一四	庚子	四六〇	同	

年	干支	紀元	出典	事項
一五	辛丑	四六一	紀四	
一六	壬寅	四六二	同	
一七	癸卯	四六三	同	
一八	甲辰	四六四	同	
一九	乙巳	四六五	同	
二〇	丙午	四六六	同	
二一	丁未	四六七	同	
二二	戊申	四六八	同	正　稚日本根子彥大日日尊ヲ皇太子トス
二三	己酉	四六九	同	
二四	庚戌	四七〇	同	
二五	辛亥	四七一	同	
二六	壬子	四七二	同	
二七	癸丑	四七三	同	
二八	甲寅	四七四	同	
二九	乙卯	四七五	同	
三〇	丙辰	四七六	同	
三一	丁巳	四七七	同	
三二	戊午	四七八	同	
三三	己未	四七九	同	
三四	庚申	四八〇	同	

三五	辛酉	四八一	同
三六	壬戌	四八二	同
三七	癸亥	四八三	同
三八	甲子	四八四	同
三九	乙丑	四八五	同
四〇	丙寅	四八六	同
四一	丁卯	四八七	同
四二	戊辰	四八八	同
四三	己巳	四八九	同
四四	庚午	四九〇	同
四五	辛未	四九一	同
四六	壬申	四九二	同
四七	癸酉	四九三	同
四八	甲戌	四九四	同
四九	乙亥	四九五	同
五〇	丙子	四九六	同
五一	丁丑	四九七	同
五二	戊寅	四九八	同
五三	己卯	四九九	同
五四	庚辰	五〇〇	同

年	干支	紀元		事項
五五	辛巳	五〇一	紀四	
五六	壬午	五〇二	同	
五七	癸未	五〇三	同	**九** 天皇崩御、**十一** 太子即位
元	甲申	五〇四	同	**十** 春日率川宮ニ遷給フ
二	乙酉	五〇五	同	
三	丙戌	五〇六	同	
四	丁亥	五〇七	同	
五	戊子	五〇八	同	**二** 先帝ヲ劔池嶋上陵ニ奉葬
六	己丑	五〇九	同	**正** 伊香色謎命ヲ皇后トス
七	庚寅	五一〇	同	
八	辛卯	五一一	同	
九	壬辰	五一二	同	
一〇	癸巳	五一三	同	
一一	甲午	五一四	同	
一二	乙未	五一五	同	
一三	丙申	五一六	同	
一四	丁酉	五一七	同	
一五	戊戌	五一八	同	
一六	己亥	五一九	同	
一七	庚子	五二〇	同	

一八	辛丑	五二一	同	
一九	壬寅	五二二	同	
二〇	癸卯	五二三	同	
二一	甲辰	五二四	同	
二二	乙巳	五二五	同	
二三	丙午	五二六	同	
二四	丁未	五二七	同	
二五	戊申	五二八	同	
二六	己酉	五二九	同	
二七	庚戌	五三〇	同	
二八	辛亥	五三一	同	正 御間城入彦尊ヲ皇太子トス
二九	壬子	五三二	同	
三〇	癸丑	五三三	同	
三一	甲寅	五三四	同	
三二	乙卯	五三五	同	
三三	丙辰	五三六	同	
三四	丁巳	五三七	同	
三五	戊午	五三八	同	
三六	己未	五三九	同	
三七	庚申	五四〇	同	

三八	辛酉	五四一	紀四
三九	壬戌	五四二	同
四〇	癸亥	五四三	同
四一	甲子	五四四	同
四二	乙丑	五四五	同
四三	丙寅	五四六	同
四四	丁卯	五四七	同
四五	戊辰	五四八	同
四六	己巳	五四九	同
四七	庚午	五五〇	同
四八	辛未	五五一	同
四九	壬申	五五二	同
五〇	癸酉	五五三	同
五一	甲戌	五五四	同
五二	乙亥	五五五	同
五三	丙子	五五六	同
五四	丁丑	五五七	同
五五	戊寅	五五八	同
五六	己卯	五五九	同
五七	庚辰	五六〇	同

五八	辛巳	五六一	同	
五九	壬午	五六二	同	
六〇	癸未	五六三	同	四 天皇崩御、十 春日率川坂本陵ニ奉葬
元	甲申	五六四	紀五	正 即位、二 御間城姫ヲ皇后トス
二	乙酉	五六五	同	
三	丙戌	五六六	同	九 磯城瑞籬宮ニ遷給フ
四	丁亥	五六七	同	十 群卿百僚ノ忠貞ヲ奨勵ス
五	戊子	五六八	同	是年國内疾疫流行死亡者大半
六	己丑	五六九	同	百姓流離背叛ス、罪ヲ神祇ニ請給フ、天照大神ヲ倭笠縫邑ニ祭リ日本大國魂神ヲ渟名城入姫命ニ託シテ祭ラシメ給フ
七	庚寅	五七〇	同	二 天皇淺茅原ニ八十萬神ヲ祀給フ、十一 太田田根子ヲシテ大物主大神ヲ市磯長尾市ヲシテ倭大國魂神ヲ祀ラシム、天社國社及神地神戸ヲ定ム、疫病始テ止ム
八	辛卯	五七一	同	十二 大神神社行幸
九	壬辰	五七二	同	四 赤盾赤矛ヲ以テ墨坂神ヲ黒盾黒矛ヲ以テ大坂神ヲ祠ル
一〇	癸巳	五七三	同	九 大彦命ヲ北陸ニ武渟川別ヲ東海ニ吉備津彦ヲ西海ニ丹波道主命ヲ丹波ニ遣ス、武埴安彦謀反、倭迹々日百襲姫命薨ズ、十 四道將軍出發
一一	甲午	五七四	同	四 四道將軍復奏、是歳異俗歸化
一二	乙未	五七五	同	九 人民ヲ校ヘ調役ヲ科ス
一三	丙申	五七六	同	
一四	丁酉	五七七	同	
一五	戊戌	五七八	同	
一六	己亥	五七九	同	
一七	庚子	五八〇	同	十 諸國ヲシテ船舶ヲ造ラシム

年	干支	紀元	出典	
一八	辛丑	五八一	紀五	
一九	壬寅	五八二	同	
二〇	癸卯	五八三	同	
二一	甲辰	五八四	同	
二二	乙巳	五八五	同	
二三	丙午	五八六	同	
二四	丁未	五八七	同	
二五	戊申	五八八	同	
二六	己酉	五八九	同	
二七	庚戌	五九〇	同	
二八	辛亥	五九一	同	
二九	壬子	五九二	同	
三〇	癸丑	五九三	同	
三一	甲寅	五九四	同	
三二	乙卯	五九五	同	
三三	丙辰	五九六	同	
三四	丁巳	五九七	同	
三五	戊午	五九八	同	
三六	己未	五九九	同	
三七	庚申	六〇〇	同	

三八	辛酉	六〇一	同	
三九	壬戌	六〇二	同	
四〇	癸亥	六〇三	同	
四一	甲子	六〇四	同	
四二	乙丑	六〇五	同	
四三	丙寅	六〇六	同	
四四	丁卯	六〇七	同	
四五	戊辰	六〇八	同	
四六	己巳	六〇九	同	
四七	庚午	六一〇	同	
四八	辛未	六一一	同	四　皇子活目尊ヲ皇太子トシ豐城命ヲシテ東國ヲ治メシメ給フ
四九	壬申	六一二	同	
五〇	癸酉	六一三	同	
五一	甲戌	六一四	同	
五二	乙亥	六一五	同	
五三	丙子	六一六	同	
五四	丁丑	六一七	同	
五五	戊寅	六一八	同	
五六	己卯	六一九	同	
五七	庚辰	六二〇	同	

年	干支	紀元	紀	事項
五八	辛巳	六二一	紀五	
五九	壬午	六二二	同	
六〇	癸未	六二三	同	**七** 出雲大神ノ神寶ヲ献ラシメ給フ出雲振根其弟ヲ殺ス使ヲ遣シテ振根ヲ誅ス出雲臣等畏テ大神ヲ祭ラズ勅シテ之ヲ祭ラシム
六一	甲申	六二四	同	
六二	乙酉	六二五	同	**七** 河内國ニ池溝ヲ掘ラシム、**十** 依網池ヲ作ル、**十一** 苅坂池反折池ヲ作ル
六三	丙戌	六二六	同	
六四	丁亥	六二七	同	
六五	戊子	六二八	同	**七** 任那國蘇那曷叱知ヲ遣シ朝貢
六六	己丑	六二九	同	
六七	庚寅	六三〇	同	
六八	辛卯	六三一	同	**十二** 天皇崩御年百廿歳
元	壬辰	六三二	紀六	**正** 即位、**十** 先帝ヲ山邊道上陵ニ奉葬
二	癸巳	六三三	同	**二** 狭穗姫ヲ皇后トス、**十** 纒向珠城宮ニ遷給フ、蘇那曷叱智歸國
三	甲午	六三四	同	**三** 新羅王子天日槍來朝、將來物ヲ但馬國ニ藏シ神寶トス
四	乙未	六三五	同	
五	丙申	六三六	同	**十** 天皇久目高宮ニ幸ス、狭穗彦王謀反八綱田ニ命ジ之ヲ討タシム、皇后崩ズ
六	丁酉	六三七	同	
七	戊戌	六三八	同	**七** 當麻蹶速野見宿禰ト角力ス
八	己亥	六三九	同	
九	庚子	六四〇	同	

年	干支	紀元	天皇	事蹟
一〇	辛丑	六四一	同	
一一	壬寅	六四二	同	
一二	癸卯	六四三	同	
一三	甲辰	六四四	同	
一四	乙巳	六四五	同	
一五	丙午	六四六	同	**二** 丹波道主王ノ五女ヲ掖庭ニ納ル、**八** 日葉酢媛ヲ皇后トス
一六	丁未	六四七	同	
一七	戊申	六四八	同	
一八	己酉	六四九	同	
一九	庚戌	六五〇	同	
二〇	辛亥	六五一	同	
二一	壬子	六五二	同	
二二	癸丑	六五三	同	
二三	甲寅	六五四	同	**十一** 湯河板擧鵠ヲ獻ル鳥取造ノ姓ヲ賜ヒ鳥取部鳥養部譽津部ヲ定ム
二四	乙卯	六五五	同	
二五	丙辰	六五六	同	**二** 五大夫ニ詔シ神祇ノ祭祀ヲ重ムジ給フ、**三** 倭姫命天照大神ヲ奉ジテ鎭座ノ地ヲ求メ其祠ヲ伊勢國五十鈴川上ニ建テ給フ
二六	丁巳	六五七	同	**八** 物部十千根大連ニ勅シ出雲神寶ヲ撿挍シ之ヲ掌ラシム
二七	戊午	六五八	同	**八** 始テ兵器ヲ以テ神祇ヲ祭リ神地神戸ヲ定ム、是歳屯倉ヲ來目邑ニ興ス
二八	己未	六五九	同	**十** 皇弟倭彦命薨、**十一** 倭彦命ヲ葬ル此時殉死ヲ禁ズ
二九	庚申	六六〇	同	

三〇	辛酉	六六一	紀　六	正　五十瓊敷命大足彦尊ニ詔シ其所願ニヨリ兄王ニハ弓矢ヲ賜ヒ弟王ニハ皇位ヲ繼ガシメ給フ（西暦紀元元年）
三一	壬戌	六六二	同	
三二	癸亥	六六三	同	七　皇后日葉酢媛命薨ズ野見宿禰ニ詔シテ埴輪ヲ作リ殉死ニ代ヘシム
三三	甲子	六六四	同	
三四	乙丑	六六五	同	三　山背ニ幸ス
三五	丙寅	六六六	同	九　河内國高石池茅渟池ヲ作ル、十　倭狹城池迹見池ヲ作ル、是歲諸國ニ令シ八百餘ノ池溝ヲ掘ラシム
三六	丁卯	六六七	同	
三七	戊辰	六六八	同	正　大足彦尊ヲ皇太子トス
三八	己巳	六六九	同	
三九	庚午	六七〇	同	十　五十瓊敷命ヲシテ劍一千口ヲ作リ石上神宮ニ藏メ命ヲシテ之ヲ主ラシム
四〇	辛未	六七一	同	
四一	壬申	六七二	同	
四二	癸酉	六七三	同	
四三	甲戌	六七四	同	
四四	乙亥	六七五	同	
四五	丙子	六七六	同	
四六	丁丑	六七七	同	
四七	戊寅	六七八	同	
四八	己卯	六七九	同	
四九	庚辰	六八〇	同	

五〇	辛巳	六八一	同
五一	壬午	六八二	同
五二	癸未	六八三	同
五三	甲申	六八四	同
五四	乙酉	六八五	同
五五	丙戌	六八六	同
五六	丁亥	六八七	同
五七	戊子	六八八	同
五八	己丑	六八九	同
五九	庚寅	六九〇	同
六〇	辛卯	六九一	同
六一	壬辰	六九二	同
六二	癸巳	六九三	同
六三	甲午	六九四	同
六四	乙未	六九五	同
六五	丙申	六九六	同
六六	丁酉	六九七	同
六七	戊戌	六九八	同
六八	己亥	六九九	同
六九	庚子	七〇〇	同

年	干支	紀元	出典	事項
七〇	辛丑	七〇一	紀六	
七一	壬寅	七〇二	同	
七二	癸卯	七〇三	同	
七三	甲辰	七〇四	同	
七四	乙巳	七〇五	同	
七五	丙午	七〇六	同	
七六	丁未	七〇七	同	
七七	戊申	七〇八	同	
七八	己酉	七〇九	同	
七九	庚戌	七一〇	同	
八〇	辛亥	七一一	同	
八一	壬子	七一二	同	
八二	癸丑	七一三	同	
八三	甲寅	七一四	同	
八四	乙卯	七一五	同	
八五	丙辰	七一六	同	
八六	丁巳	七一七	同	
八七	戊午	七一八	同	二　五十瓊敷命ニ代リ物部十千根石上神宮ノ神寶ヲ治ム此後物部連世々之ヲ治ム
八八	己未	七一九	同	七　但馬ニ在ル天日槍將來ノ神寶ヲ献ラシム
八九	庚申	七二〇	同	

年	干支	紀元		事項
九〇	辛酉	七二一	同	二 田道間守ヲ常世國ニ遣シ非時香菓ヲ求メシム
九一	壬戌	七二二	同	
九二	癸亥	七二三	同	
九三	甲子	七二四	同	
九四	乙丑	七二五	同	
九五	丙寅	七二六	同	
九六	丁卯	七二七	同	
九七	戊辰	七二八	同	
九八	己巳	七二九	同	
九九	庚午	七三〇	同	七 天皇纒向宮ニ崩御年百卅歳、十二 菅原伏見陵ニ奉葬
元	辛未	七三一	紀七	三 田道間守常世國ヨリ還歸、七 卽位
二	壬申	七三二	同	三 播磨稻日大郎姫ヲ皇后トス
三	癸酉	七三三	同	二 屋主忍男武雄心命ヲシテ神祇ヲ祭ラシム
四	甲戌	七三四	同	二 美濃ニ行幸八坂入媛ヲ納テ妃トス此御代諸皇子ヲ國郡ニ封ジ就キテ治メシメ給フ、十一 美濃ヨリ還幸更ニ纒向ニ都ス日代宮ト謂フ
五	乙亥	七三五	同	
六	丙子	七三六	同	
七	丁丑	七三七	同	
八	戊寅	七三八	同	
九	己卯	七三九	同	
一〇	庚辰	七四〇	同	

一一	辛巳	七四一	紀七	
一二	壬午	七四二	同	七 熊襲反ス、八 筑紫ニ行幸、九 周芳ノ娑麼ニ幸ス、十 碩田國ニ到リ速見邑ニ幸ス、來田見邑ニ留リ土蜘蛛ヲ誅ス、十一 日向高屋ノ行宮ニ駐蹕
一三	癸未	七四三	同	五 襲國悉ク平グ高屋宮ニ坐スコト六年御刀媛ヲ妃トス
一四	甲申	七四四	同	
一五	乙酉	七四五	同	
一六	丙戌	七四六	同	
一七	丁亥	七四七	同	三 子湯縣丹裳小野ニ幸ス國名ヲ日向ト命ジ給フ
一八	戊子	七四八	同	三 還幸途次筑紫ヲ巡狩シ夷守ニ到給フ、四 葦北小嶋ニ幸ス、五 火國八代縣豐村ニ幸ス、六 高來縣ヨリ玉杵名邑ニ至テ土蜘蛛ヲ誅シ阿蘇國ニ到ル、七 筑後國御木ニ到リ高田行宮ニ居シ八女縣ニ幸ス、八 的邑ニ幸ス
一九	己丑	七四九	同	九 天皇日向ヨリ還幸
二〇	庚寅	七五〇	同	二 五百野皇女ヲ遣シ天照大神ヲ祭ラシム
二一	辛卯	七五一	同	
二二	壬辰	七五二	同	
二三	癸巳	七五三	同	
二四	甲午	七五四	同	
二五	乙未	七五五	同	七 武内宿禰ヲシテ北陸及東方諸國ノ地形消息ヲ察セシム
二六	丙申	七五六	同	
二七	丁酉	七五七	同	二 武内宿禰復奏、八 熊襲反シ邊境ヲ侵ス、十 日本武尊ヲ遣シ熊襲ヲ撃タシム、十二 尊熊襲國ニ到リ川上梟帥ヲ殺シ其黨ヲ殄滅ス
二八	戊戌	七五八	同	二 日本武尊熊襲征服ノ狀ヲ奏ス
二九	己亥	七五九	同	
三〇	庚子	七六〇	同	

三一	辛丑	七六一	同	
三二	壬寅	七六二	同	
三三	癸卯	七六三	同	
三四	甲辰	七六四	同	
三五	乙巳	七六五	同	
三六	丙午	七六六	同	
三七	丁未	七六七	同	
三八	戊申	七六八	同	
三九	己酉	七六九	同	
四〇	庚戌	七七〇	同	六東夷騷動、七天皇日本武尊ヲシテ征討セシメ給フ、十尊出發、伊勢神宮ヲ拜シ倭姫命ヨリ草薙劍ヲ賜ハル、是歳尊燒津ニ賊ヲ伐チ相摸ヨリ上總ヲ經テ陸奧ニ入ル賊酋等降リ蝦夷既ニ平グ、日高見國ヨリ常陸ヲ經テ甲斐國ニ入リ北轉武藏上野信濃ヲ經テ美濃ニ出デ尾張ニ還リ宮簀媛ヲ娶ル膽吹山ニ大蛇ヲ殺シ伊勢能褒野ニ薨ズ此年天皇四十三年
四一	辛亥	七七一	同	
四二	壬子	七七二	同	
四三	癸丑	七七三	同	
四四	甲寅	七七四	同	
四五	乙卯	七七五	同	
四六	丙辰	七七六	同	
四七	丁巳	七七七	同	
四八	戊午	七七八	同	
四九	己未	七七九	同	
五〇	庚申	七八〇	同	

年	干支	紀元	出典	事項
五一	辛酉	七八一	紀七	八 稚足彦尊ヲ皇太子トシ武内宿禰ヲ棟梁臣ト爲ス、日本武尊ノ神宮ニ進獻セラレシ俘虜ヲ更ニ播磨讃岐伊豫安藝阿波等ノ國ニ置カシム
五二	壬戌	七八二	同	五 皇后播磨大郎姫薨ズ、七 八坂入媛ヲ皇后トス
五三	癸亥	七八三	同	八 東國ヲ巡狩セムトシ給ヒ伊勢ヨリ東海ニ幸ス、十 上總ニ至リ海路淡水門ヲ渡ル磐鹿六雁庖厨ノ功ヲ賞シ膳大伴部ヲ給フ、十二 東國ヨリ伊勢ニ幸シテ綺宮ニ居マス
五四	甲子	七八四	同	九 伊勢ヨリ還幸纒向宮ニ居マス
五五	乙丑	七八五	同	二 彦狹嶋王ヲ東山道十五國都督ニ任ズ途ニ薨ズ
五六	丙寅	七八六	同	八 彦狹嶋王子御諸別王ヲシテ東國ヲ治メシム蝦夷騒動ス王之ヲ伐ツ、其首帥足振邊大羽振邊遠津闇男邊等降ル
五七	丁卯	七八七	同	九 坂手池ヲ造リ堤上ニ竹ヲ蒔ウ、十 諸國ニ令シテ田部屯倉ヲ興ス
五八	戊辰	七八八	同	二 近江ニ幸シ志賀高穴穗宮ニ在スコト三歳
五九	己巳	七八九	同	
六〇	庚午	七九〇	同	十一 天皇高穴穗宮ニ崩御年一百六歳
元	辛未	七九一	同	正 即位
二	壬申	七九二	同	十一 先帝ヲ山邊道上陵ニ奉葬
三	癸酉	七九三	同	正 武内宿禰ヲ大臣ト爲ス
四	甲戌	七九四	同	二 詔シテ國郡ニ長ヲ縣邑ニ首ヲ置キ幹了者ヲ以テ之ニ充ツ
五	乙亥	七九五	同	九 諸國ニ令シテ國郡ニ造長ヲ縣邑ニ稻置ヲ置ク又國縣ヲ分チ邑里ヲ定メ及日縱日横影面背面ヲ定ム
六	丙子	七九六	同	
七	丁丑	七九七	同	
八	戊寅	七九八	同	
九	己卯	七九九	同	
一〇	庚辰	八〇〇	同	

年	干支	紀元	天皇	
一一	辛巳	八〇一	同	
一二	壬午	八〇二	同	
一三	癸未	八〇三	同	
一四	甲申	八〇四	同	
一五	乙酉	八〇五	同	
一六	丙戌	八〇六	同	
一七	丁亥	八〇七	同	
一八	戊子	八〇八	同	
一九	己丑	八〇九	同	
二〇	庚寅	八一〇	同	
二一	辛卯	八一一	同	
二二	壬辰	八一二	同	
二三	癸巳	八一三	同	
二四	甲午	八一四	同	
二五	乙未	八一五	同	
二六	丙申	八一六	同	
二七	丁酉	八一七	同	
二八	戊戌	八一八	同	
二九	己亥	八一九	同	
三〇	庚子	八二〇	同	

年	干支	紀元	出典	事項
三一	辛丑	八二一	紀七	
三二	壬寅	八二二	同	
三三	癸卯	八二三	同	
三四	甲辰	八二四	同	
三五	乙巳	八二五	同	
三六	丙午	八二六	同	
三七	丁未	八二七	同	
三八	戊申	八二八	同	
三九	己酉	八二九	同	
四〇	庚戌	八三〇	同	
四一	辛亥	八三一	同	
四二	壬子	八三二	同	
四三	癸丑	八三三	同	
四四	甲寅	八三四	同	
四五	乙卯	八三五	同	
四六	丙辰	八三六	同	
四七	丁巳	八三七	同	
四八	戊午	八三八	同	三　皇甥足仲彦尊ヲ立テ、皇太子トナス
四九	己未	八三九	同	
五〇	庚申	八四〇	同	

年	干支	紀元	出典	事蹟
五一	辛酉	八四一	同	
五二	壬戌	八四二	同	
五三	癸亥	八四三	同	
五四	甲子	八四四	同	
五五	乙丑	八四五	同	
五六	丙寅	八四六	同	
五七	丁卯	八四七	同	
五八	戊辰	八四八	同	
五九	己巳	八四九	同	
六〇	庚午	八五〇	同	**六** 天皇崩御年一百七歳
	辛未	八五一	同	**九** 天皇ヲ倭國狹城盾列陵ニ奉葬
元	壬申	八五二	紀 八	**正** 即位、**十一** 父王日本武尊ノ陵池ニ放ツベキ白鳥ヲ貢ラシム、**閏十一** 異母弟蘆髮蒲見別王ノ無禮ヲ惡ミ之ヲ誅ス
二	癸酉	八五三	同	**正** 氣長足姫尊ヲ皇后トス、**二** 角鹿ニ幸シ笥飯行宮ヲ興シテ之ニ居マス、淡路屯倉ヲ定ム、**三** 天皇南國巡狩紀伊國徳勒津宮ニ居マス時ニ熊襲反ス天皇之ヲ討タムトシテ海路穴門ニ幸ス、**六** 天皇豐浦津ニ泊給フ、**七** 皇后角鹿ヲ發シ豐浦津ニ泊給フ、**九** 穴門ニ豐浦宮ヲ建テ此ニ居マス
三	甲戌	八五四	同	
四	乙亥	八五五	同	
五	丙子	八五六	同	
六	丁丑	八五七	同	
七	戊寅	八五八	同	
八	己卯	八五九	同	**正** 筑紫ニ幸ス、熊鰐本迎魚鹽地ヲ献ズ、皇后別船洞海ヨリ入テ崗津ニ泊シ儺縣ニ到リ橿日宮ニ居マス、**九** 群臣ト熊襲ヲ伐ムコトヲ議ス天皇神託ヲ信ゼズ熊襲ヲ討チ勝ヲ得ズ橿日宮ニ還御
九	庚辰	八六〇	同	**二** 天皇崩御年五十二、皇后喪ヲ秘シ穴門豐浦宮ニ殯ス、**三** 齋宮ヲ小山田邑ニ造テ神祇ヲ祭シ後熊襲ヲ討タシメ給フ、**四** 新羅征討ヲ誓給フ、**九** 船舶ヲ集ヘ兵甲ヲ練ラシム、**十** 和珥津ヨリ發シ新羅ニ向フ新羅王戰ハズシテ降ル、高麗百濟王次デ降ル内官家ヲ定ム、**十二** 譽田天皇筑紫宇瀰ニ生誕、住吉荒魂神ヲ穴門山田邑ニ祀ル

年	干支	紀元		事項
元	辛巳	八六一	紀九	二 皇后穴門豐浦宮ニ移リ天皇ノ喪ヲ收メ京ニ向給フ、麛坂王忍熊王兵ヲ集ム、二王菟餓野ニ祈狩シ麛坂王猪ニ咋ハル忍熊王住吉ニ退ク皇后親ラ難波ニ向給フ、三 忍熊王瀬田濟ニ死ス、十 皇后ヲ尊テ皇太后ト云フ
二	壬午	八六二	同	十一 天皇ヲ河内國長野陵ニ奉葬
三	癸未	八六三	同	正 譽田別皇子ヲ皇太子トス、磐余若櫻宮ニ遷給フ
四	甲申	八六四	同	
五	乙酉	八六五	同	三 新羅王汙禮斯伐・毛麻利叱智・富羅母智ヲ遣シ朝貢シ先質微叱許智伐旱ヲ乞フ、葛城襲津彦ヲ添テ遣ス使者我ヲ欺ク、襲津彦怒リテ之ヲ殺シ新羅草羅城ヲ抜テ還ル
六	丙戌	八六六	同	
七	丁亥	八六七	同	
八	戊子	八六八	同	
九	己丑	八六九	同	
一〇	庚寅	八七〇	同	
一一	辛卯	八七一	同	
一二	壬辰	八七二	同	
一三	癸巳	八七三	同	二 武内宿禰ヲシテ太子ニ從ヒ笥飯大神ヲ拜セシム
一四	甲午	八七四	同	
一五	乙未	八七五	同	
一六	丙申	八七六	同	
一七	丁酉	八七七	同	
一八	戊戌	八七八	同	
一九	己亥	八七九	同	
二〇	庚子	八八〇	同	

二一	辛丑	八八一	同
二二	壬寅	八八二	同
二三	癸卯	八八三	同
二四	甲辰	八八四	同
二五	乙巳	八八五	同
二六	丙午	八八六	同
二七	丁未	八八七	同
二八	戊申	八八八	同
二九	己酉	八八九	同
三〇	庚戌	八九〇	同
三一	辛亥	八九一	同
三二	壬子	八九二	同
三三	癸丑	八九三	同
三四	甲寅	八九四	同
三五	乙卯	八九五	同
三六	丙辰	八九六	同
三七	丁巳	八九七	同
三八	戊午	八九八	同
三九	己未	八九九	同
四〇	庚申	九〇〇	同

年	干支	紀元	出典	事項
四一	辛酉	九〇一	紀九	
四二	壬戌	九〇二	同	
四三	癸亥	九〇三	同	
四四	甲子	九〇四	同	
四五	乙丑	九〇五	同	
四六	丙寅	九〇六	同	三 斯摩宿禰ヲ卓淳國ニ遣ス、卓淳王百濟ノ我ニ朝貢ノ意アルヲ告グ宿禰人ヲ遣シテ百濟肖古王ヲ慰勞ス
四七	丁卯	九〇七	同	四 百濟王久氐・彌州流・莫古ヲ使シテ朝貢セシム、新羅ノ使者共ニ到リテ貢物ヲ易フ、千熊長彦ヲ新羅ニ遣シテ問責セシム
四八	戊辰	九〇八	同	
四九	己巳	九〇九	同	三 荒田別・鹿我別ヲ將軍トシ久氐等ト新羅ヲ攻テ之ヲ破リ比自㶱以下七國ヲ平定シ古奚津ニ至リ南蠻忱彌多禮ヲ屠テ百濟ニ賜フ、千熊長彦及百濟王辟支山・古沙山ニ登リ國交ノ渝ラザルヲ誓フ
五〇	庚午	九一〇	同	二 荒田別百濟ヨリ還歸、五 千熊長彦久氐等亦還ル、皇太后久氐ニ詔シテ多沙城ヲ賜ヒ往還ノ驛トナサシム
五一	辛未	九一一	同	三 百濟久氐ヲシテ朝貢セシム、是年千熊長彦ヲ久氐ニ副テ百濟ニ遣ス
五二	壬申	九一二	同	九 久氐長彦ニ從ヒ又到リ重寶ヲ獻ジ朝貢ヲ續ケムコトヲ誓フ
五三	癸酉	九一三	同	
五四	甲戌	九一四	同	
五五	乙亥	九一五	同	百濟肖古王薨
五六	丙子	九一六	同	百濟王子貴須立テ王トナル
五七	丁丑	九一七	同	
五八	戊寅	九一八	同	
五九	己卯	九一九	同	
六〇	庚辰	九二〇	同	

應神

年	干支	紀元	紀	事項
六一	辛巳	九二一	同	新羅不朝、襲津彦ヲシテ撃タシム
六二	壬午	九二二	同	
六三	癸未	九二三	同	
六四	甲申	九二四	同	百済貴須王薨、王子枕流立テ王トナル
六五	乙酉	九二五	同	百済枕流王薨、王子阿花年少叔父辰斯王位ヲ奪フ
六六	丙戌	九二六	同	
六七	丁亥	九二七	同	
六八	戊子	九二八	同	
六九	己丑	九二九	同	四 皇太后崩百歳、十 狭城盾列陵ニ葬
元	庚寅	九三〇	紀十	正 即位
二	辛卯	九三一	同	三 仲姫ヲ皇后トス
三	壬辰	九三二	同	十 東蝦夷朝貢、蝦夷ヲ役シテ厩坂道ヲ作ラシム、十一 處々ノ海人騒グ大濱宿禰ヲシテ鎮メシメ其宰トス、是歳紀角宿禰等ヲ遣シ百済王辰斯ノ無禮ヲ責メ阿花ヲ立テ王トス
四	癸巳	九三三	同	
五	甲午	九三四	同	八 諸國ニ令シテ海人及山守部ヲ定ム、十 伊豆國ニ科シテ輕舟ヲ作ラシム
六	乙未	九三五	同	二 近江ニ幸ス
七	丙申	九三六	同	九 高麗百済任那新羅並ニ來朝、武内宿禰諸漢人ヲ率テ韓人池ヲ作ル
八	丁酉	九三七	同	三 百済人來朝
九	戊戌	九三八	同	四 武内宿禰ヲ筑紫ニ派シ百姓ヲ監察セシム、弟甘美内宿禰兄ヲ讒シテ廢セムトス天皇探湯セシメテ之ヲ決シ給フ
一〇	己亥	九三九	同	
一一	庚子	九四〇	同	十 劍池・輕池・鹿垣池・厩坂池ヲ作ル

一二	辛丑	九四一	紀十	
一三	壬寅	九四二	同	
一四	癸卯	九四三	同	二 百濟王縫衣工女眞毛津ヲ貢ス、是歳百濟ノ弓月君來朝
一五	甲辰	九四四	同	八 百濟王阿直岐ヲ遣シテ良馬ヲ献ズ、使ヲ百濟ニ遣シテ王仁ヲ召ス
一六	乙巳	九四五	同	二 王仁來朝、是歳百濟ノ阿花王薨、八 平群木菟宿禰等新羅ニ至リ襲津彦ト共ニ還歸
一七	丙午	九四六	同	
一八	丁未	九四七	同	
一九	戊申	九四八	同	十 吉野宮ニ幸ス、國樔人來朝
二〇	己酉	九四九	同	九 阿知使主十七縣民ヲ率キテ來朝
二一	庚戌	九五〇	同	
二二	辛亥	九五一	同	三 難波大隅宮ニ幸ス、九 淡路島ニ狩シ轉ジテ吉備ノ小豆島ニ幸ス葉田葦守宮ニ移居ス、御友別ノ子弟ヲ諸縣ニ封ズ
二三	壬子	九五二	同	
二四	癸丑	九五三	同	
二五	甲寅	九五四	同	百濟直支王薨
二六	乙卯	九五五	同	
二七	丙辰	九五六	同	
二八	丁巳	九五七	同	九 高麗王遣使朝貢、太子菟道稚郎子高麗上表文ノ無禮ヲ怒リ之ヲ破ル
二九	戊午	九五八	同	
三〇	己未	九五九	同	
三一	庚申	九六〇	同	八 新羅造船匠者ヲ貢ス

三二	辛酉	九六一	同	
三三	壬戌	九六二	同	
三四	癸亥	九六三	同	
三五	甲子	九六四	同	
三六	乙丑	九六五	同	
三七	丙寅	九六六	同	二 阿知使主・都加使主呉ニ至リ縫工女ヲ求ム
三八	丁卯	九六七	同	
三九	戊辰	九六八	同	二 百濟新齊都媛來歸
四〇	己巳	九六九	同	正 菟道稚郎子ヲ太子トシ大鷦鷯尊ヲ太子ノ輔トシ給フ
四一	庚午	九七〇	同	二 天皇崩御年百十歲、阿知使主等呉ヨリ歸ル(以上卷十)、二 太子菟道稚郎子位ヲ大鷦鷯尊ニ讓テ即位シ給ハズ、大山守皇子太子ヲ襲ハムトシ菟道河ニテ溺死、菟道稚郎子皇位ニ即クヲ欲セズ自死皇位空シキコト三年
	辛未	九七一	紀十一	
	壬申	九七二	同	
仁德 元	癸酉	九七三	同	正 大鷦鷯尊即位、難波ニ都ス高津宮ト謂フ
二	甲戌	九七四	同	三 磐之媛命ヲ皇后トス
三	乙亥	九七五	同	
四	丙子	九七六	同	二 天皇高臺ニ登リ百姓ノ窮乏ヲ知給フ、三 詔シテ三年ノ課役ヲ除ク
五	丁丑	九七七	同	
六	戊寅	九七八	同	
七	己卯	九七九	同	八 大兄去來穗別皇子ノ爲ニ壬生部ヲ皇后ノ爲ニ葛城部ヲ定ム
八	庚辰	九八〇	同	

九	辛巳	九八一	紀十一	
一〇	壬午	九八二	同	十 甫メテ課役ヲ科シ宮室ヲ造ル
一一	癸未	九八三	同	四 詔シテ難波ノ河水ヲ決シ汎濫ヲ防グ、十 掘江ヲ掘リ茨田堤ヲ築ク、是歲新羅朝貢
一二	甲申	九八四	同	七 高麗鐵盾鐵的ヲ貢ル、十 山背栗隈縣ニ大溝ヲ掘ル
一三	乙酉	九八五	同	九 始メテ茨田屯倉ヲ立テ舂米部ヲ定ム、十 和珥池ヲ造リ橫野堤ヲ築ク
一四	丙戌	九八六	同	十一 猪甘津ノ小橋ヲ造ル、是歲大道ヲ京中ニ作ル又感玖ニ大溝ヲ掘ル
一五	丁亥	九八七	同	
一六	戊子	九八八	同	
一七	己丑	九八九	同	九 使ヲ新羅ニ遣シ闕貢ヲ問責ス新羅懼レテ調絹其他八十艘ヲ貢ス
一八	庚寅	九九〇	同	
一九	辛卯	九九一	同	
二〇	壬辰	九九二	同	
二一	癸巳	九九三	同	
二二	甲午	九九四	同	正 天皇八田皇女ヲ妃トセムトス皇后聽キ給ハズ
二三	乙未	九九五	同	
二四	丙申	九九六	同	
二五	丁酉	九九七	同	
二六	戊戌	九九八	同	
二七	己亥	九九九	同	
二八	庚子	一〇〇〇	同	

年	干支	紀元	天皇	月	事項
二九	辛丑	一〇〇一	同	九	皇后紀國ニ遊行ノ間ニ天皇八田皇女ヲ娶給フ皇后怒テ山背筒城宮ニ居ス
三〇	壬寅	一〇〇二	同		
三一	癸卯	一〇〇三	同	正	大兄去來穗別尊ヲ皇太子トス年十五
三二	甲辰	一〇〇四	同		
三三	乙巳	一〇〇五	同		
三四	丙午	一〇〇六	同		
三五	丁未	一〇〇七	同	六	皇后磐之媛命筒城宮ニ薨ズ
三六	戊申	一〇〇八	同		
三七	己酉	一〇〇九	同		
三八	庚戌	一〇一〇	同	正	八田皇女ヲ皇后トス
三九	辛亥	一〇一一	同		
四〇	壬子	一〇一二	同		
四一	癸丑	一〇一三	同	三	紀角宿禰ヲ百濟ニ遣シ國郡堰場ヲ分チ具ニ郷土ノ所出ヲ錄ス
四二	甲寅	一〇一四	同		
四三	乙卯	一〇一五	同	九	始メテ鷹ヲ得テ百舌鳥野ニ遊獵ヽ鷹甘部ヲ定ム
四四	丙辰	一〇一六	同		
四五	丁巳	一〇一七	同		
四六	戊午	一〇一八	同		
四七	己未	一〇一九	同		
四八	庚申	一〇二〇	同		

年	干支	紀元	出典	月	事項
四九	辛酉	一〇二一	紀十一		
五〇	壬戌	一〇二二	同	三	茨田堤ニ雁子ヲ産ム
五一	癸亥	一〇二三	同		
五二	甲子	一〇二四	同		
五三	乙丑	一〇二五	同	五	使ヲ新羅ニ派シ闕貢ヲ問フ
五四	丙寅	一〇二六	同		
五五	丁卯	一〇二七	同		蝦夷叛ス田道ヲ遣シテ撃タシム田道敗死
五六	戊辰	一〇二八	同		
五七	己巳	一〇二九	同		
五八	庚午	一〇三〇	同	十	呉・高麗並ニ朝貢
五九	辛未	一〇三一	同		
六〇	壬申	一〇三二	同		
六一	癸酉	一〇三三	同		
六二	甲戌	一〇三四	同	五	遠江ノ大木ヲ以テ御船ヲ造ル、是歳額田大中彦皇子闘雞ニ狩シテ氷ヲ献ズ蔵氷此ニ始マル
六三	乙亥	一〇三五	同		
六四	丙子	一〇三六	同		
六五	丁丑	一〇三七	同		飛騨宿儺横暴難波根子武振熊ヲシテ誅セシム
六六	戊寅	一〇三八	同		
六七	己卯	一〇三九	同	十	河内石津原ニ幸シテ陵地ヲ定メ起工ス、是歳縣守ヲシテ吉備中國川嶋河ニ大虬ヲ殺サシム
六八	庚辰	一〇四〇	同		

年	干支	紀元	出典	事項
六九	辛巳	一〇四一	同	
七〇	壬午	一〇四二	同	
七一	癸未	一〇四三	同	
七二	甲申	一〇四四	同	
七三	乙酉	一〇四五	同	
七四	丙戌	一〇四六	同	
七五	丁亥	一〇四七	同	
七六	戊子	一〇四八	同	
七七	己丑	一〇四九	同	
七八	庚寅	一〇五〇	同	
七九	辛卯	一〇五一	同	
八〇	壬辰	一〇五二	同	
八一	癸巳	一〇五三	同	
八二	甲午	一〇五四	同	
八三	乙未	一〇五五	同	
八四	丙申	一〇五六	同	
八五	丁酉	一〇五七	同	
八六	戊戌	一〇五八	同	
八七	己亥	一〇五九	同	**正** 天皇崩、**十** 百舌鳥野陵ニ奉葬（以上巻十一）、住吉仲皇子太子ノ宮ヲ燒ク太子逃レテ大和ニ至リ石上振神宮ニ居ス、瑞齒別皇子太子ノ命ヲ受ケテ仲皇子ヲ殺ス
元	庚子	一〇六〇	紀十二	**二** 即位

天皇	年	干支	紀元	出典	事蹟
	二	辛丑	一〇六一	紀十二	正 瑞歯別皇子ヲ皇太子トス、十 磐余ニ都ス、平群木菟宿禰・蘇賀満智宿禰・物部伊莒弗大連・圓大使主共ニ國事ヲ執ル、十一 磐余池ヲ作ル
	三	壬寅	一〇六二	同	十一 兩枝船ヲ磐余市磯池ニ泛ベテ宴ス
	四	癸卯	一〇六三	同	八 始メテ諸國ニ國史ヲ置キ言事ヲ記サシム、十 石上溝ヲ掘ル
	五	甲辰	一〇六四	同	三 筑紫三神宮中ニ見ハル、九 淡路島ニ御狩ス
	六	乙巳	一〇六五	同	正 草香幡梭皇女ヲ皇后トス、始メテ藏職ヲ建テ藏部ヲ定ム、三 天皇稚櫻宮ニ崩御年七十、十 百舌鳥耳原陵ニ奉葬
反正	元	丙午	一〇六六	同	正 卽位、十 河内丹比ニ都ス柴籬宮ト謂フ
	二	丁未	一〇六七	同	
	三	戊申	一〇六八	同	
	四	己酉	一〇六九	同	
	五	庚戌	一〇七〇	同	正 天皇正寢ニ崩御
		辛亥	一〇七一	同	
允恭	元	壬子	一〇七二	紀十三	十二 卽位
	二	癸丑	一〇七三	同	二 忍坂大中姫ヲ立テ皇后トス、皇后ノ爲ニ刑部ヲ定ム
	三	甲寅	一〇七四	同	正 良醫ヲ新羅ニ求ム、八 新羅ノ良醫來朝御病差ユ
	四	乙卯	一〇七五	同	九 詔シテ味橿丘ニ探湯瓮ヲ坐ヱ盟神探湯シテ姓名ノ錯亂ヲ正サシム
	五	丙辰	一〇七六	同	七 地震、玉田宿禰ヲ誅ス、十一 先帝ヲ百舌鳥耳原陵ニ奉葬
	六	丁巳	一〇七七	同	
	七	戊午	一〇七八	同	十二 新宮ニ宴ス、衣通郎姫ヲ召シテ藤原宮ニ置ク
	八	己未	一〇七九	同	二 藤原宮ニ幸ス、河内茅渟宮ヲ造テ衣通姫ヲ居ラシム
	九	庚申	一〇八〇	同	二 茅渟宮ニ幸ス此後屢此ニ幸ス

年	干支	紀元	天皇	事項
一〇	辛酉	一〇八一	同	
一一	壬戌	一〇八二	同	三　衣通郎姫ノ爲ニ藤原部ヲ定ム
一二	癸亥	一〇八三	同	
一三	甲子	一〇八四	同	
一四	乙丑	一〇八五	同	九　天皇淡路島ニ獵シ赤石海底ニ眞珠ヲ獲給フ
一五	丙寅	一〇八六	同	
一六	丁卯	一〇八七	同	
一七	戊辰	一〇八八	同	
一八	己巳	一〇八九	同	
一九	庚午	一〇九〇	同	
二〇	辛未	一〇九一	同	
二一	壬申	一〇九二	同	
二二	癸酉	一〇九三	同	
二三	甲戌	一〇九四	同	三　木梨輕皇子ヲ皇太子トス
二四	乙亥	一〇九五	同	六　輕大郎皇女ヲ伊豫ニ流ス
二五	丙子	一〇九六	同	
二六	丁丑	一〇九七	同	
二七	戊寅	一〇九八	同	
二八	己卯	一〇九九	同	
二九	庚辰	一一〇〇	同	

天皇	年	干支	紀元	出典	記事
允恭	三〇	辛巳	一一〇一	紀十三	
	三一	壬午	一一〇二	同	
	三二	癸未	一一〇三	同	
	三三	甲申	一一〇四	同	
	三四	乙酉	一一〇五	同	
	三五	丙戌	一一〇六	同	
	三六	丁亥	一一〇七	同	
	三七	戊子	一一〇八	同	
	三八	己丑	一一〇九	同	
	三九	庚寅	一一一〇	同	
	四〇	辛卯	一一一一	同	
	四一	壬辰	一一一二	同	
	四二	癸巳	一一一三	同	**正** 天皇崩年八十一、新羅王調船八十艘及種々樂人ヲ貢ス、**十** 天皇ヲ河内長野原陵ニ奉葬、太子穴穗皇子ヲ襲ハムトシ給ヒシガ事成ラズ自失セ給ハムトス群臣從ハズ自死セ給フ、**十二** 穴穗皇子卽位、石上穴穗宮ニ遷都
安康	元	甲午	一一一四	同	**二** 幡梭皇女ヲ大泊瀨皇子ニ配ス
	二	乙未	一一一五	同	**正** 中蒂姬ヲ皇后トス
	三	丙申	一一一六	同	**八** 天皇俄ニ崩御三年ノ後菅原伏見陵ニ奉葬、**十一** 大泊瀨幼武皇子泊瀨朝倉ニ卽位、平群臣眞鳥ヲ大臣トシ大伴連室屋・物部連目ヲ大連トス
雄略	元	乙酉	一一一七	紀十四	**三** 草香幡梭姬皇女ヲ皇后トス
	二	戊戌	一一一八	同	**十** 吉野宮ニ幸シ御馬瀨ニ獵ス皇太后宍人部ヲ奉ラレ臣・連・伴造・國造之ニ傚フ、是月史戶・河上舍人部ヲ置ク
	三	己亥	一一一九	同	
	四	庚子	一一二〇	同	**二** 天皇葛城山ニ獵ス、**八** 吉野宮ニ幸シ河上ノ蜻蛉野ニ遊幸ス

年	干支	皇紀	紀	事項
五	辛丑	一一二一	同	二 天皇葛城山ニ獵ス、四 百濟加須利君（蓋鹵王）弟軍君（現支君）ヲ貢ス
六	壬寅	一一二二	同	二 天皇泊瀨小野ニ遊ビ形勝ヲ賞ス、三 天皇蠶事ヲ勸メムトシ蠶ヲ集メシム誤テ嬰兒ヲ献ル宮墻ノ下ニ養育セシメ給フ、四 吳使ヲ派シ貢献
七	癸卯	一一二三	同	七 天皇蜾蠃ニ詔シテ三諸岳神ヲ捉ヘシム、八 吉備下道臣前津屋ノ反心アルヲ聞キ之ヲ誅ス、是歲任那國司吉備上道臣田狹任所ニアリテ新羅ト結バムトス、百濟ノ技工來朝
八	甲辰	一一二四	同	二 使ヲ吳ニ遣ス、新羅天皇卽位以來朝貢セズ高麗ト結ビシガ後兩國隙アリ救ヲ日本府ニ要ム依テ朝貢ヲ誓ハシム
九	乙巳	一一二五	同	三 紀小弓宿禰・蘇我韓子宿禰・大伴談連等ヲ遣シ新羅ヲ伐タシム談戰死小弓病死ス、七 河内譽田陵ニ赤駿土馬ノ怪アリ
一〇	丙午	一一二六	同	九 遣吳國使歸還
一一	丁未	一一二七	同	五 川瀨舍人ヲ置ク、十 鳥養部ヲ置ク
一二	戊申	一一二八	同	四 吳ニ使ヲ遣ス、十 木工闘鷄御田樓閣ヲ造ル
一三	己酉	一一二九	同	三 齒田根ノ罪ヲ責メ祓ヲ科ス、八 播磨文石小麻呂ヲ誅ス
一四	庚戌	一一三〇	同	正 身狹村主靑等吳使ト共ニ手末才伎ヲ將キテ住吉津ニ泊ル、吳客道ヲ作ル、三 吳使ヲ檜隈野ニ置ク、四 根使主ヲ誅ス
一五	辛亥	一一三一	同	秦民ヲ秦酒公ニ賜フ
一六	壬子	一一三二	同	七 諸國ニ桑ヲ殖エシム又秦民ヲ散シ遷シテ庸調ヲ献ゼシム、十 漢部ヲ聚メテ其伴造ヲ定ム
一七	癸丑	一一三三	同	三 土師連等ニ詔シテ御膳ノ淸器ヲ進ラシム
一八	甲寅	一一三四	同	八 物部菟代宿禰物部目連ヲシテ伊勢朝日郞ヲ伐タシム
一九	乙卯	一一三五	同	三 穴穗部ヲ置ク
二〇	丙辰	一一三六	同	高麗王百濟ヲ亡ス
二一	丁巳	一一三七	同	三 久麻那利ヲ百濟汶州王ニ賜ヒ其國ヲ興サシム
二二	戊午	一一三八	同	正 白髮皇子ヲ皇太子トス、七 丹波國人水江浦嶋子蓬萊山ニ到ル
二三	己未	一一三九	同	四 百濟文斤王薨ズ、昆支王ノ子末多（東城王）ヲ還送シテ王トス、筑紫安致等臣ヲシテ高麗ヲ伐タシム、七 天皇不豫萬機ヲ皇太子ニ付ス、八 天皇崩ズ、遺詔シテ星川皇子ヲ斥ク（以上卷十四）、八 大伴室屋大連遺詔ニヨリ星川皇子ヲ弑ス、十 大伴室屋璽ヲ皇太子ニ奉ル
元	庚申	一一四〇	紀十五	正 卽位、葛城韓媛ヲ皇太夫人トシ大伴室屋ヲ大連平群眞鳥ヲ大臣トス、十 先帝ヲ丹比高鷲原陵ニ奉葬

天皇	年	干支	紀元	出典	事項
	二	辛酉	一一四一	紀十五	**二** 諸國ニ白髮部舍人・白髮部膳夫・白髮部靫負ヲ置ク、**十一** 億計・弘計王ヲ京ニ迎ヘシム
	三	壬戌	一一四二	同	**四** 億計王ヲ皇太子トシ弘計王ヲ皇子トス、**九** 臣連ヲ遣シテ風俗ヲ巡省セシム、**十** 詔シテ犬馬器翫ヲ献ルヲ禁ズ、**十一** 臣連ヲ大庭ニ宴ス、諸蕃進調
	四	癸亥	一一四三	同	**正** 諸蕃使者ヲ朝堂ニ宴ス、**閏五** 大餔五日、**八** 天皇親ラ囚徒ヲ錄ス、蝦夷隼人内附、**九** 天皇觀射
	五	甲子	一一四四	同	**正** 天皇崩ズ、皇太子億計・王子弘計互ニ位ヲ讓ル依テ飯豐青皇女臨朝秉政、**十一** 河内坂門原陵ニ奉葬 **十一** 飯豐青尊崩
顯宗	元	乙丑	一一四五	同	**正** 即位、難波小野王ヲ皇后トス、天下大赦、**二** 父王ノ墓ヲ造ル、**三** 曲水宴、**四** 來目部小楯ノ功ヲ賞ス
	二	丙寅	一一四六	同	**十** 群臣ヲ宴ス
	三	丁卯	一一四七	同	**二** 阿閉臣事代任那ニ使ス、**四** 福草部ヲ置ク、天皇崩ズ、是歳紀生磐宿禰任那ニ據テ反ス
仁賢	元	戊辰	一一四八	同	**正** 即位、**二** 前妃春日大娘皇女ヲ皇后トス、**十** 先帝ヲ傍丘磐杯丘陵ニ奉葬
	二	己巳	一一四九	同	**九** 難波小野皇后自殺
	三	庚午	一一五〇	同	**二** 石上部舍人ヲ置ク
	四	辛未	一一五一	同	
	五	壬申	一一五二	同	
	六	癸酉	一一五三	同	**九** 日鷹吉士ヲ高麗ニ遣シテ巧手者ヲ召サシム
	七	甲戌	一一五四	同	**正** 小泊瀬稚鷦鷯尊ヲ皇太子トス
	八	乙亥	一一五五	同	**十** 百姓大平ヲ謳歌ス
	九	丙子	一一五六	同	
	一〇	丁丑	一一五七	同	
	一一	戊寅	一一五八	同	**八** 天皇崩ズ、大臣平群眞鳥ノ男鮪ヲ誅ス、**十** 埴生坂本陵ニ奉葬、**十一** 眞鳥大臣ヲ殺ス、**十二** 太子壇場ヲ泊瀬列城ニ設ケテ即位 大伴金村ヲ大連トス
武烈	元	己卯	一一五九	紀十六	**三** 春日娘子ヲ皇后トス
	二	庚辰	一一六〇	同	

年	干支	紀元	紀	事項
三	辛巳	一一六一	同	十一 城ヲ水派邑ニ作ル、百濟意多郎卒
四	壬午	一一六二	同	四 百濟末多王暴虐國人嶋王(武寧王)ヲ立テ王トス
五	癸未	一一六三	同	
六	甲申	一一六四	同	九 小泊瀬舍人ヲ置ク、十 百濟使ヲ遣シ進調、天皇闕貢久シキヲ以テ之ヲ留ム
七	乙酉	一一六五	同	四 百濟進貢
八	丙戌	一一六六	同	十二 天皇崩御
元	丁亥	一一六七	紀十七	正 男大迹王ヲ越前三國ニ迎奉ル、二 河内樟葉宮ニ即位、大伴金村ヲ大連ニ許勢男人ヲ大臣ニ物部麁鹿火ヲ大連トスルコト故ノ如シ、三 手白香皇女ヲ立テ皇后トス、勸農ノ詔アリ
二	戊子	一一六八	同	十 先帝ヲ傍丘磐杯丘陵ニ奉葬、十二 耽羅人初メテ百濟ニ通ズ
三	己丑	一一六九	同	二 使ヲ百濟ニ遣ス、任那日本縣邑ニアル百濟ノ百姓浮逃絶貫者ヲ百濟ニ返ス
四	庚寅	一一七〇	同	
五	辛卯	一一七一	同	十 山背國筒城ニ遷都
六	壬辰	一一七二	同	四 使ヲ百濟ニ遣シテ馬ヲ賜フ、十二 百濟遣使貢調、任那ノ四縣ヲ百濟ニ割與ス
七	癸巳	一一七三	同	六 百濟五經博士段楊爾ヲ貢ス、百濟伴跛國ノ爲ニ己汶ノ地ヲ略奪セラルト奏ス、八 百濟淳陀太子薨、十一 百濟ニ己汶帶沙ヲ賜フ、十二 勾大兄皇子ヲ皇太子トス
八	甲午	一一七四	同	三 伴跛築城我ニ備フ
九	乙未	一一七五	同	二 物部連百濟ノ使者ノ歸還ヲ送ル、四 物部連帶沙江ニテ伴跛ニ襲ハレ逃遁汶慕羅ニ泊ス
一〇	丙申	一一七六	同	五 百濟物部連等ヲ己汶ニ迎勞ス 九 百濟使來朝賜地ヲ謝ス、博士高安茂ヲ貢シ段楊爾ニ代フ
一一	丁酉	一一七七	同	
一二	戊戌	一一七八	同	三 弟國ニ遷都
一三	己亥	一一七九	同	
一四	庚子	一一八〇	同	

天皇	年	干支	紀元		事項
	一五	辛丑	一一八一	紀十七	
	一六	壬寅	一一八二	同	
	一七	癸卯	一一八三	同	五 百濟武寧王薨
	一八	甲辰	一一八四	同	正 百濟明太子即位
	一九	乙巳	一一八五	同	
	二〇	丙午	一一八六	同	九 磐余玉穂ニ遷都
	二一	丁未	一一八七	同	六 近江毛野ヲシテ南加羅・喙己呑ヲ復興セシメ任那ニ合セムトス、筑紫國造磐井火豐二國ニ據テ三韓ノ貢船ヲ誘致シ又毛野ノ軍ヲ中途ニ防遏ス、八 物部麁鹿火ヲシテ磐井ヲ討タシム
	二二	戊申	一一八八	同	十一 物部麁鹿火磐井ヲ斬ル、十二 磐井ノ子葛子糟屋屯倉ヲ獻リ死罪ヲ贖ハムコトヲ求ム
	二三	己酉	一一八九	同	三 百濟王多沙津ヲ朝貢ノ津路トセムコトヲ請フ之ヲ許ス、加羅怨ミテ新羅ニ結ブ、近江毛野ヲ安羅ニ遣ス、四 任那王己能末多干岐來朝救ヲ請フ、九 大臣許勢男人薨
	二四	庚戌	一一九〇	同	二 詔シテ廉節ノ士ヲ擧ゲ大道ヲ宣揚シテ驕ヲ成スヲ愼マシム、十 任那毛野臣ノ政ヲ怠リ人ヲ苦ムル由ヲ奏ス、毛野ヲ召還ス、對馬ニ到リテ病死
	二五	辛亥	一一九一	同	二 天皇磐余玉穂宮ニ崩御年八十二、勾大兄廣國押武金日尊即位、十二 藍野陵ニ奉葬、大伴大連・物部麁鹿火大連並大連トナルコト舊ノ如シ
		壬子	一一九二	同	
		癸丑	一一九三	同	
安閑	元	甲寅	一一九四	紀十八	正 勾金橋ニ遷都、三 春日山田皇女ヲ立テ皇后トス、四 伊甚國造皇后ノ爲ニ伊甚屯倉ヲ獻ズ、五 百濟貢調、皇后ノ爲ニ屯倉ヲ立テ御名代トス、十 三妃ノ屯倉ヲ定ム、閏十二 天皇三嶋ニ幸ス
	二	乙卯	一一九五	同	正 大餔五日、四 勾舍人部及靫部ヲ置ク、五 諸國ニ屯倉ヲ置ク、八 諸國ニ犬養部ヲ置ク、九 屯倉ノ税司ヲ置ク、難波大隅嶋・媛嶋松原ニ牛ヲ放チ御名ヲ後世ニ傳ヘシム、十二 天皇崩ズ、河内舊市高屋丘陵ニ奉葬
宣化	元	丙辰	一一九六	同	正 檜隈廬入野ニ遷都ス、二 大伴金村・物部麁鹿火並ニ大連トナル如故、蘇我稻目ヲ大臣トシ阿倍大麻呂ヲ大夫トス、三 前正妃橘仲皇女ヲ皇后トス、五 筑紫國ニ屯倉ヲ設ケ那津ノ口ニ官家ヲ建ツ、七 物部麁鹿火大連薨
	二	丁巳	一一九七	同	十 大伴磐及狹手彦ヲ遣シ任那ヲ助ケシム
	三	戊午	一一九八	同	
	四	己未	一一九九	同	二 天皇檜隈廬入野宮ニ崩ズ御年七十三、十一 身狹桃花鳥坂上陵ニ奉葬(以上十八)、天國排開廣庭尊即位、大伴金村・物部尾輿ヲ大連トシ蘇我稻目ヲ大臣トス
欽明	元	庚申	一二〇〇	同十九	正 正妃石姫ヲ立テ皇后トス、二 百濟人己知部投化、三 蝦夷隼人歸化、七 磯城嶋ニ遷都、八 三韓任那來貢、諸蕃投化者ヲ國郡ニ置キ戸籍ニ編貫ス、九 難波祝津宮ニ幸ス、天皇新羅ヲ伐ツコトヲ諸臣ニ問給フ

二	辛酉	一二〇一	同	三 五妃ヲ納ル、四 任那旱岐等百濟ニ往テ詔書ヲ聽ク、聖明王天皇ノ詔書ヲ述べ共ニ任那ヲ興サムト誓フ、七 百濟任那ニ其建立ヲ誓ヒ更ニ任那ノ日本府ニ輕擧ヲ戒ム
三	壬戌	一二〇二	同	
四	癸亥	一二〇三	同	九 百濟聖明王扶南ノ財物及奴二口ヲ献ズ、十一 津守連ヲ百濟ニ遣シ任那復興ノ事ヲ詔シ給フ、十二 百濟聖明王詔ヲ以テ群臣ト任那復興ヲ議ス
五	甲子	一二〇四	同	正 百濟任那ノ日本府ノ執事ヲ召ス來ラズ、三 百濟使ヲ遣シ上表日本府任那ノ復興ニ誠意ナキ由ヲ奏ス、十一 百濟日本府臣任那執事ヲ召シ任那ヲ建ツルコトヲ議ス、十二 肅愼人佐渡島ニ來著
六	乙丑	一二〇五	同	三 膳臣巴提便ヲ百濟ニ遣ス、九 百濟丈六佛像ヲ造リテ天皇及彌移居國ノ福祐ヲ祈ル、十一 膳臣巴提便百濟ヨリ還ル、是歳高麗大ニ亂ル
七	丙寅	一二〇六	同	正 百濟使人中部奈率己連罷歸、六 百濟貢獻、七 倭國今來郡良馬ヲ得ル由ヲ言ス、是歳高麗大亂死者二千餘
八	丁卯	一二〇七	同	四 百濟救ヲ乞フ
九	戊辰	一二〇八	同	四 百濟暫ク救兵ヲ停メムコトヲ請フ前勅ニ隨ヒ任那ト北敵ヲ防ガシム、六 百濟ニ詔シテ任那ト共ニ狛賊ヲ防ガシム
一〇	己巳	一二〇九	同	六 百濟ノ使者罷歸ル詔シテ願ニ依テ救軍ヲ停ム
一一	庚午	一二一〇	同	二 百濟ニ詔シ忠誠ノ證トシテ重臣ヲ朝セシム、四 百濟使ヲ遣シテ狛ノ虜ヲ献ズ
一二	辛未	一二一一	同	三 麥種一千斛ヲ百濟王ニ賜フ、是歳百濟聖明王高麗ヲ伐チ漢城ヲ獲六郡ノ故地ヲ復ス
一三	壬申	一二一二	同	四 箭田珠勝大兄皇子薨ズ、五 百濟・加羅・安羅使者ヲ遣シ救ヲ求ム、十 百濟聖明王釋迦佛金銅像幡蓋經論等ヲ献ズ、是歳百濟漢城及平壤ヲ棄テ新羅漢城ニ入ル
一四	癸酉	一二一三	同	正 百濟兵ヲ乞フ、六 良馬・同船・弓箭等ヲ百濟ニ賜ヒ所請ノ軍ヲ送リ又卜書・暦本・種々ノ藥物ヲ送ラシム、七 樟勾宮ニ幸ス、王辰爾ヲシテ船賦ヲ錄セシム、八 百濟援兵及弓馬ヲ乞フ、十 百濟高麗王ヲ東聖山上ニ追退ク
一五	甲戌	一二一四	同	正 渟中倉太珠敷尊ヲ皇太子トス、百濟救軍ノ數ヲ問ヒ速ニ送軍ヲ乞フ、二 百濟五經・易・暦・醫博士・採藥師・樂人ヲ貢ス、五 内臣舟師ヲ率テ百濟ニ詣ル、十二 百濟餘昌新羅ニ入リテ築塞、父明王新羅ノ爲ニ殺サル
一六	乙亥	一二一五	同	二 百濟王子餘昌聖明王ノ死ヲ奏シ我ニヨリ仇ヲ雪カムト請フ、七 吉備五郡ニ白猪屯倉ヲ置ク、八 百濟餘昌出家セムトス群臣之ヲ諫ム
一七	丙子	一二一六	同	正 百濟王子惠歸國兵仗良馬ヲ賜フ、七 備前兒島ニ屯倉ヲ置ク、十 倭國高市郡ニ韓人大身狹屯倉・高麗人小身狹屯倉・紀國ニ海部屯倉ヲ置ク
一八	丁丑	一二一七	同	三 百濟王子餘昌(威德王)嗣立
一九	戊寅	一二一八	同	
二〇	己卯	一二一九	同	
二一	庚辰	一二二〇	同	九 新羅調賦ヲ献ル饗賜常ニ過グ

敏達

年	干支	紀元	出典	事項
二二	辛巳	一二二一	紀十九	新羅調賦ヲ獻ル饗賜常ヨリ減ズ使者忿恨、是歲新羅復調賦ヲ獻ル、諸蕃ヲ次序スル時新羅ノ使者ヲ百濟ノ下ニ列セシム大ニ怒テ歸ル
二三	壬午	一二二二	同	**正** 新羅任那ノ官家ヲ滅ス、**六** 新羅ノ無道ヲ責ム、**七** 新羅貢獻使人本土ニ歸ラズ、大將軍紀男麿・副將河邊瓊缶ヲシテ新羅ノ罪ヲ問ハシム瓊缶破レテ捕ヘラレ調吉士伊企儺節ニ死ス、**八** 大將軍大伴狹手彥高麗ヲ伐チ破ル
二四	癸未	一二二三	同	
二五	甲申	一二二四	同	
二六	乙酉	一二二五	同	**五** 高麗人投化筑紫ニ到ル
二七	丙戌	一二二六	同	
二八	丁亥	一二二七	同	郡國大水飢テ或ハ人相食ム
二九	戊子	一二二八	同	
三〇	己丑	一二二九	同	**四** 白猪田部ノ丁籍ヲ定ム
三一	庚寅	一二三〇	同	**三** 蘇我大臣稻目宿禰薨、**四** 泊瀨柴籬宮ニ幸ス、高麗人越國ニ漂著、**五** 高麗使ヲ越國ニ饗ス、**七** 高麗使者山背ノ高械館ニ入ル
三二	辛卯	一二三一	同	**三** 使ヲ新羅ニ遣シ任那滅亡ノ由ヲ問ハシム、**四** 天皇不豫皇太子ヲ召シ任那ノ復興ヲ囑ス、天皇崩、**八** 新羅弔使來ル、**九** 檜隈坂合陵ニ奉葬
元	壬辰	一二三二	紀廿	**四** 皇太子卽位、是月百濟大井ニ宮造ル物部弓削守屋ヲ大連トシ蘇我馬子ヲ以テ大臣トス、**五** 高麗調物ヲ京師ニ送ラシム其表疏讀ミ難シ王辰爾之ヲ讀ム、**六** 高麗大使副使ト爭ヒテ殺サル翌月使人歸ル
二	癸巳	一二三三	同	**五** 高麗使人越海ニ漂著ス勅シテ送還セシム、**八** 送使波浪ヲ恐レ高麗使ヲ海ニ擲入レ僞リテ復命ス
三	甲午	一二三四	同	**七** 高麗使人入京昨年ノ使人歸ラザル由ヲ問フ、**十** 白猪屯倉田部ヲ增益セシム、**十一** 新羅使進調
四	乙未	一二三五	同	**正** 廣姬ヲ立テ皇后トス、**三** 百濟進調恒歲ヨリ多シ天皇任那ノ未ダ復興セザルヲ以テ皇子大臣ヲ勵マシメ給フ、**四** 使ヲ新羅・任那・百濟ニ遣ス、**六** 新羅進調常ヨリ多シ、是歲宮ヲ譯田ニ造ル、**十一** 皇后廣姬薨
五	丙申	一二三六	同	**三** 豐御食炊屋姬尊(推古)ヲ立テ皇后トス
六	丁酉	一二三七	同	**二** 日祀部・私部ヲ置ク、**五** 大別王・小黑吉士ヲ遣シ百濟ニ宰タラシム、**十一** 百濟國王還使ニ付シテ經論・律師・禪師・比丘尼・咒禁師・造佛工・造寺工人ヲ獻ル
七	戊戌	一二三八	同	**三** 伊勢齋莵道皇女ノ職ヲ解ク、**十** 新羅使ヲ遣シテ進調並ニ佛像ヲ送ル
八	己亥	一二三九	同	
九	庚子	一二四〇	同	**六** 新羅進調納メズシテ還ス

天皇	年	干支	紀元	出典	事項
	一〇	辛丑	一二四一	同	閏二 蝦夷邊境ニ寇ス其魁帥ヲ召ス魁帥服從ヲ盟フ
	一一	壬寅	一二四二	同	十 新羅進調納メズシテ還ス
	一二	癸卯	一二四三	同	七 任那ヲ復興セムトシ使ヲ遣シテ百濟ニ在ル日羅ヲ召サシム、十 百濟王日羅ヲ惜ミテ聽カズ、是歲日羅ヲ召シテ難波館ニ置ク從者ノ爲ニ殺サル
	一三	甲辰	一二四四	同	二 使ヲ新羅ニ遣ス、九 使臣百濟ヨリ彌勒石像及佛像ヲ齎ス、是歲蘇我馬子其佛像ヲ請テ安置シ修行者ヲ四方ニ求メ三尼ヲ度セシム亦石川ノ宅ニ佛殿ヲ脩治ス佛法玆ヨリ起ル
	一四	乙巳	一二四五	同	二 蘇我馬子塔ヲ造ル此時疫疾流行、三 物部守屋等奏請シテ寺ヲ燒キ佛像ヲ棄ツ、八 天皇崩ズ馬子守屋奏誄互ニ怨ヲ生ズ（以上卷二十）、九 天皇卽位磐余ニ宮造ル、酢香手姬ヲ伊勢神宮ニ奉仕セシム
用明	元	丙午	一二四六	紀廿一	正 穴穗部間人皇女ヲ皇后トス、五 穴穗部皇子殯宮ニ入ラムトシ三輪逆拒ミテ入レズ守屋皇子ノ命ニ依テ之ヲ斬ル
	二	丁未	一二四七	同	四 丙午磐余河上ニ新嘗聞食ス是日御病アリ癸丑崩ズ、五 物部大連穴穗部皇子ヲ立テムトシ謀漏ル、六 蘇我馬子穴穗部皇子宅部皇子ヲ殺ス、七 天皇ヲ磐余池上陵ニ奉葬、馬子守屋ヲ滅ス、八 天皇卽位
崇峻	元	戊申	一二四八	同	是歲百濟使並ニ僧惠總等ヲ遣シ佛舍利ヲ獻ズ、又遣使進調並ニ佛舍利寺工鑪盤博士瓦博士畫工ヲ獻ズ、善信尼等ヲ百濟ニ遣シ學問セシム、法興寺ヲ造ル
	二	己酉	一二四九	同	七 東山東海北陸道ニ使ヲ遣シテ其境ヲ觀シム
	三	庚戌	一二五〇	同	三 學問尼善信等百濟ヨリ歸ル、是歲得度尼トナルモノ多シ
	四	辛亥	一二五一	同	四 敏達天皇ヲ磯長陵ニ葬ル、八 詔シテ任那ヲ建ムトス、十一 紀男麿等大將軍トシ出テ筑紫ニ居リ使ヲ新羅ニ遣シテ任那ノ事ヲ問ハシム
	五	壬子	一二五二	同	十一 馬子東漢直駒ヲシテ天皇ヲ弑シ奉ラシム是日倉梯岡陵ニ奉葬（以上卷二十一）、十二 敏達天皇ノ皇后額田部皇女豐浦宮ニテ卽位
推古	元	癸丑	一二五三	紀廿二	正 佛舍利ヲ法興寺ノ柱礎ノ中ニ置ク、四 厩戸豐聰耳皇子ヲ皇太子トシ萬機ヲ攝政セシム、九 用明天皇ヲ河內磯長陵ニ改葬シ奉ル、是歲始メテ四天王寺ヲ造ル
	二	甲寅	一二五四	同	詔シテ皇太子及大臣ヲシテ大ニ三寶ヲ興サシム
	三	乙卯	一二五五	同	五 高麗僧慧慈歸化皇太子之ヲ師トス、是歲百濟僧慧聰來ル、七 將軍等筑紫ヨリ至ル
	四	丙辰	一二五六	同	十一 法興寺成ル
	五	丁巳	一二五七	同	四 百濟王子阿佐朝貢、十一 吉士磐金ヲ新羅ニ遣ス
	六	戊午	一二五八	同	四 磐金新羅ヨリ至リ鵲ヲ獻ズ、八 新羅孔雀ヲ貢ル、十 越國白鹿ヲ獻ズ
	七	己未	一二五九	同	四 地震舍屋悉ク破ル地震神ヲ祭ラシム、九 百濟駱駝驢羊白雉ヲ貢ル
	八	庚申	一二六〇	同	二 新羅任那相攻ム天皇任那ヲ救ハムト欲ス、是歲大將軍境部臣任那ノ爲ニ新羅ヲ伐チ其五城ヲ拔ク、使ヲ新羅任那ニ遣シ事狀ヲ檢挍セシム、二國朝貢ヲ誓フ新羅亦任那ヲ侵ス

年	干支	紀元	出典	事項
九	辛酉	一二六一	紀廿二	二 皇太子宮室ヲ斑鳩ニ造ル、三 大伴囓ヲ高麗ニ坂本糠手ヲ百濟ニ遣シ任那ヲ救ハシム、五 天皇耳梨行宮ニ居マス、十一 新羅ヲ攻ムコトヲ議ス
一〇	壬戌	一二六二	同	四 來目皇子撃新羅將軍ヲ拜シ筑紫ニ到リ船ヲ集メ粮ヲ運ブ、十 百濟僧觀勒來ル暦本天文地理遁甲方術書ヲ貢ス、閏十 高麗僧僧隆等來朝
一一	癸亥	一二六三	同	二 來目皇子病ミテ筑紫ニ薨ズ、四 來目皇子ノ兄當麻皇子ヲ征新羅將軍トス、七 當麻皇子發船播磨ニテ其妻薨ス皇子返テ征討セズ、十 小墾田宮ニ遷御、十二 始メテ冠位十二階ヲ行フ
一二	甲子	一二六四	同	正 冠位ヲ諸臣ニ賜フ、四 皇太子親ラ憲法十七條ヲ作ル、九 朝禮ヲ改ム、黄書畫師山背畫師ヲ定ム
一三	乙丑	一二六五	同	四 天皇發願銅繡丈六ノ佛像各一軀ヲ造ル、閏七 諸王臣ニ褶ヲ著ケシム、十 皇太子斑鳩宮ニ居ス
一四	丙寅	一二六六	同	四 佛像成ル、是年ヨリ毎寺四月八日、七月十五日設齋、七 天皇皇太子ヲ請シ勝鬘經ヲ講ゼシム、是歲皇太子法華經ヲ岡本宮ニ講ズ
一五	丁卯	一二六七	同	二 壬生部ヲ定ム、詔シテ神祇ノ祭祀ヲ怠ラザラシム、七 小野妹子ヲ唐ニ遣ス、冬倭國高市藤原肩岡菅原池ヲ作リ山背國栗隈ニ大溝ヲ掘ル又河内國菟依網池ヲ作ル亦國毎ニ屯倉ヲ置ク
一六	戊辰	一二六八	同	四 小野妹子唐ヨリ至ル使人裴世清從テ來ル、六 唐客ヲ難波新館ニ置ク、八 唐客入京國書ヲ上ル、九 唐使ヲ難波ノ大郡ニ饗ス唐客歸ル大使小野妹子ヲ唐ニ遣ス學生學問僧之ニ從フ、是歲新羅人多ク歸化
一七	己巳	一二六九	同	四 百濟僧俗七十五人肥後國葦北津ニ泊スト奏ス、九 小野妹子等唐ヨリ至ル
一八	庚午	一二七〇	同	三 高麗王僧曇徵法定ヲ貢ス曇徵ハ紙墨ヲ作リ併セテ碾磑ヲ造ル、七 新羅任那ノ使人筑紫ニ到ル、十 兩國使人入京禮畢テ歸ル
一九	辛未	一二七一	同	五 菟田野ニ藥獵ス
二〇	壬申	一二七二	同	正 七日置酒群臣ニ宴ス、二 皇太夫人堅鹽媛ヲ改葬、是歲百濟歸化人南庭ニ須彌山形及呉橋ヲ構ル 百濟人味摩之歸化少年ヲシテ伎樂舞ヲ習ハシム
二一	癸酉	一二七三	同	十一 掖上畝傍等ノ池ヲ作ル又難波ヨリ京ニ至ル大道ヲ置ク、十二 皇太子片岡ニ遊行シ飢者ニ逢フ
二二	甲戌	一二七四	同	六 犬上御田鍬矢田部造ヲ唐ニ遣ス
二三	乙亥	一二七五	同	七 御田鍬等唐ヨリ至ル百濟使共ニ來朝、十一 高麗僧慧慈歸國
二四	丙子	一二七六	同	正 桃李實ル、三 掖玖人歸化、七 新羅佛像ヲ貢ス
二五	丁丑	一二七七	同	是歲五穀實ル
二六	戊寅	一二七八	同	八 高麗遣使俘虜及鼓吹弩拋石ノ類幷土物駱駝等ヲ貢ス隋煬帝卅萬衆ヲ興シテ高麗ヲ攻メ却テ破ラレタリト云フ、是年使ヲ安藝國ニ遣シ舶ヲ造ラシム
二七	己卯	一二七九	同	
二八	庚辰	一二八〇	同	十 砂礫ヲ以テ檜隈陵上ニ葺ク、是年皇太子嶋大臣ト議シ天皇記及國記臣連伴造國造百八十部幷公民等本記ヲ錄ス

二九	辛巳	一二八一	同	二 厩戸豐聰耳皇子薨ス、是歳新羅朝貢始メテ表書ヲ奉ル
三〇	壬午	一二八二	同	
三一	癸未	一二八三	同	七 新羅任那並ニ來朝佛像金塔舍利大灌頂幡小幡ヲ貢ス、在唐學問僧惠濟等從ヒテ來ル、是歳新羅任那ヲ伐チ任那新羅ニ從フ、大將軍境部雄摩侶等ヲシテ新羅ヲ伐タシム、五穀不登
三二	甲申	一二八四	同	四 一僧斧ヲ執テ祖父ヲ毆ツ、觀勒ヲ僧正鞍部德積ヲ僧都トス、九 寺及僧尼ヲ按ヘ造寺ノ所緣僧尼入度緣年月日ヲ錄ス時ニ寺四十六僧八百十六人尼五百六十九人、十 蘇我馬子葛城縣ヲ賜リテ封縣トセムトス之ヲ聽サズ
三三	乙酉	一二八五	同	正 高麗王僧惠灌ヲ貢ル、僧正ニ任ズ
三四	丙戌	一二八六	同	正 桃李花開ク、三 霜降、五 蘇我馬子薨、六 雪降、是歳三月ヨリ七月ニ至ル霖雨天下大飢世亂ル
三五	丁亥	一二八七	同	五 蠅群信濃坂ヲ超エ東ノ方上野國ニ至ル
三六	戊子	一二八八	同	二 天皇御病、三 天皇崩、南庭ニ殯ス、四 雹零ル、九 始メテ天皇ノ喪禮ヲ起ス(以上卷二十二) 葬禮畢リ嗣位未定蘇我蝦夷群臣ノ意向ヲ知ラムトス境部摩理勢泊瀨仲王ヲ戴カムトス後泊瀨王病死摩理勢亦死ス
元	己丑	一二八九	紀廿三	正 蝦夷及群卿天皇ノ璽印ヲ田村皇子ニ獻ル即日即位、四 田邊連ヲ掖玖ニ遣ス
二	庚寅	一二九〇	同	正 寶皇女ヲ皇后トス、三 高麗百濟朝貢、八 犬上三田耜藥師惠日ヲ唐ニ遣ス、九 田邊連掖玖ヨリ至ル、十 天皇飛鳥岡本ニ遷都
三	辛卯	一二九一	同	二 掖玖人歸化、三 百濟義慈王王子豐章ヲ質トス、九 津國有馬溫湯ニ幸ス、十二 天皇還幸
四	壬辰	一二九二	同	八 唐高表仁三田耜ヲ送テ對馬ニ至ル、學問僧靈雲僧旻等及新羅送使從フ
五	癸巳	一二九三	同	正 高表仁等歸國
六	甲午	一二九四	同	八 彗星見ユ
七	乙未	一二九五	同	正 彗星見ユ、六 百濟朝貢、七 瑞蓮劍池ニ生ズ
八	丙申	一二九六	同	正 日蝕、五 霖雨大水、六 岡本宮火災、七 大派王百官朝參ニ鐘ヲ以テ節セムト奏ス豐浦大臣聽カズ、是歳大旱天下飢
九	丁酉	一二九七	同	二 流星アリ僧旻天狗ナリト云、三 日蝕、是歳蝦夷叛ス將軍上毛野形名ヲシテ討タシム
一〇	戊戌	一二九八	同	七 大風、九 霖雨、桃李華開、十 有間溫湯宮ニ幸ス、是歳百濟新羅任那並ニ朝貢
一一	己亥	一二九九	同	正 有馬溫湯ヨリ還幸、乙卯新嘗、是月大風彗星見ユ、七 大宮及大寺ヲ造ル、九 唐學問僧惠隱等新羅送使ニ從テ歸ル、十一 新羅客ヲ饗シ冠位ヲ賜フ、十二 伊豫溫湯宮ニ幸ス、是月百濟川側ニ九重塔ヲ建ツ
一二	庚子	一三〇〇	同	四 伊豫ヨリ還幸廐坂宮ニ居マス、十 唐學問僧淸安學生高向漢人玄理歸ル百濟新羅ノ朝貢使之ニ從フ、是月百濟宮ニ徙御

皇紀	西暦	年	干支	紀	事項
一、三〇一	西六四一	一三	辛丑	紀廿三	十 天皇百濟宮ニ崩ズ
一、三〇二	西六四二	元（皇極）	壬寅	紀廿四	正 皇后即位、蘇我蝦夷大臣故ノ如ク其子入鹿自ラ國政ヲ執リ威父ニ勝ル、百濟弔使來ル其國亂ヲ告グ、二 高麗使人來ル內亂アリシコトヲ告グ、三 新羅賀騰極使及弔喪使ヲ遣ス、五 百濟進調、六 大旱、八 天皇南淵河上ニ幸シ祈雨大雨五日、高麗百濟新羅ノ使人罷還ル、九 越後蝦夷內附、十 是月地震多シ、十一 天皇新嘗ヲ聞食ス、十二 甲午初メテ息長足日廣額天皇ノ喪ヲ發ス、壬寅 滑谷岡ニ葬ル、是日 天皇小墾田宮ニ遷移、是歲蘇我大臣蝦夷祖廟ヲ葛城高宮ニ造リ雙墓ヲ今來ニ造ル
一、三〇三	西六四三	二	癸卯	同	四 權宮ヨリ飛島板蓋新宮ニ移幸、五 月蝕、六 筑紫大宰高麗來朝ヲ奏ス高麗ハ己亥ノ年ヨリ朝セズ、百濟進調不足ヲ責ム、九 舒明天皇ヲ押坂陵ニ葬ル、吉備皇祖母命薨、十 群臣授位ノ事ヲ議ス、蘇我蝦夷私ニ紫冠ヲ子入鹿ニ授テ大臣ノ位ニ擬ス、十一 入鹿山背皇子等ヲ攻ム王斑鳩寺ニ入リ自經、是歲蜜蜂ヲ三輪山ニ放養ス
一、三〇四	西六四四	三	甲辰	同	正 中臣鎌子中大兄皇子ト圖リテ蘇我氏ヲ退ケムトス、七 大生部多虫ヲ祭リテ常世神ト稱シ人民ヲ欺ク、十一 蘇我蝦夷及其子入鹿家ヲ甘檮岡ニ雙起ツ大臣ノ家ヲ宮門トイヒ入鹿ノ家ヲ谷宮門ト云
一、三〇五	西六四五	大化元	乙巳	紀廿五	正 處々ニ猿ノ吟フヲ聞ク時人伊勢大神ノ使ト曰フ、六 十二日天皇大極殿ニ御シ三韓進調ノ表文ヲ聞食ス時ニ中大兄皇子佐伯子麿入鹿ヲ斬ル、十三日蝦夷誅ニ臨ミテ天皇紀國記珍寳ヲ悉ク燒ク、十四日天皇位ヲ輕皇子ニ讓リ中大兄ヲ皇太子トス(以上卷二十四)、天皇群臣ヲ集メテ盟誓、建元大化元年ト稱ス、七 間人皇女ヲ立テ皇后トス、高麗百濟新羅並ニ進調、詔シテ悦ヲ以テ民ヲ使フ路ヲ諸臣ニ問フ、八 東國國司ヲ任ズ、九 中大兄皇子ヲシテ古人皇子ヲ討シム、諸國ノ民ノ數ヲ錄ス又臣連伴造國造等ガ人民ヲ駈使兼併スルヲ禁ズ、十二 都ヲ難波長柄豐碕ニ遷ス
一、三〇六	西六四六	二	丙午	同	正 改新ノ詔ヲ宣ス一、子代ノ民屯倉部民田庄ヲ罷メ食封御帛ヲ賜フ二、京師ヲ脩メ畿內ノ國司郡司斥候防人等ヲ置キ鈴契ヲ造リ山河ヲ定ム三、戸籍計帳ヲ造リ班田收授ノ法ヲ定ム四、賦役ヲ罷メ田調ヲ行フ、是月兵庫ヲ脩營セシム、蝦夷親附、二 高麗百濟任那新羅來貢、三 東國ノ朝集使ニ詔シテ公私ノ物ヲ取ルコト勿ラシム、墳墓葬送婚姻奴婢及祓除ノ制ヲ定ム、八 品部ヲ罷メテ公民トス、九 新羅ニ使ヲ遣シ質ヲ貢セシム遂ニ任那ノ調ヲ罷ム、是月蝦蟇行宮ニ御ス
一、三〇七	西六四七	三	丁未	同	正 高麗新羅並ニ貢調、四 詔シテ曰惟神我子應治云々、是歲小郡宮ヲ營リ禮法ヲ定ム、十 有馬溫湯ニ幸ス、十二 溫湯ヨリ還リ武庫行宮ニ御ス、是歲七色十三階ノ冠ヲ制ス、新羅孔雀鸚鵡ヲ獻ジ金春秋ヲ質トス、渟足柵ヲ造リ柵戸ヲ置ク
一、三〇八	西六四八	四	戊申	同	正 天皇難波豐碕宮ニ幸ス、二 三韓ニ學問僧ヲ遣ス、四 古冠ヲ罷ム、是歲新羅遣使貢調 磐舟柵ヲ治メテ柵戸ヲ置キ蝦夷ニ備フ

年	干支	出典	事項
一、三〇九 五 西六四九	己酉	同	**二** 冠位十九階ヲ制ス、是月八省百官ヲ置ク、**三** 阿倍大臣薨、倉山田大臣讒ニ遇ヒ自經ス連坐シテ罪セラル、モノ多シ、**四** 巨勢徳陀古臣ヲ左大臣トシ大伴長徳連ヲ右大臣トス、**五** 使ヲ新羅ニ遣ス、是歳新羅王金多遂ヲ遣シテ質トス
一、三一〇 白雉元 西六五〇	庚戌	同	**正** 味經宮ニ幸シテ賀正ノ禮ヲ觀ス、**二** 穴戸國司白雉ヲ献ズ嘉祥ニヨリ大赦シ元ヲ白雉ト改ム、**四** 新羅貢調、是月始メテ丈六ノ繡像侠侍八部等四十六像ヲ造ル、是歳千佛像ヲ刻ス、安藝國ニ使ヲ遣シテ百濟舶二隻ヲ造ラシム
一、三一一 二 西六五一	辛亥	同	**六** 百濟新羅貢調、**十二** 僧尼ヲ味經宮ニ請ジ一切經ヲ讀マシム、天皇大郡ヨリ難波長柄豐碕ノ新宮ニ遷御、是歳新羅貢調使唐服ヲ著ク異服ヲ責メテ還ス
一、三一二 三 西六五二	壬子	同	**正** 大郡宮行幸、班田訖ル、**三** 車駕還宮、**四** 内裏ニ於テ無量壽經ヲ講ズ、雨水九日ニ至ル、戸籍ヲ造ル、新羅百濟貢調、**九** 造宮訖ル、**十二** 晦天下僧尼ヲ内裏ニ請ジ設齋燃燈
一、三一三 四 西六五三	癸丑	同	**五** 遣唐使發遣學問僧學生隨從、天皇旻法師ノ房ニ幸シテ其疾ヲ問給フ、**六** 百濟新羅貢調、處々ノ大道ヲ脩治ス、旻法師寂ス、**七** 遣唐使高田首根麿等薩麻之曲竹嶋ノ間ニテ沒死、是歳太子倭京ニ遷ラムト奏ス天皇許シ給ハズ皇太子太后皇后ヲ奉ジテ飛鳥河邊行宮ニ遷ル
一、三一四 五 西六五四	甲寅	同	**正** 鎌足ノ封戸ヲ增ス、**二** 遣唐押使高向史玄理道ヲ新羅ニ取リ京ニ到テ天子ニ見ユ玄理唐ニ死ス、**四** 吐火羅舍衞人日向ニ漂著ス、**十** 天皇難波宮ニ崩ズ、**十二** 天皇ヲ大阪磯長陵ニ奉葬、皇太子皇祖母尊ヲ奉ジテ倭河邊行宮ニ遷ル
一、三一五 元 西六五五	乙卯	紀廿六	**正** 皇祖母尊飛鳥板蓋宮ニ卽位、**七** 難波朝ニ北蝦夷東蝦夷及百濟調使ヲ饗ス、柵養及津刈蝦夷ニ冠位ヲ授ク、**八** 河邊臣麿等唐ヨリ歸ル、冬飛鳥板蓋宮ニ災アリ、飛鳥川原宮ニ遷御、是歳高麗百濟新羅並ニ進調、蝦夷隼人內屬、新羅別ニ質ヲ送ル
一、三一六 二 西六五六	丙辰	同	**八** 高麗進調、**九** 遣高麗大使發遣、是歳飛鳥岡本ニ宮地ヲ定ム、高麗百濟新羅並ニ進調、宮室成リ天皇遷御後飛鳥岡本宮ト曰フ、田身嶺ニ觀ヲ起ツ兩槻宮ト曰フ、吉野宮ヲ作ル

皇紀	年	西暦	干支	出典	記事
一、三一七	三	西六五七	丁巳	紀廿六	七 都貨羅國男女漂著、飛鳥寺ニ盂蘭盆會ヲ設ク、九 西海使百済ヨリ還テ駱駝驢ヲ献ズ
一、三一八	四	西六五八	戊午	同	正 左大臣巨勢徳太臣薨、四 阿倍比羅夫齶田渟代二郡ノ蝦夷ヲ伐ツ蝦夷降ル、七 蝦夷朝献饗賜位ヲ授ク、渟代郡大領ニ詔シテ蝦夷及虜ノ戸口ヲ検覈セシム、是月智通智達ヲシテ新羅船ニ乘リ唐ニ往テ玄奘法師ニ學バシム、十 紀温湯ニ幸ス、十一 留守官蘇我赤兄有馬皇子ノ反ヲ告ゲ捉ヘテ紀温湯ニ送ル藤白坂ニ絞ス、是歳阿倍引田臣比羅夫粛愼ヲ討ツ、沙門智踰指南車ヲ造ル
一、三一九	五	西六五九	己未	同	正 天皇紀温湯ヨリ至ル、三 吉野ニ幸ス、近江平浦ニ幸ス、吐火羅人來ル、甘檮丘ニ須彌山ヲ造テ陸奥越蝦夷ヲ饗ス、是月阿倍臣蝦夷ヲ討チ後方羊蹄ヲ政所トシ郡領ヲ置テ歸ル、七 使ヲ唐ニ遣シ道奥蝦夷ヲ唐ノ天子ニ示ス
一、三二〇	六	西六六〇	庚申	同	三 阿倍臣粛愼ヲ伐ツ、五 高麗使人難波館ニ到ル、是月仁王般若會ヲ設ク、皇太子始メテ漏刻ヲ造ル、九 新羅唐ト結ビテ百済ヲ傾覆スト奏ス、十 百済鬼室福信唐俘一百餘人ヲ献リ救ヲ請ヒ王子余豐璋ヲ國王ト爲サムト乞フ、十二 天皇筑紫ニ幸シ救軍ヲ遣サムトシテ先ヅ難波ニ幸ス
一、三二一	七	西六六一	辛酉	同	正 六日皇師西征始メテ海路ニ就ク、十四日伊豫熟田津石湯行宮ニ泊ル、三 御船娜大津ニ至リ磐瀬行宮ニ居ス、四 百済上表王子糺解ヲ乞フ、五 天皇朝倉橘廣庭宮ニ遷御、耽羅始メテ王子ヲ遣シテ貢献、七 天皇朝倉宮ニ崩ズ、八 皇太子天皇ノ喪ニ奉從還テ磐瀬宮ニ至ル、十 難波ニ泊ス、十一 歸リテ飛鳥川原ニ殯ス（以上卷二十六）、八 阿曇比羅夫以下ヲ將トシテ百済ヲ救ハシム、九 皇太子織冠ヲ百済王子豐璋ニ授ケ本郷ニ衛送セシム
一、三二二	天智 元	西六六二	壬戌	紀廿七	正 百済鬼室福信ニ矢十萬隻稻種三千斛其他物ヲ賜フ、三 唐新羅高麗ヲ伐ツ我國軍將ヲ遣シ之ヲ防ガシム、五 大將軍阿曇比羅夫船師ヲ率テ豐璋ヲ送ル、六 百済進調、十二 百済王豐璋福信等州柔ヨリ避城ニ遷ル
一、三二三	二	西六六三	癸亥	同	二 百済進調、新羅百済ヲ攻ム百済還テ州柔ニ居ル、三 五將ヲシテ新羅ヲ伐タシム、六 我遣將新羅ノ二城ヲ取ル、百済王豐璋福信ヲ疑ヒテ殺ス、八 新羅百済ノ良將ヲ殺スヲ知リ之ヲ攻メムトス 新羅州柔ヲ圍ミ唐軍ハ白村江ニアリ我船師不利、百済王高麗ニ逃去ル、九 百済州柔城唐ニ降ル百済ノ國人弖禮ニ到リテ日本ノ軍將ト共ニ日本ニ向フ
一、三二四	三	西六六四	甲子	同	二 冠位階名ヲ增換シ氏上民部家部等ノ事ヲ宣セシム、三 百済王善光等ヲシテ難波ニ居ラシム、五 百済鎮將劉仁願使ヲ遣シテ表函献物ヲ進ラシム、六 嶋皇祖母命薨、十二 是歳對馬壹岐筑紫ニ防人烽候ヲ置ク、筑紫ニ大堤ヲ築ク水城ト曰フ

紀元	年	西暦	干支	出典	事項
一、三二五	四	六六五	乙丑	同	二 間人皇后薨、百濟男女四百餘人ヲ近江國神前郡ニ置ク、八 百濟ノ遺臣ヲ遣シ長門ニ城キ又大野及椽ノ二城ヲ筑紫ニ築ク、耽羅來朝、九 唐使劉德高來朝、十一 唐客ヲ饗ス、十二 唐客還ル、是歲守君大石等ヲ唐ニ遣ス
一、三二六	五	六六六	丙寅	同	正 高麗進調、耽羅王子來朝貢獻、三 皇太子佐伯子麿ノ家ニ往キ病ヲ問フ、六 高麗使人還ル、七 大水、十 高麗進調、百濟男女二千餘人ヲ東國ニ居ラシム、倭漢ノ沙門知由指南車ヲ獻ル
一、三二七	六	六六七	丁卯	同	二 先帝及間人皇女ヲ小市岡上陵ニ合葬ス、三 近江ニ遷都、七 耽羅貢獻、八 皇太子倭京ニ幸ス、十一 百濟鎭將劉仁願使ヲ遣シテ境部石積等ヲ筑紫ニ送ラシム、是月倭國高安城讃吉國屋嶋城對馬國金田城ヲ築ク、閏十一 耽羅ノ使ニ賜物多シ
一、三二八	七	六六八	戊辰	同	正 皇太子卽位、二 古人大兄皇子ノ女倭姬王ヲ皇后トス、四 百濟進調、五 五日天皇蒲生野ニ獵ス、七 高麗使越路ヨリ進調、越國燃土ト燃水トヲ獻ズ、九 新羅進調、十 唐將李世勣高麗ヲ滅ス、十一 新羅使ニ附シテ國王ニ絹綿韋等ヲ賜フ、是歲沙門道行草薙劍ヲ盜ミテ新羅ニ往カムトス路ニ迷ヒテ歸ル
一、三二九	八	六六九	己巳	同	三 耽羅王子ヲ遣シテ貢獻、五 五日天皇山科野ニ縱獵ス、九 新羅進調、十 藤原內大臣ノ家ニ行幸病ヲ問ハセ給フ、大織冠及大臣ノ位ヲ授ケ姓藤原氏ヲ賜フ、鎌足薨ズ、十二 大藏ニ災アリ、是冬高安城ヲ修ム、使ヲ唐ニ遣ス、佐平餘自信等男女七百餘人ヲ近江國蒲生郡ニ居ラシム、唐郭務宗等二千餘人ヲ遣ス
一、三三〇	九	六七〇	庚午	同	正 朝廷ノ禮儀及行路相避ルコトヲ宣ス、二 戸籍ヲ造リ盜賊浮浪ヲ禁ズ、蒲生郡匱迮野ニ幸シ宮地ヲ觀ス、高安城ヲ脩ム、長門ニ一城筑紫ニ二城ヲ築ク、三 山御井傍ニ諸神座ヲ敷キ幣帛ヲ班ツ、四 法隆寺火、九 使ヲ新羅ニ遣ス、是歲水碓ヲ以テ鐵ヲ冶ス
一、三三一	一〇	六七一	辛未	同	正 五日神事ヲ宣ル、是月大友皇子ヲ太政大臣ニ拜ス、冠位法度ノ事ヲ宣ス、高麗新調、二 百濟進調、三 水臬ヲ獻ル、四 始メテ漏剋ヲ用フ、六 百濟進調、新羅進調別ニ水牛山鷄ヲ獻ル、八 蝦夷ヲ饗ス、十 天皇後事ヲ東宮ニ囑シ給フ辭シテ出家、十一 唐使郭務宗等筑紫ニ至ル、大友皇子左右大臣以下盟誓、近江宮火、五臣大友皇子ヲ奉ジテ御前ニ盟フ、十二 天皇近江宮ニ崩ズ
一、三三二	元	六七二	壬申	紀廿八	五 近江朝廷ノ意ヲ察シテ遁世ノ念ヲ捨テ給フ、六 村國連男依ヲ美濃ニ遣シ自ラ東國ニ入ラムトシ給フ、隱郡橫河ニ到ル時黑雲見エ迹太川ニ天照大神ヲ拜ス、桑名郡家ニ宿シ不破ニ入給フ、天皇高市皇子ニ軍事ヲ悉ク委シ野上行宮ニ居マス漸ク軍衆ヲ得、七 紀阿閉麿等大山ヲ越テ倭ニ向ヒ村國男依等不破ヨリ近江ニ入リ別軍多品治莿萩野ニ屯シ田中足麿倉歷道ヲ守ル又將軍吹負古京ヲ守ル、近江將大野果安乃樂山ニ吹負ヲ破リ同別將田邊小隅倉歷ニ天皇ノ軍ヲ破リ進テ莿萩野宮ヲ襲ハムトシテ敗ラル、男依ハ近江軍ヲ息長橫河及鳥籠山ニ破リ遂ニ進ミテ瀬田ニ到ル近江將智尊戰死シ大友皇子山前ニテ薨ズ、吹負倭ノ地ヲ定メテ難波ニ往キ他ノ諸將ハ三道並進ミテ山前ニ至ル吹負難波ニ留リ以西諸國ノ官鑰驛鈴傳印ヲ進メシメ諸將軍筱浪ニ會シテ左右大臣及諸罪人ヲ採捕ス、八 論功行賞、九 車駕不破宮ヲ發シ崗本宮ニ入給フ、冬飛鳥淨御原宮ニ遷御

（天武：一、三三二の欄より）

紀元	年	西暦	干支	出典	事項
一、三三三	二	西六七三	癸酉	紀廿九	二 即位、正妃ヲ立テ皇后トス、三 備後國白雉ヲ貢ル大赦ス、四 大來皇女ヲ伊勢齋ト定ム、五 仕官者任用ノ制ヲ定ム、閏六 耽羅朝貢、新羅賀登極使及先皇弔喪使來、八 高麗朝貢、
一、三三四	三	西六七四	甲戌	同	正 百濟王昌成薨、三 對馬國司銀ヲ貢ス、八 忍壁皇子ヲ石上神宮ニ遣シ神寶ヲ瑩カシム、十 大來皇女伊勢ニ向フ
一、三三五	四	西六七五	乙亥	同	正 百寮御薪ヲ進ル、占星臺ヲ興ス、諸社奉幣、二 能歌男女及侏儒伎人ヲ貢セシム、十市阿閇皇女神宮ニ參赴、詔シテ諸氏ニ給フ部曲ヲ罷メ王臣諸寺ニ賜フ山澤林野ヲ除カシム、詔シテ諸人ヲシテ諸惡ヲ作ス莫ラシム、高安城ニ幸ス、高麗新羅進調、四 貸稅ノ制ヲ定ム、龍田廣瀨神ヲ祭ラシム、檻穽機槍ヲ造ルヲ禁ジ且牛馬犬猨雞ノ宍ヲ食フヲ禁ズ、麻續王ヲ流ス、新羅王子來ル、七 使ヲ新羅ニ遣ス、九 耽羅王來ル、十 筑紫ヨリ貢ル唐人ヲ遠江ニ置ク、諸王以下初位以上ニ兵ヲ備ヘシム、十一 大ニ地動
一、三三六	五	西六七六	丙子	同	正 親王以下ニ衣袴褶腰帶等ヲ賜フ、國司任用ノ制ヲ定ム、四 進仕ノ制ヲ定ム、五 下野國飢饉子ヲ賣ラムトスルモノアリ、是夏大旱五穀不登、七 星東ニ出ヅ九月ニ至テ長サ天ニ竟ル、八 大解除、大赦、九 雨ニヨリ告朔セズ、屋垣王ヲ土左ニ流ス、新嘗國郡ト定、十 幣帛ヲ相新嘗ノ諸神祇ニ祭ル、使ヲ新羅ニ遣ス、十一 新嘗ヲ以テ告朔セズ、新羅進調肅愼七人從ヒテ至ル、高麗朝貢、是歲新城ニ都造ラムトス
一、三三七	六	西六七七	丁丑	同	二 多禰嶋人等ヲ飛鳥寺西槻下ニ饗ス、三 新羅使人ヲ京ニ召ス、四 杙田名倉乘輿ヲ指斥スルニ坐シ伊豆嶋ニ流サル、五 旱ス、天社地社神稅ノ制ヲ定ム、六 大ニ地震動、是月東漢直等蘇我氏ニ黨シテ不軌ヲナスヲ責ム、十一 赤烏ヲ獻ズ、大赦、己卯新嘗
一、三三八	七	西六七八	戊寅	同	正 是春天神地祇ヲ祠ラムトシテ天下祓禊シ齋宮ヲ倉梯河上ニ竪ツ、四 齋宮ニ幸セムトス十市皇女俄ニ薨ズルニ依テ止ム、九 瑞稻ヲ獻ズ、徒罪以下ヲ赦ス、十 甘露降ル、內外文武官進階ノ制ヲ定ム、十二 筑紫大地震
一、三三九	八	西六七九	己卯	同	正 詔シテ王臣百寮正月ニ兄姉以上ノ親族及氏上以外ヲ拜スルコトヲ禁ズ、二 高麗朝貢、三 齊明天皇陵ヲ拜ス、五 吉野宮ニ幸ス、天皇皇后及皇子ト千歲ノ後ヲ盟ヒ給フ、八 泊瀨ニ幸シ群卿ノ細馬ヲ看給フ、嘉禾ヲ獻ル、十 詔シテ巷里ニ暴惡者多キヲ戒ム、僧尼ノ威儀服色等ヲ定ム、新羅朝貢、十一 初メテ關ヲ龍田大坂山ニ置キ難波ニ羅城ヲ築ク、十二 嘉禾ニヨリ大赦、是歲紀伊國芝草ヲ因幡國瑞稻ヲ貢ル
一、三四〇	九	西六八〇	庚辰	同	正 攝津國活田村桃李實ル、三 菟田ノ吾城ニ幸ス、四 新羅使ヲ筑紫ニ饗ス、勅シテ諸寺官治ノ範圍及食封ノ年限ヲ定ム、五 高麗朝貢、七 縣犬養連大伴ノ家ニ幸シ病ヲ問給フ、八 嘉禾ヲ貢ル、九 朝嬬ニ幸ス、十一 詔シテ百官ヲシテ國家ヲ利シ百姓ヲ寬ニスベキ意見ヲ上ラシム、皇后不豫、新羅進調

年	干支	出典	事項
一、三四一　一〇　西六八一	辛巳	同	正幣帛ヲ諸神祇ニ頒ツ、畿内及諸國天社地社ヲ修理セシム、二律令ヲ定メ法式ヲ改メムトス、草壁皇子ヲ立テ皇太子トス、三勅シテ帝記及上古ノ諸事ヲ記シ定メシム、四禁式九十二條ヲ立ツ、五皇祖ノ御魂ヲ祭ル、七朱雀見ユ、新羅高麗使ヲ遣ス、天下大解除、八伊勢國白茅鴟ヲ貢ル、多禰嶋ニ遣セル使其國圖ヲ貢ル、九周防國赤龜ヲ貢ル、詔シテ氏上未定ノ者ヲ申送セシム、彗星見ユ、十新羅朝貢、新羅使國王(文武王)ノ薨ヲ告グ
一、三四二　一一　西六八二	壬午	同	三新城ノ地形ヲ檢ス、新字四十四卷ヲ造ラシム、新城ニ幸ス、百官ノ位冠及襌褶脛裳ヲ著シ膳夫采女手繦肩巾ヲ著クルヲ禁ズ又食封ヲ公ニ返サシム、四越蝦夷等一郡ヲ建テムコトヲ請フ、男女結髮ノ制ヲ定ム、六高麗王方物ヲ貢ス、始テ漆紗冠ヲ著ク、七隼人來貢、多禰掖玖阿麻彌人ニ賜祿、八大星東ヨリ西ニ度ル、法令ヲ造ル、大地動、考選ノ制ヲ定ム、九勅シテ跪禮匍匐ノ禮ヲ止メ立禮ヲ行フ、十大酺、十一犯法者ノ糺彈ヲ嚴ニス、十二氏上ヲ定メテ上申セシム
一、三四三　一二　西六八三	癸未	同	正瑞祥多シ大赦課役ヲ免ス、二大津皇子始テ朝政ヲ聽ク、三僧正僧都律師ヲ任ズ、四銅錢ヲ用ヒ銀錢ヲ禁ズ又銀ヲ用フルヲ禁ズ、七鏡女王ノ家ニ幸シ訊病、天皇京師ヲ巡幸ス、是月ヨリ八月ニ至ルマデ旱、八大赦、九倭直以下卌八氏ニ姓連ヲ賜フ、十三宅吉士以下十四氏ニ賜姓、天皇倉梯ニ狩獵、十一諸國ヲシテ陣法ヲ習ハシム、新羅進調、十二使ヲ遣シ諸國ノ境堺ヲ定メシム、詔シテ文武官人及畿内有位人四孟月ニ必ズ朝參セシム
一、三四四　一三　西六八四	甲申	同	二新羅進調使ヲ畿内ニ遣シ都スベキ地ヲ占視ス、信濃ノ地形ヲ看シム、三天皇京師巡幸宮室ノ地ヲ定給フ、四赦罪、新羅ニ使ヲ遣ス、閏四百寮ノ進止威儀ヲ教フ、男女ノ服制及女子ノ髮制ヲ定ム、五化來百濟人ヲ武藏ニ置ク、高麗ニ使ヲ遣ス、六彗星見ユ、十天下萬姓ヲ混ジテ八姓トス、諸國境堺ヲ定メシム、耽羅ニ使ヲ遣ス、諸國大地震土佐ノ田苑海ニ沒シ伊豆西北嶋ヲ生ズ
一、三四五　一四　西六八五	乙酉	同	正爵位ヲ改メ階級ヲ增シ併セテ四十八階トス、二唐高麗百濟人百四十七人ニ爵位ヲ賜フ、三諸國家毎ニ佛舍ヲ作リ禮拜セシム、信濃國灰降ル、五飛鳥寺ニ幸ス、七朝服ノ色ヲ定ム、諸國有位人ノ課役ヲ免ズ、八淨土寺ニ幸ス、川原寺ニ幸ス、九京畿内人夫ノ數ヲ校セシム、六道ノ國郡司及百姓ノ消息ヲ巡察セシム、大安殿ニ於テ王卿等博戲、天皇不豫、十一大宰所請儲用ノ物ヲ筑紫ニ送下ス、私家ニ藏スル兵器ヲ郡家ニ收メシム、白錦後苑ニ幸ス、法藏等白朮煎ヲ獻ル、天皇ノ爲ニ招魂ス、新羅請政進調
一、三四六　朱鳥元　西六八六	丙戌	同	正無端事(謎々)ヲ王卿ニ問フ、難波宮室悉ク燒ク、大酺ス、四新羅進調、多貴皇女等ヲ神宮ニ遣ス、五玉體不安、勅シテ諸寺堂塔ヲ掃淸シ大赦ス、六草薙劔ヲ熱田社ニ送還ス、七男夫ハ脛裳ヲ着ケ婦女ハ垂髮スルコト故ノ如クナラシム、諸國大解除、天下調ヲ半減シ傜役悉ク免ズ、民部省災、勅シテ天下ノ事悉ク皇后及皇太子ニ啓セシム、百姓ノ貸稻及貨財ヲ皆原免セシム、朱鳥ト改元、九天皇崩ズ皇后臨朝稱制(以上卷二十九)、十大津皇子謀反死ヲ賜フ、十一伊勢齋大來皇女歸京
一、三四七　元　西六八七	丁亥	紀卅	正皇太子百官ヲ率キテ殯宮ニ哭ス、三投化高麗人五十六人ヲ常陸國ニ置ク、投化新羅人十四人ヲ下毛野國ニ置ク、四投化新羅僧俗廿二人ヲ武藏國ニ置ク、六罪人ヲ赦ス、八殯宮ニ嘗ス、九九日國忌齋ヲ京師諸寺ニ設ク、新羅國政ヲ奏請シ調賦ヲ獻ル、十太子公卿百寮百姓男女ヲ率キテ始テ大内陵ヲ築ク
一、三四八　二　西六八八	戊子	同	正元日太子公卿百寮ヲ率キ殯宮ニ哭ス、天皇ノ崩御ヲ新羅王子ニ宣ス、二新羅調賦及佛像等ヲ獻ズ、詔シテ國忌日ニ必ズ齋セシム、五百濟敬須德那利ヲ甲斐ニ移ス、六詔シテ罪人ヲ減免シ調賦ハ半ヲ納メシム、八殯宮ニ嘗ス、伊勢王ヲシテ葬儀ヲ奉宣セシム、十一四日皇太子公卿以下ヲ率キ諸蕃賓客ト殯宮ニ哭ス、十一日殯宮ニ奉誄畢テ大内陵ニ奉葬、十二蝦夷男女ヲ饗シ冠位ヲ授ク

一、三四九 **三** 西六八九	己丑	紀 卅	**正**大學寮杖ヲ獻ズ、吉野宮ニ幸ス、**三**大赦、**四**投化新羅人ヲ下毛野國ニ置ク、皇太子草壁皇子薨、諸司仕丁ニ月假日ヲ定ム、**五**新羅弔使ニ其位ノ低キヲ詰問ス、**六**施基皇子以下ヲ撰善言司ニ拜ス、諸司ニ令一部廿二卷ヲ賜フ、**八**百官神祇官ニ會集シテ天神地祇ノ事ヲ奉宣ス、天皇吉野ニ幸ス、**閏八**諸國司ニ詔シテ戸籍ヲ造ラシム、諸國兵士ニ武事ヲ習ハシム、**十**高安城ニ幸ス、**十二**雙六ヲ禁斷ス
一、三五〇 **四** 西六九〇	庚寅	同	**正**皇后即位、解部一百人ヲ刑部省ニ併ス、畿內天神地祇ニ班幣神戸田地ヲ增ス、**二**腋上陂ニ幸シ公卿大夫ノ馬ヲ觀給フ、新羅僧俗五十人歸化、吉野宮ニ幸ス、歸化新羅人ヲ武藏ニ居ラシム、**四**詔シテ百官考仕ノ制ヲ定メ又朝服ノ色ヲ定ム、**五**百濟人廿一人歸化、**六**泊瀨ニ幸ス、**七**天神地祇ニ班幣、高市皇子ヲ太政大臣ニ任ズ、朝堂ノ禮ヲ定ム、**八**歸化新羅人ヲ下毛野ニ居ラシム、**九**戸籍ヲ造ラシム、紀伊ニ幸ス、**十**高市皇子藤原宮地ヲ觀ル、**十一**始メテ元嘉曆ト儀鳳曆トヲ行フ、天皇藤原宮ノ地ヲ觀給フ、是歲屢々吉野宮ニ幸ス
一、三五一 **五** 西六九一	辛卯	同	**正**高市皇子以下封戸ヲ增ス、吉野宮ニ幸ス、**三**奴婢ノ制ヲ定ム、**四**吉野宮ニ幸ス、**六**四月ヨリ雨降リテ是月ニ至ル、天下大赦、**七**吉野宮ニ幸ス、**八**十八氏ニ詔シテ其祖ノ纂記ヲ上ラシム、使ヲ遣シ龍田風神信濃ノ須波水內等ノ神ヲ祭ル、**九**川嶋皇子薨、**十**陵墓守戸ノ數ヲ定ム、諸國長生地ヲ置ク、吉野宮ニ幸ス、新益京ヲ鎭祭、**十一**大嘗
一、三五二 **六** 西六九二	壬辰	同	**正**天皇新益京路ヲ觀給フ、高宮ニ幸ス、**二**三輪高市麿農業ヲ妨グルニヨリ伊勢行幸ヲ諫ム、**三**伊勢ニ行幸、天下大赦、**四**繫囚見徒ヲ原ス、**五**阿胡行宮ニ御ス、相摸國司赤烏雛ヲ獻ル、吉野宮ニ幸ス、伊勢大倭住吉紀伊大神ニ奉幣、**閏五**大水郡國ニ稟貸ス、筑紫大宰ニ詔シ沙門ヲシテ佛教ヲ傳ヘシム、**六**天皇藤原地ヲ觀給フ、**七**大赦、吉野宮ニ幸ス、**八**赦罪、**九**神祇官神寶書四卷ヲ上ル、伊勢嘉禾ヲ越前白蛾ヲ獻ル、**十**吉野宮ニ幸ス、**十一**新羅進調、**十二**新羅調ヲ伊勢住吉紀伊大倭菟名足ノ五社ニ奉ル
一、三五三 **七** 西六九三	癸巳	同	**正**百姓奴僕ノ服色ヲ定ム、漢人踏歌ヲ奏ス、**二**新羅王(神文王)ノ喪ヲ告グ、**三**大學博士ニ封ヲ賜ヒ儒道ヲ優ス、天下ヲシテ桑紵梨栗蕪菁等ヲ勸殖シ五穀ヲ助ケシム、**五**吉野宮ニ幸ス、**八**藤原宮地ニ幸ス、**九**多武嶺ニ幸ス、繫囚ヲ悉ク免ス、**十**始メテ仁王經ヲ諸國ニ講ゼシム、**十一**耽羅王子ニ賜物、**十二**陣法博士ヲ諸國ニ遣シ教習セシム、是歲吉野ニ五度幸ス
一、三五四 **八** 西六九四	甲午	同	**正**漢人及唐人踏歌ヲ奏ス、藤原宮ニ幸ス、吉野宮ニ幸ス、**三**鑄錢司ヲ任ズ、近江國益須郡醴泉涌諸病ヲ愈ス、諸社奉幣、**六**河內國白山鷄ヲ獻ル、**七**巡察使ヲ諸國ニ遣ス、**十一**殊死以下ヲ赦ス、**十二**藤原宮ニ遷御
一、三五五 **九** 西六九五	乙未	同	**閏二**新羅國政ヲ奏請シ進調獻物、**八**遣新羅使發ス、**十**菟田吉隱ニ幸ス、是歲吉野宮ニ五度幸ス
一、三五六 **一〇** 西六九六	丙申	同	**二**吉野宮ニ行幸四月六月亦幸ス、**三**二槻宮ニ幸ス、越度嶋蝦夷及肅愼ニ賜物、**七**後皇子尊(高市)薨ズ、**十**右大臣丹比眞人ニ輿杖ヲ賜フ

皇紀	年	西暦	干支	出典	事項
一、三五七	元	六九七	丁酉	續一	四叙位、吉野宮ニ幸ス、六罪人ヲ赦ス、神祇ニ班幣ス、公卿以下天皇ノ御病ノタメニ佛像ヲ造ル、大夫謁者ヲシテ諸社ニ雨ヲ請ハシム、八天皇皇太子ニ禪位(以上書紀巻三十)、受禪位、九京ニ嘉稻生ジ近江國白鷰ヲ丹波國白鹿ヲ獻ズ、十陸奥蝦夷來貢、新羅使來朝、十二越後ノ蝦狄ニ物ヲ賜フ、閏十二播磨阿波等八國飢ウ、正月ニ祖兄及氏上以外ヲ拜スルコトヲ禁ズ
一、三五八	二	六九八	戊戌	同	正新羅朝貢使拜賀貢調、新羅ノ貢物ヲ諸社並ニ大内山陵(天武)ニ獻ル、宇智郡ニ幸ス、三越後疫、四近江紀伊疫、使ヲ南嶋ニ遣シ國ヲ覓メシム、五大野基肄鞠智三城ヲ繕治ス、六越後ノ蝦狄方物ヲ獻ズ、七公私奴婢ノ笞法ヲ定メ博戲遊手ノ徒ヲ禁ズ、八高安城修理、朝儀ノ禮ヲ定ム、九麻績連服部連ノ氏上氏助ヲ定ム、當耆皇女ヲ伊勢齋宮トス、十藥師寺成ル、陸奥蝦夷方物ヲ獻ズ、十一七日使ヲ諸國ニ遣シ大祓ス廿三日己卯大嘗、十二對馬金鑛ヲ冶ス、越後國石船柵修理
一、三五九	三	六九九	己亥	同	正難波宮ニ幸ス、三巡察使ヲ畿内ニ遣シテ非違ヲ檢察セシム、四越後蝦夷ニ爵ヲ賜フ、五役君小角ヲ伊豆嶋ニ流ス、六山田寺ニ封三百戸ヲ施ス、七多褹夜久菴美度感等來貢、八南嶋ノ獻物ヲ伊勢及諸社ニ奉ル、九高安城修理、正大貳已下無位已上人別ニ弓矢甲桙及兵馬ヲ備ヘシム、十大赦、越智山科二山陵營造、巡察使ヲ諸國ニ遣シ非違ヲ檢察セシム、十二大宰府ニ命ジ三野稻積二城ヲ修ム、始メテ鑄錢司ヲ置ク
一、三六〇	四	七〇〇	庚子	同	正左大臣多治比嶋ニ靈壽杖及輿ヲ賜フ、二石船柵修營、巡察使ヲ東山道ニ遣ス、王臣京畿ニ勅シテ戎具ヲ備ヘシム、三道照和尚寂ス火葬ヲ以テ葬ル、諸臣ニ詔シテ令文ヲ讀習セシメ又律條ヲ撰成ス、諸國ニ牧地ヲ定メ牛馬ヲ放タシム、五遣新羅大小使ヲ任ズ、六刑部親王藤原不比等等ニ勅シテ律令ヲ撰定セシム、十初メテ製衣冠司ヲ置ク、筑紫惣領大貳周防吉備ノ惣領ヲ任ズ
一、三六一	大寶元	七〇一	辛丑	續二	正朔天皇大極殿ニ受朝、遣唐使ヲ任ズ、二始メテ下物職ヲ任ス、始メテ釋奠、泉内親王ヲ伊勢齋宮ニ侍ラシム、吉野離宮行幸、三使ヲ陸奥ニ遣シ金ヲ冶ヘシム、對馬金ヲ貢ス、建元大寶元年トス、新令ニ依リ官名位號ヲ制ス、中納言ヲ罷ム、丹波地震三箇月、四始メテ新令ヲ講ズ、五入唐使ニ節刀ヲ授ク、休暇ノ制ヲ定ム、六太上天皇(持統)吉野離宮ニ幸ス、七左大臣多治比嶋薨ズ、八律令成ル、東海東山北陸山陰山陽等十七國蝗及大風、高安城ヲ廢ス、衞士ヲ衞門府ニ配ス、九諸國ノ産業ヲ巡省シ百姓ヲ賑恤ス、紀伊國ニ幸ス、十一始メテ造大幣司ヲ任ズ
一、三六二	二	七〇二	壬寅	同	正朔大極殿ニ受朝、親王及大納言始メテ禮服ヲ著ク、紀伊國賀陀驛家ヲ置ク、二始メテ新律ヲ天下ニ頒ツ、大幣ヲ班ツ、諸國ノ國師ヲ任ズ、歌斐國梓弓ヲ獻ズ三月亦獻ル、三度量ヲ諸國ニ頒ツ、幣帛ヲ畿内七道諸社ニ頒ツ、越中國四郡ヲ分チ越後國ニ屬ス、四飛驒國神馬ヲ獻ズ、大赦、諸國國造ノ氏ヲ定ム、五大伴安麻呂等五人朝政ヲ參議セシム、六遣唐使出發、美濃國八蹄馬ヲ獻ズ、吉野離宮ニ幸ス、大赦、八薩摩多褹ヲ征討ス、九大赦、十太上天皇參河ニ幸ス、律令ヲ天下諸國ニ頒ツ、義家ニ復ヲ給シ門閭ニ旌表ス、十二始メテ美濃國岐蘇山道ヲ開ク、太上天皇不豫、大赦、廿二日太上天皇崩
一、三六三	三	七〇三	癸卯	續三	正朔、七道ノ政績ヲ巡省シ寃枉ヲ申理セシム、新羅國王ノ喪ヲ告グ、刑部親王ヲ知太政官事トス、閏四大赦、右大臣阿倍御主人薨ズ、五相摸國疫、七籍帳ハ庚午年籍ヲ定メトシ數々易フルコト勿シム、凶歳ニ依リ京畿及大宰管内諸國調半バヲ減ジ並ニ天下ノ庸ヲ免ズ、五位已上ニ詔シテ賢良方正ノ士ヲ擧ゲシム、九遣新羅使ヲ任ズ、十二太上天皇奉諡大倭根子天之廣野日女尊ト奉諡是日飛鳥ニ火葬シ奉ル
一、三六四	慶雲元	七〇四	甲辰	同	正大納言石上麿ヲ右大臣ニ任ズ、親王ノ封戸ヲ増シ右大臣已下ニ賜封、百官跪伏ノ禮ヲ停ム、三信濃疫、四信濃弓ヲ獻ル、五慶雲見ル、大赦、慶雲ト改元ス、七粟田眞人唐國ヨリ歸ル、八遣新羅使歸ル、伊賀伊勢二國蝗、周防大風、十遣新羅大使ヲ任ズ、幣帛鳳凰鏡窠子錦ヲ伊勢大神宮ニ奉ル、是歳伊賀伊豆二國疫

皇紀	年號	西暦	干支	出典	事項
一、三六五	慶雲二	西七〇五	乙巳	續三	三 倉橋離宮ニ幸ス、四 凶歳天下今年擧稅ヲ免ジ又庸半ヲ減ゼシム、天下諸國ヲ巡省セシム、大納言四人ヲ二人トシ更ニ中納言三人ヲ置ク、五 遣新羅使歸ル、八 著甚シキニ依テ天下ニ大赦シ諸國調ノ半ヲ免ズ、九 穗積親王ヲ知太政官事トス、十 新羅貢調、十一 詔アリ五位ハ食封ニ代フルニ位祿ヲ以テス、十二 都下諸寺ニ權リニ食封ヲ施ス、令シテ天下婦女神部齋宮宮人及老嫗以外ハ皆蓄髪セシム、新羅使入京、是歳二十國飢疫
一、三六六	三	西七〇六	丙午	同	正 新羅調貢、使人還ルトキ其王ニ勅書ヲ賜フ、閏正 京畿及紀伊等四國疫、天下疫アリ神祇ニ禱祈セシム泉內親王伊勢大神宮ニ參ル、二 食封其他七條ノ制アリ、甲斐信濃等五國十九社ヲ始メテ新年幣帛ノ例ニ入ル、三 王公諸臣山澤ヲ占ムルヲ戒ム、四 河內等七國飢、七 大宰府所部九國三島亢旱大風、八 遣新羅大使ヲ任ズ、田形內親王ヲ伊勢齋トス、九 田租ノ法ヲ定ム、難波ニ行幸ス、十二 多紀內親王ヲシテ伊勢大神宮ニ參ラシム、脛裳ヲ脫ギ白袴ヲ著ケシム、是年天下疫疾百姓多死始テ土牛ヲ作テ大ニ儺ス
一、三六七	四	西七〇七	丁未	同	正 王臣ヲシテ遷都ノ事ヲ議セシム、三 遣唐副使唐國ヨリ歸ル、四 日並知皇子命薨日ヲ國忌トス、藤原不比等ニ食封五千戸ヲ賜フ、天下疫飢賑恤ヲ加フ丹波出雲石見尤モ甚シ、六 十五日天皇崩御壽二十五(以上卷三)七 天皇(元明)大極殿ニテ卽位、始メテ授刀舍人寮ヲ置ク、十一 先帝ヲ飛鳥岡ニ火葬シ安古山陵ニ奉葬、十二 弊俗改革ノ詔出ヅ
一、三六八	和銅元	西七〇八	戊申	續四	正 武藏國秩父郡和銅ヲ獻ズ、十一日和銅ト改元、二 始メテ催鑄錢司ヲ置ク、平城ニ都セムトス、三 石上麻呂ヲ左大臣ニ不比等ヲ右大臣ニ任ズ、大宰府帥大貳並三關及尾張守等ニ始メテ傔仗ヲ給フ、四 貢人位子ノ制ヲ定ム、五 始メテ銀錢ヲ行フ、長門國甘露降ル、七 群臣ヲ戒メ其職ヲ恪守セシム、近江ヲシテ銅錢ヲ鑄シム、八 始メテ銅錢(和銅開珍)ヲ行フ、衣ノ標ノ闊サヲ定ム、九 菅原ニ幸ス、平城ニ幸シテ地形ヲ觀給フ、山背岡田離宮ニ幸ス、越後出羽郡ヲ建ツ、十一 大嘗遠江但馬二國供事ス
一、三六九	二	西七〇九	己酉	同	正 銀錢ノ私鑄ヲ禁ズ、二 筑紫觀音寺ヲ速ニ造營セシム、遠江ノ長田郡ヲ分チテ二郡トス、三 陸奥越後ノ蝦夷叛心アリ巨勢朝臣麻呂ヲ鎭東將軍佐伯宿禰石湯ヲ征越後蝦夷將軍トス、雜物ヲ造ル法用司ヲ置ク、五 河內攝津山背伊豆甲斐霖雨、新羅方物ヲ貢ス、六 諸國驛起稻帳ヲ進ラシム、大宰率已下ノ事力半減、七 諸國ノ兵器ヲ出羽柵ニ運バシム、八 銀錢ヲ廢シテ銅錢ヲ行ハシム、征蝦夷將軍入朝、平城宮ニ幸ス、九 藤原房前ヲ東海東山二道ニ遣シ關剗ヲ檢察シ風俗ヲ巡省セシム、十 備後國葦田郡甲努村ヲ建テテ郡トス、薩摩國隼人郡司已下二百餘人入朝、十二 平城宮ニ幸ス
一、三七〇	三	西七一〇	庚戌	續五	正 日向采女ヲ薩摩隼人ヲ貢ス、二 始メテ守山戸ヲ充テ木ヲ伐ルコトヲ禁ゼシム、三 畿外ノ人ヲ帳內資人ニ採用スル時ハ官ノ處分ヲ待タシム、十 平城ニ遷都ス、左大臣石上朝臣麻呂ヲ留守トス、九 銀錢通用ヲ禁ズ
一、三七一	四	西七一一	辛亥	同	正 始メテ都亭ノ驛ヲ置ク、三 上野國甘樂郡綠野郡ヲ割テ多胡郡ヲ置ク、四 大倭吉野郡ニ大少領主政主帳ヲ置ク、賀茂祭ニハ以後國司親ラ檢察セシム、五 穀六升ヲ以テ錢一文ニ當テ交關セシム、閏六 挑文師ヲ諸國ニ遣シ錦綾ヲ織ルコトヲ教習セシム、七 詔シテ律令ヲ勵行セシム、十 品位ニ依リテ祿法ヲ定メ私鑄錢ヲ禁ズ、十一 諸國大稅三年ノ間其利ヲ收メズ私稻ヲ出擧スルモノ以後半利ニ過グルヲ得ザラシム、十二 外印僞造者ヲ信濃ニ流ス、豪族ノ山野ヲ占領スルヲ禁ズ、蓄錢叙位ノ法ヲ定ム
一、三七二	五	西七一二	壬子	同	正 河內高安烽ヲ廢シ高見及大倭烽ヲ置キ平城ニ通ゼシム、五 六位已下白銅及銀ヲ以テ革帶ヲ飾ルヲ禁ズ、七 伊賀國玄狐ヲ獻ル、伊勢等廿一國ヲシテ始メテ綾錦ヲ織ラシム、八 高安城ニ幸ス、九 家原音那紀朝臣音那ノ貞節ヲ嘉ス、大赦、始メテ出羽國ヲ置ク、十 陸奥國最上置賜二郡ヲ割キ出羽國ニ隷ス、六位已下及宮人等ノ服蘇芳色ヲ用ヒ並ニ賣買スルヲ禁ズ、遣新羅使辭見、十二 衣服ノ制ヲ定メ諸國所送調庸錢ヲ以テ換フルノ制ヲ立ツ

皇紀	年號	西暦	干支	出典	事項
一、三七三	六	西七一三	癸丑	六續	二度量調庸義倉等ニツキ五條ヲ制ス、三豪富ノ家ニ募リ米ヲ路傍ニ置テ負擔ノ寠ニ賣買セシム、田ヲ賣買スルニ錢ヲ以テ價トセシム、四丹波國五郡ヲ割キ丹後國ヲ備前國六郡ヲ割キ美作國ヲ日向國四郡ヲ割テ大隅國ヲ置ク、新格並權衡度量ヲ天下諸國ニ頒下ス、五諸國郡郷ノ名ハ好字ヲ著ケ其風土記ヲ上ラシム、雲母水銀石流黃白礬石黃礬石ヲ諸國ヨリ獻ラシム、山背國ニ乳牛戸五十戸ヲ點ゼシム、六甕原離宮ニ幸ス、七吉蘇路ヲ通ズ、九攝津國玖左佐村ヲ郡トス、已前出擧セル公私稻粟ヲ免除ス、十一伊賀伊勢等六國大風、十二陸奥國丹取郡ヲ建ツ
一、三七四	七	西七一四	甲寅	同	正相摸上野等五國始メテ絁調ヲ輸セシム、二商布二丈六尺ヲ段トシ常ヲ用ヒザラシム、調庸以外ニ人每ニ絲一斤綿二斤布六段ヲ儲ヘテ苦乏セシメザラシム、紀淸人三宅藤麻呂ヲシテ國史ヲ撰バシム、出羽國養蠶セシム、諸國囚徒ヲ錄セシム、閏二甕原離宮ニ行幸、三豐前國民二百戸ヲ移シテ隼人ヲ勸導ス、四太政官奏諸國大中少ノ倉ヲ造リテ虛帳ナカラシム、六皇太子元服、九制シテ錢ヲ擇ブヲ得ザラシム、美作等六國大風、尾張上野等ノ民二百戸ヲ割テ出羽ノ柵戸ニ配ス、十一新羅朝貢、十二南嶋奄美信覺球美等嶋人來ル
一、三七五	靈龜元	西七一五	乙卯	七續	正慶雲見ハル、遠江國白狐ヲ丹波國白鴿ヲ獻ス、大赦、三甕原離宮ニ幸ス七月亦幸、五伯耆甘露降ル、詔シテ調庸ノ運輸器仗ノ營造ニツキ國司ヲ戒ム、遠江國大地震三郡民家ヲ沒ス、更ニ義倉ノ法ヲ定ム、參河國地震正倉四十七破壞民家陷沒、東國六國ノ富民千戸ヲ陸奥ニ配ス、六長親王薨、都祁山道ヲ開ク、七知太政官事穗積親王薨、十美濃國席田郡ヲ建ツ、八靈龜ヲ獻ズ（以上卷五）、九受禪大極殿ニ即位、和銅八年ヲ靈龜元年ト改ム、十饑饉ニ備フルタメ百姓ヲシテ男夫一人麥禾二段ヲ兼種エシム
一、三七六	二	西七一六	丙辰	同	四河内國三郡ヲ割キ和泉監ヲ置ク、五諸國軍團大少毅ハ郡領三等以上ノ親ヲ連任スルヲ得ザラシム、諸國司ヲシテ部内荒廢ノ寺家ヲ併兼セシメ檀越ノ寺田ヲ擅ニスルヲ禁ゼシム、駿河甲斐相摸等七國ノ高麗人ヲ武藏國ニ遷シ高麗郡ヲ置ク、隼人交替ノ期ヲ六年トス、元興寺ヲ左京ニ徙建、六新羅紫驃馬ヲ獻ル、資人家令ノ數ヲ定ム、八志貴親王薨、遣唐使ヲ任ズ、九陸奥二郡及信濃上野等四國ノ百姓各百戸ヲ出羽國ニ遷ス、十重ネテ内外諸司薄紗朝服六位以下ノ羅ノ幞頭ヲ禁ズ、十一大嘗由機遠江須機但馬
一、三七七	養老元	西七一七	丁巳	同	二遣唐使神祇ヲ祠ル、難波宮ニ幸シ和泉宮ニ遷御、遣唐使拜朝、信濃上野越前等ノ百姓各一百戸ヲ出羽ノ柵戸ニ配ス、三左大臣石上麻呂薨、四久勢女王ヲ伊勢大神宮ニ侍ラシム、調庸ノ斤兩及長短ノ法ヲ定ム、僧尼ノ違法ヲ禁ズ、五上總信濃二國絁調ヲ貢セシム、百姓ノ浮浪ヲ禁ズ、大計帳四季帳六年見丁帳青苗簿輸租帳等ノ式ヲ諸國ニ頒下、六四月ヨリ雨降ラズ、九美濃國ニ行幸、多度山ノ美泉ヲ御覽、十一高麗百濟二國士卒歸化、靈龜ヲ改メテ養老トス、太政官ノ絹絁精麁長短廣闊ノ法ヲ議奏ス、和泉離宮ニ幸ス
一、三七八	二	西七一八	戊午	八續	正舍人親王ニ一品ヲ授ク、二美濃ノ醴泉ニ再幸、三還幸、四筑後守道君首名卒死後百姓之ヲ祠ル、五越前ノ四郡ヲ割テ能登國ヲ上總ノ四郡ヲ割テ安房國ヲ陸奥ノ六郡ヲ割テ石城國ヲ陸奥五郡及常陸國多珂郡ヲ割テ石背國ヲ置ク、遣新羅使等辭見、衞士ノ數ヲ定ム、八出羽及渡嶋ノ蝦夷馬千疋ヲ貢ス、九法興寺ヲ新京ニ遷ス、十一彗星月ヲ守ル、始メテ畿內兵士ヲ差シテ宮城ヲ守衞セシム、十二遣唐使多治比縣守等來歸、前年ノ大使坂合部大分亦來歸
一、三七九	三	西七一九	己未	同	正船二艘獨底船十艘ヲ大宰府ニ充ツ、二天下百姓ヲシテ襟ヲ右ニシ職事主典以上把笏セシム、粟田眞人薨、遣新羅使等來歸、和泉宮ニ行幸、四志摩國佐藝郡ヲ置ク、五新羅貢調使來朝、諸國貢調短絹狹絁等ノ法ヲ定ム、六皇太子（聖武）朝政ヲ聽ク、稅及雜稻ハ穀トシテ收メシム、七拔出司ヲ置ク、東海等三道ノ民ヲ出羽柵ニ遷配ス、按察使ヲ置ク、閏七石城國ニ驛家ヲ置ク、八遣新羅使等拜辭、九河內攝津山背三國ノ攝官ヲ任ズ、諸國旱飢賑恤、十諸國ノ軍團並大少毅兵士等ノ數ヲ減ズ、十二婦女衣服ノ樣ヲ定ム、位分資人ヲ定メ事業防閤伏身ヲ補ス
一、三八〇	四	西七二〇	庚申	同	正僧尼ニ公驗ヲ授ク、使ヲ靺鞨國ニ遣シ其風俗ヲ觀察セシム、二隼人反シ大隅國守ヲ殺ス、三征隼人持節大將軍ヲ任ズ、四蘇芳色ヲ服スル身分ヲ定ム、五皇親ノ服制ヲ定ム、尺ノ樣ヲ諸國ニ頒ツ、日本紀撰修功成奏上、伊豆等三國ニ驛鈴ヲ給フ、八勅シテ征隼人持節將軍ヲ入京セシム、藤原不比等薨、舍人親王ヲ知太政官事トス、九蝦夷反亂按察使ヲ殺スト奏ス、持節征夷將軍持節鎮狄將軍ヲ任ズ、十養民造器造興福寺佛殿ノ三司ヲ置ク、不比等ニ太政大臣正一位ヲ贈ル、十一南島人ニ授位、河內國堅上堅下二郡ヲ更ニ大縣郡ト號ス

紀元・年號・西暦	干支	出典	事項
一、三八一 養老五 西七二一	辛酉	續八	正 武藏上野並ニ赤烏ヲ甲斐白狐ヲ献ズ、銀錢一ヲ銅錢廿五ニ銀一兩ヲ一百錢ニ當ツ、三 官品ニヨリ畜馬ノ數ヲ限定ス、四 佐渡國ニ賀母羽茂ノ二郡ヲ備前國ニ藤野郡ヲ備後國ニ深津郡ヲ周防國ニ玖珂郡ヲ置ク、諸國力田ノ人ヲ擧ゲシム、征夷將軍鎭狄將軍入京、五 太上天皇不豫、諸國佛寺便ニ隨ヒテ併合セシム、六 信濃國ヲ割テ諏方國ヲ置ク、七 征隼人副將軍等歸京、殺生ヲ禁ジ放鷹司ノ官人ヲ停ム、八 長門ニ按察使ヲ置ク、九 井上王ヲ齋內親王トス、十 唱考ノ喚辭ヲ定ム、陸奥國柴田郡ヲ割キ苅田郡ヲ置ク、藤原房前ヲ內臣トス、十二 太上天皇崩御年六十一、大和國添上郡椎山陵ニ葬ル
一、三八二 六 西七二二	壬戌	續九	二 遠江國山名郡ヲ置ク、學者二十三人ニ賜田、四 征討蝦夷隼人將軍已下授勳、唐人王元仲飛舟ヲ造テ進ル、閏四 陸奥國良田一百萬町ヲ開墾セムト請フ之ヲ可ス、五 遣新羅使ヲ任ズ、七 百姓ヲ勸課シテ晩禾蕎麥及大麥ヲ種エ藏置儲積年荒ニ備ヘシム、五月ヨリ雨降ラズ、八 詔シテ京師諸國當年ノ田租ヲ免ゼシム、諸國司ヲシテ柵戸一千人ヲ簡點シ陸奥鎭所ニ配セシム、九 伊賀伊勢等國始メテ錢調ヲ輸セシム、十一 女醫博士ヲ置ク、十二 勅シテ天武天皇ノ奉爲ニ彌勒像ヲ持統天皇ノ奉爲ニ釋迦像ヲ造ラシム、遣新羅使歸ル
一、三八三 七 西七二三	癸亥	同	二 筑紫觀世音寺ヲ造ラシム、詔シテ戸頭ノ百姓ニ種子各二斛布一常鍬一口ヲ給フ、矢田池ヲ築ク、四 溝池ヲ造リ開墾ヲ營ムヲ獎勵ス、五 芳野宮ニ行幸、大隅薩摩二國隼人朝貢、七 衣冠ノ制ニ違フヲ戒ム、八 新羅使朝貢、因幡國ニ四驛ヲ加置、十 按察使所治ノ國ハ博士醫師ヲ補シ自餘國ハ停ム、白龜ヲ献ズ、十一 天下諸國ノ奴婢十二年已上ノ者ニ口分田ヲ授ク
一、三八四 神龜元 西七二四	甲子	同	正 出雲國造神賀辭ヲ奏ス、二 受禪大極殿ニ即位、養老ヲ改テ神龜ト號ス、藤原夫人ヲ尊デ大夫人ト稱ス、叙位、三 芳野宮ニ幸ス、催造司ヲ置ク、配處ノ遠近ヲ定ム、蝦夷反シテ大掾ヲ殺ス、四 七道諸國ヲシテ軍器幕釜等ヲ造ラシム、征蝦夷持節大將軍ヲ任ズ、五 鎭狄將軍ヲ任ジ出羽ノ蝦狄ヲ鎭セシム、七 遣新羅大使ヲ任ズ、十 紀伊國ニ幸ス、弱濱ヲ改テ明光浦トス、十一 五位已上及富者ニ瓦葺丹塗ヲ許シ京師ヲ壯麗ナラシム、己卯大嘗由機備前須機播磨、征夷持節大使鎭狄將軍入京
一、三八五 二 西七二五	乙丑	同	閏正 陸奥俘囚ヲ和泉伊豫筑紫ニ配ス、征夷將軍已下勳位ヲ授ク、五 遣新羅使歸ル、七 詔シテ七道諸國ノ神社佛寺ヲ掃淨セシム、九 三千人ヲ出家入道セシム、十 難波宮ニ幸ス、十一 大安殿ニ御シ冬至ノ賀辭ヲ受ク、大納言多治比池守ニ靈壽杖ヲ賜フ、唐ヨリ甘子ヲ賚來シ其種ヲ殖エテ結子セシモノニ授位、十二 見禁囚徒減罪
一、三八六 三 西七二六	丙寅	同	二 五位已上ハ薨卒ノ後六年ヲ限リ其位田ヲ收ルコト勿ラシム、出雲國造齋擧テ劍鏡白馬鵠等ヲ献ル、選人引唱不到者ノ制ヲ定ム、五 新羅使來朝、六 諸國重病者ニ醫藥ヲ給フ、八 新任國司ニ食馬傳符ヲ給フ制ヲ定ム、九 豐年田租ヲ免ズ、內裏玉來生ズ、十 播磨ニ行幸、十一 備前國藤原郡ヲ改テ藤野郡トス
一、三八七 四 西七二七	丁卯	續十	二 難波宮ヲ造ル、諸司長官ヲシテ部下ノ勤惰ヲ奏セシメ善惡ニヨリ黜陟ス、七道諸國ニ遣使國司ノ治迹勤怠ヲ巡監セシム、三 天皇正殿ニ御シ善政ノ官人ニ物ヲ賜フ、五 甕原離宮ニ幸ス、九 井上內親王ヲ伊勢大神宮ニ侍セシム、渤海郡王使高齊德等出羽國ニ來著、閏九 皇子誕生、十 安房大風上總山崩、十一 皇子ヲ立テ皇太子トス、南嶋人來朝叙位、十二 七道遣使ノ奏狀ニ依テ國司ヲ黜陟ス、渤海郡王使入京衣服冠履ヲ賜フ
一、三八八 五 西七二八	戊辰	同	正 渤海使王ノ書並ニ方物ヲ上ル、二 送渤海客使ヲ任ズ、三 外五位ノ位祿蔭階等ノ科ヲ定ム、四 陸奥國白河軍團ヲ置キ丹取軍團ヲ改メテ玉作軍團トス、渤海ニ璽書ヲ賜フ、五 始メテ外五位ヲ授ク、六 渤海使等拜辭、七 三品大將軍新田部親王ニ明一品ヲ授ク、八 內匠寮中衞府ヲ置ク、諸國ノ史生博士醫師ノ員數並考選ノ叙限ヲ改定ス、九 皇太子薨年二、十 僧義淵卒、十二 國家平安ノ爲メ金光明經六十四帙六百四十卷ヲ諸國ニ頒ツ

皇紀	年	西暦	干支	出典	事項
一、三八九	天平元	七二九	己巳	同	正　京畿官人已下ニ酒食ノ價直ヲ賜ヒ、舗スルコト一日ナラシム、二　左大臣長屋王謀反スト密告スルモノアリ、藤原宇合等ヲシテ其宅ヲ圍マシム王自盡ス、三　太政官奏諸國四丈ノ廣絁ヲ止メ六丈ノ狹絁トス、四　異端幻術ヲ學ビ厭魅呪詛スルヲ禁ズ、山陽道諸國ノ驛家ヲ造ラムタメ驛起稻ヲ充ツ、六　營廚司ヲ廢ス、左京職龜ヲ獻ズ、背文ニ天王貴平知百年トアリ、薩摩隼人等貢調、七　大隅隼人等貢調、八　五日神龜六年ヲ以テ天平元年トス、諸陵司ヲ改メテ寮トス、諸國ノ天神地祇ハ長官ヲシテ致祭セシム、藤原夫人ヲ皇后トス、九　大宰府ヲシテ調綿十萬屯ヲ進ラシム、十一　京畿ノ班田司ヲ任ズ
一、三九〇	二	七三〇	庚午	同	一　陸奥國郡家ヲ田夷村ニ建テ蝦夷ヲ百姓トスルコトヲ許ス、二　釋奠、三　大宰府上言大隅薩摩兩國ハ班授セズ舊ニ隨ヒテ自ラ佃ラシム、太政官奏請大學生員數ヲ限リ夏冬ノ服並ニ食料ヲ賜ヒ又學生ヲシテ漢語ヲ習ハシム、四　天下ノ婦女ヲシテ舊キ衣服ヲ改メテ新樣ヲ施用セシム、皇后職ニ施藥院ヲ置ク、閏六　伊勢大神宮ノ奉幣使ハ卜食五位已上ヲ充ツ、八　遣渤海使歸朝、九　渤海ノ信物ヲ山陵ニ獻ラシム、諸國ノ防人ヲ停ム、諸國ノ海賊等ヲ捉搦擒獲セシム、殺生ヲ禁斷ス、十　渤海ノ信物ヲ諸國ノ名神社ニ奉ル
一、三九一	三	七三一	辛未	續十一	三　諏方國ヲ廢シテ信濃國ニ併ス、七　雅樂寮雜樂生ノ員數ヲ定ム、八　式部卿藤原宇合民部卿多治比縣守等六人ヲ參議トス、十一　冬至南樹苑ニ五位已上ヲ宴ス、畿內ニ總管諸道ニ鎭撫使ヲ置ク、十二　甲斐國黑身白髦ノ神馬ヲ獻ズ、武散位定額ノ員數ヲ定ム、神馬出デシニヨリ大赦
一、三九二	四	七三二	壬申	同	正　朔大極殿受朝天皇始メテ冕服ヲ服ス、新羅使來朝、二　遣新羅使拜朝、五　新羅使入京種々ノ財物並禽獸ヲ進ル、來朝ノ期ヲ三年一度トス、七　旱ニ依リ天神地祇名山大川ニ幣帛ヲ奉ラシメ賑給ヲ加ヘ大赦ス、八　遣新羅使歸朝、遣唐大使ヲ任ズ、東海東山山陰西海四道ノ節度使ヲ任ズ、大風雨百姓ノ廬舍及處々ノ佛寺堂塔破壞、是夏雨少ク秋稼不熟、九　近江丹波等ニ遣唐使ノ舶ヲ造ラシム、十　造客館司ヲ置ク、十一　冬至南苑ニ群臣ヲ宴ス、十二　河內國狹山下池ヲ築ク、地震
一、三九三	五	七三三	癸酉	同	正　內命婦縣犬養橘宿禰三千代薨、閏三　調布一萬端商布三萬餘段ヲ西海道雜器仗ヲ造ル料ニ充ツ、四　遣唐使四船難波津ヲ發ス、五　皇后ノ病ニヨリ大赦、七　大膳ヲシテ盂蘭盆供養ヲ備ヘシム、十二　出羽柵ヲ秋田ニ遷シ雄勝村ニ郡ヲ建ツ、是歲左右京及諸國飢疫衆シ並ニ賑貸ヲ加フ
一、三九四	六	七三四	甲戌	同	正　諸國毎年官稻ヲ貸スヲ聽シ其數ヲ定ム、藤原武智麿ヲ右大臣トス、驛起稻以外ノ雜色ノ官稻ハ悉ク正稅ニ混合セシム、二　天皇歌垣ヲ觀ル、三　難波宮ニ行幸ス、車駕難波ヲ發シ竹原頓宮ニ宿ス、四　諸國大地震百姓ノ廬舍ヲ壞リ壓死者多シ、畿內七道ニ使ヲ遣シ地震ニ破レシ神社並ニ陵墓ヲ檢看セシム、諸道ノ健兒儲士選士ニハ田租並ニ雜徭ノ半ヲ免ズ、七　天皇相撲ヲ觀給フ、文人ニ命ジテ七夕ノ詩ヲ賦セシム、天異地震ニヨリ大赦、九　安藝周防二國大竹河ヲ以テ國界トス
一、三九五	七	七三五	乙亥	續十二	二　新羅使入京、使ヲ遣シ新羅使入朝ノ旨ヲ問ハシメテ却ケ返ス、三　入唐大使歸朝節刀ヲ進ル、四　入唐留學生下道眞備唐禮太衍曆經太衍曆立成等ヲ獻ル、五　入唐使請益秦大麿ノ問答六卷ヲ獻ズ、畿內及七道諸國外散位定額ヲ作ル、災異頻リナルニヨリ大赦、七　大隅薩摩ノ隼人入朝貢調、忌部等ヲ差シテ幣帛使トスルコトヲ聽ス、九　一品新田部親王薨、十一　知太政官事一品舍人親王薨、閏十一　災變疫疾止マザルニヨリ大赦、鑄錢司ヲ置ク、是歲凶年夏ヨリ冬ニ至リ天下豌豆瘡ヲ患ヒテ夭死者多シ
一、三九六	八	七三六	丙子	同	二　入唐學問僧玄昉ニ封一百戶田十町扶翼童子ヲ施ス、三　甕原離宮ニ行幸、太政官奏諸國ノ公田ヲ賃貸シ其價ヲ太政官ニ送リテ公廨ニ供セシム、四　遣新羅使拜朝、陸奥出羽二國有功郡司及俘囚ニ賜爵、五　諸國ノ調布長サ二丈八尺闊一尺九寸庸布長サ一丈四尺闊一尺九寸ヲ端トス、六　吉野離宮行幸、七　入唐副使唐人波斯人ヲ率キテ拜朝、十一　入唐副使以下及唐人皇東朝波斯人李密翳等ニ授位、葛城王ニ橘姓ヲ賜フ

皇紀	年	西暦	干支	出典	事項
一、三九七	天平九	西七三七	丁丑	續十二	**正** 持節大使ヲ陸奥國ニ發遣、遣新羅大使等歸朝、**二** 遣新羅使新羅常禮ヲ失ヒテ使旨ヲ受ケザルコトヲ奏ス、**四** 伊勢大神筑紫住吉八幡及香椎宮ニ新羅無禮ノ狀ヲ告グ、**五** 疫旱ニ依リ大赦、**六** 百官疫ヲ患フヲ以テ廢朝、**七** 大赦、**八** 毎月六齋日殺生禁斷、今年ノ租稅及百姓公私ノ負稻ヲ免ズ、國家ニ驗アル神ノ未ダ幣帛ニ預カラザル者ヲ悉ク供幣ノ例ニ入ル、玄昉ヲ僧正ニ任ズ、**九** 筑紫ノ防人ヲ停メ筑紫人ヲ差シテ壹岐對馬ヲ戍ラシム、鈴鹿王ヲ知太政官事トス、**十** 左右京職借錢ヲ收ムルコトヲ停ム、額外散位續勞錢ヲ輸スコトヲ停ム、百官人ヲシテ御薪ヲ貢セシム、**十一** 畿內七道ニ遣使諸神社ヲ造ラシム、神宣ニ依リ大倭忌寸等ニ宿禰及連ノ姓ヲ賜フ、**十二** 大倭國ヲ改メテ大養德國トス、是歲春疫瘡死者多シ
一、三九八	一〇	西七三八	戊寅	續十三	**正** 信濃國黑身白髮尾ノ神馬ヲ獻ズ、阿倍內親王ヲ皇太子トス、新羅使大宰府ニ來ル、**三** 食封ヲ山階寺鵤寺隅院ニ施ス、**五** 諸國ノ健兒ヲ停ム、右大臣橘諸兄ヲシテ神寶ヲ伊勢大神宮ニ奉ラシム、**六** 新羅使ヲ大宰ニテ賜饗シ放還セシム、**八** 諸國ヲシテ國郡ノ圖ヲ進ラシム、**十** 七道諸國ニ巡察使ヲ遣シ國宰ノ政迹黎民ノ勞逸ヲ採訪セシム
一、三九九	一一	西七三九	己卯	同	**二** 皇后ノ病ニ依リ大赦、**三** 甕原離宮ニ幸ス、天皇及太上天皇甕原離宮ニ幸ス、**五** 諸國郡司ノ員數ヲ改定ス、諸國今年出擧セル正稅ノ利ヲ免ズ、**六** 諸國驛起稻ヲシテ悉ク正稅ニ混合セシム、**七** 渤海使來朝、**八** 式部省ノ蔭子孫並位子等ハ悉ク大學ニ下シテ學問セシム、**十** 入唐使判官平群廣成並渤海客等入京、廣成ハ天平五年入唐歸ル時遇風崑崙ニ漂著十年五月渤海ニ至リ聘使ト共ニ渡海ス大使沒死廣成遣衆ヲ率テ出羽ニ漂著ス、**十二** 渤海使拜朝王啓並方物ヲ上ル
一、四〇〇	一二	西七四〇	庚辰	同	**正** 渤海郡副使ニ授位賜宴、渤海郡王ニ賜物アリ、渤海大使及首領ニ授位並弔賻アリ、**二** 難波宮ニ行幸、**四** 渤海大使等拜辭、遣渤海使等辭見、**六** 天下太平ニ依テ大赦、諸國七重塔ヲ造ラシム、**八** 和泉監ヲ河內ニ併ス、大宰少武藤原廣嗣反ス、大野東人ヲ大將軍トシテ討タシム、伊勢奉幣、**十** 遣渤海郡使歸京、遣新羅國使歸京、伊勢ニ行幸、**十一** 廣嗣捕ヘラルヽ由ヲ河口頓宮ニ奏ス、廣嗣等ヲ斬レル由ヲ奏ス、**十二** 山城國恭仁鄕ヲ經略シ遷都セムトス、天皇近江國巡幸、恭仁宮ニ幸ス
一、四〇一	一三	西七四一	辛巳	續十四	**正** 朔恭仁宮ニ受朝、伊勢及七道諸社ニ奉幣新京ニ遷都ヲ告グ、**二** 牛馬ノ屠殺ヲ禁ズ、**三** 諸國ニ塔及寺ヲ造ラシメ僧尼ヲ置キ僧寺ハ金光明四天王護國寺ト稱シ尼寺ハ法華滅罪寺ト稱ス、**閏三** 平城宮ノ兵器ヲ甕原宮ニ運バシム、**五** 天皇河南ニ幸シ校獵ヲ觀給フ、諸國定額ノ外ニ左右衞士各四百人衞門衞士二百人ヲ貢セシム、**七** 太上天皇新宮ニ移御、**八** 平城ノ二市ヲ恭仁京ニ遷ス、**九** 宇治及山科ニ行幸ス、**十一** 朝廷ヲ大養德恭仁大宮ト號ス、**十二** 安房國ヲ上總ニ能登國ヲ越中ニ併ス
一、四〇二	一四	西七四二	壬午	同	**正** 大宰府ヲ廢ス、陸奥國赤雪降ル、**二** 新羅使入朝大宰ニ饗シテ放還、**五** 越智山陵崩壞、采女毎郡一人貢進ヲ制ス、**八** 諸國ヲシテ孝子節婦等ノ名ヲ上ラシム、石原宮行幸、宮城ノ南ニ大橋ヲ造ル、紫香樂宮行幸、**九** 刺松原行幸、恭仁京ニ還幸、巡察使ヲ七道ニ遣シ左右京畿內ノ班田使ヲ任ズ、**十** 鹽燒王ヲ伊豆ニ配ス、**十一** 大隅國地變アリト奏ス、**十二** 近江國司ニ令シテ有勢ノ家專ラ鐵穴ヲ食ルヲ禁ズ、紫香樂宮行幸
一、四〇三	一五	西七四三	癸未	續十五	**正** 還幸、石原宮樓ニ賜饗、**二** 佐渡國ヲ越後國ニ併ス、**三** 新羅使筑前國ニ來ル、**四** 紫香樂宮行幸、**五** 三月以來雨降ラズ、群臣ヲ內裏ニ宴シ皇太子親ラ五節ヲ舞フ、右大臣橘諸兄ヲ左大臣ニ任ズ、墾田ハ以後私財トシ永ク收ムルコトナカラシム、**七** 出雲國楯縫出雲二郡雷雨山岳頹崩、紫香樂宮行幸、**八** 鴨川ヲ宮川ト改名、**十** 盧舍那佛金銅像一軀ヲ造ルコトヲ發願シ給フ、**十一** 恭仁宮ニ還幸、**十二** 平城ノ器仗ヲ運ビテ恭仁宮ニ收置ス、筑紫ニ鎭西府ヲ設ク、紫香樂宮ヲ造リ恭仁宮ノ造作ヲ停ム
一、四〇四	一六	西七四四	甲申	同	**閏正** 百官ヲ會シ恭仁難波二宮ノ便宜ヲ問フ、難波宮ニ行幸、**二** 諸使及朝集使等ヲ難波宮ニ召ス、和泉宮ニ幸ス、天下ノ馬飼雜戶人等ヲ免ス、安曇江ニ幸シテ松林ニ遊覽ス、三嶋路ヲ取リ紫香樂宮ニ行幸、勅シテ難波宮ヲ以テ皇都トス、**四** 造兵鍛冶二司ヲ廢ス、肥後國地震、**七** 太上天皇智努離宮仁岐河ニ幸ス、車駕難波ニ還御、**九** 巡察使ヲ畿內七道ニ遣ス、巡察使條例ヲ頒ツ、**十** 太上天皇珍努及竹原井離宮ニ幸ス、**十一** 甲賀寺ニ盧舍那佛像ヲ建ツ、太上天皇甲賀宮ニ幸ス

紀元	年號	西暦	干支	出典	事項
一、四〇五	一七	西七四五	乙酉	續十六	正 行基ヲ大僧正トス、四 鹽焼王ヲ入京セシム、天下去年ノ田租ヲ免ジ大赦ス、地震三日三夜美濃國最甚シ、五 地震日夜止マズ、車駕恭仁宮ニ還御、地震頻起、四月ヨリ雨ナシ、恭仁京ノ市人平城ニ徙ル、平城ニ行幸、中宮院ヲ御在所トス、是月地震異常水泉涌出、六 伊勢奉幣、復大宰府ヲ置ク、七 地震頻起、八 難波宮ニ行幸、九 地震頻ナリ、知太政官事鈴鹿王薨、天皇不豫、平城ニ還幸、十 諸國出擧正稅ノ數ヲ定ム、河内國白龜ヲ得、十一 諸國ノ公廨ノ數ヲ定ム、十二 恭仁宮ノ兵器ヲ平城ニ運ブ
一、四〇六	一八	西七四六	丙戌	同	正 地震頻ナリ、二 騎舎人ヲ改メテ授刀舎人トス、三 白龜ヲ得タルニヨリテ天下六位以下一級ヲ加フ、寺家買地ヲ嚴禁ス、四 勅シテ一位以下馬從ノ數ヲ定ム、五 諸寺百姓墾田及園地ヲ買テ永ク寺地トナスヲ禁ズ、六 僧玄昉死、八 齋宮寮ヲ置ク、九 恭仁宮ノ大極殿ヲ國分寺ニ施入ス、閏九 鹽焼王ニ本位正四位下ヲ授ク、十 天皇、太上天皇、皇后金鐘寺ニ行幸廬舎那佛ヲ供養ス、十二 七道鎭撫使ヲ停ム、是歳渤海人及鐵利一千餘人慕化來朝、衣糧ヲ給シテ放還ス
一、四〇七	一九	西七四七	丁亥	續十七	正 天皇寢膳違和歲月ヲ經ルニ依テ大赦、二 大倭河内十五國飢饉、三 大養德ヲ改メ舊ニ依テ大倭國トス、五 五日菖蒲蘰ヲ懸ケシム、六 羅城門ニ雩ス、十一 詔シテ使ヲ諸國ニ分遣シ金光明寺法華寺ノ寺地ヲ檢定シ作狀ヲ察シ營繕ヲ加ヘシム、十二 太上天皇枕席安カラザルニヨリ大赦
一、四〇八	二〇	西七四八	戊子	同	三 風化洽カラズ犯禁者多キニヨリ大赦、四 太上天皇(元正)崩御年六十九、京畿七道ノ諸國擧哀三日天下悉素服、太上天皇ヲ佐保山陵ニ火葬ス、六 藤原夫人薨、百官諸國釋服セシム、七 葛井廣成ノ宅ニ幸ス、八 釋奠ノ服器及儀式ヲ改定ス、十 京畿七道ノ田租ヲ免ス
一、四〇九	天平感寶元 天平勝寶元	西七四九	己丑	同	正 比年不熟官人妻子飢乏、文武官及諸家司ニ給米、二 行基遷化、路頭ニ匿名書ヲ落ス者アリ、陸奧國始テ黃金ヲ貢ス、四 東大寺ニ幸シ左大臣橘諸兄ニ勅シテ佛ニ白サシム、伊勢奉幣、天皇又東大寺ニ幸ス、十四日天平廿一年ヲ以テ天平感寶元年トス、閏五 天皇藥師寺宮ニ遷御シ御在所トス、七 二日皇太子受禪大極殿ニ即位、感寶元年ヲ改メテ勝寶元年トス、諸寺墾田地ヲ制限ス、八 大隅薩摩兩國ノ隼人朝貢、九 紫微中臺ノ官位ヲ制ス、十 河内國智識寺ニ行幸、十一 南藥園ノ新宮ニ大嘗、因幡ヲ由機、美濃ヲ須岐トス、八幡大神託宣アリ奉迎ス、十二 八幡神ヲ平群郡ニ迎ヘ梨原宮ヲ神宮トス、八幡大神禰宜東大寺ヲ拜ス
一、四一〇	二	西七五〇	庚寅	續十八	二 出雲國造神齋賀事ヲ奏ス、大郡宮ヨリ藥師寺宮ニ移御、春日酒殿ニ幸ス、八幡大神ニ封八百戸位田八十丁ヲ充ツ比賣神之ニ准ス、三 駿河國守黃金ヲ獲テ献ル、五 京中雨潦汎溢伎人茨田等堤決壞、九 遣唐使ヲ任ズ藤原清河ヲ大使ニ大伴古麻呂ヲ副使トス、十 八幡大神ノ教ヲ以テ藤原乙麿ニ從三位ヲ授ケテ大宰帥ニ任ズ、太上天皇ヲ(元正)奈保山陵ニ改葬
一、四一一	三	西七五一	辛卯	同	正 東大寺ニ幸ス、諸王三十餘人ニ姓ヲ賜フ、二 出雲國造神賀事ヲ奏ス、四 伊勢及諸社奉幣遣唐使ノ平安ヲ祈ル、菩提ヲ僧正ニ任ズ、十 太上天皇(聖武)枕席不穩ニ依リ大赦、十一 勝寶元年已前公私負債ヲ悉ク原免ス
一、四一二	四	西七五二	壬辰	同	正 朔大宰府白龜ヲ献ズ、正月三日ヨリ十二月晦日マデ天下殺生禁斷、遣新羅使ヲ任ズ、二 陸奧國調庸多賀城以北ハ黃金ヲ輸サシム、京畿諸國ノ鐵工銅工金工甲作等ノ雜戸色每ニ差發シ舊ニ依リ役使ス、三 遣唐使等拜朝、閏三 新羅王子貢調使等七百餘人大宰府ニ來ル、四 盧舎那大佛像開眼、六 新羅王子拜朝並ニ貢調、新羅使ヲ朝堂ニ饗ス叙位賜物、京師ノ巫覡ヲ捉ヘテ配流ス、九 渤海使越後國佐渡嶋ニ著ク、

一、四一三	西七五三	五	癸巳	續十九	正伊勢大神宮神主内人物忌男女授位、二遣新羅大使ヲ任ズ、四皇太后寢膳不安ニ依リ大赦、五渤海使拜朝信物ヲ獻ズ、九攝津國潮害アルニヨリ海濱ノ居民ヲ京中ノ空地ニ遷ス、十一尾張國白龜ヲ獻ズ、十二西海道秋稼多損今年ノ田租ヲ免ス
一、四一四	西七五四	六	甲午	同	正朔朝賀上野國白烏ヲ獻ズ、東大寺ニ幸ス、入唐副使大伴古麿歸朝唐僧鑒眞法進等八人隨來ル、副使大伴古麿在唐中新羅使ト席次ヲ爭ヒシ由ヲ奏ス、二大宰府ニ勅シテ南嶋ニ牌ヲ立テシム、七太皇太后枕席不安ニヨリ大赦、太皇太后崩（宮子娘）、十官人百姓ノ雙六ヲ禁ズ、十一畿内各道ノ巡察使ヲ任ズ、二聖（聖武天皇・光明皇后）ノ寶壽增長ノタメ大赦、十二是年八月風水アルニヨリ畿内及諸國產業損傷賑恤ヲ加フ
一、四一五	西七五五	七	乙未	同	正諒闇ヲ以テ廢朝、四日天平勝寶七年ヲ改メテ天平勝寶七歲トス、五大隅ノ浮浪九百卅餘人郡家ヲ建テムト請フ之ヲ許ス、六大宰府管内諸國國別ニ兵衞一人采女一人ヲ貢セシム、十太上天皇枕席不安ニヨリ大赦、殺生禁斷ス、十一伊勢奉幣
一、四一六	西七五六	八	丙申	同	二難波ニ行幸更ニ河内智識寺行宮ニ御ス四月亦幸ス難波ニ至リ東南新宮ニ御ス、三太上天皇堀江ノ上ニ幸ス、四伊勢奉幣、八幡奉幣、五伊勢神宮ニ奉幣、天下今年ノ田租ヲ免ズ、太上天皇（聖武）崩御年五十六、道祖王ヲ皇太子トス、太上天皇ヲ佐保山ニ奉葬、六八日ヨリ來年五月卅日マデ殺生禁斷、八近江國朝書法一百卷ヲ崇福寺ニ施入ス、十二先是京中孤兒ヲ收養セシガ葛木姓ヲ賜ヒ葛木連戸主ノ戸ニ編附ス
一、四一七	西七五七	天平寶字元	丁酉	續廿	正橘諸兄薨ズ、三天皇寢殿承塵ノ裏ニ天平太平ノ四字自生、皇太子道祖王ヲ廢ス、四大炊王ヲ立テ、太子トス、天下家毎ニ孝經一本ヲ藏セシム、五大宮改修ノ爲ニ天皇田村宮ニ移御、勅シテ選人ハ格ニヨラズシテ新令（養老令）ニヨラシム、六諸氏長等私ニ其族ヲ集ムルヲ禁ズル等五條ヲ制ス、七橘奈良麿等ノ反狀ヲ告グルモノアリ其黨ヲ捕ヘテ拷掠窮問セシム黄文王道祖王大伴古麿等並ニ杖下ニ死ス、八駿河郡益頭郡ノ人蠶字ヲ成セルヲ獻ズ天平勝寶ヲ改メテ天平寶字元年トス、大學雅樂陰陽典藥寮等ニ各公田ヲ給フ、六衞府ニ射騎田ヲ置ク、閏八防人ハ坂東ノ兵士ヲ止メ西海七國ノ兵士ヲ以テ之ニ充ツ、十公廨ノ處分法ヲ定ム、十一諸國ノ博士醫師ノ選任ヲ嚴ニス
一、四一八	西七五八	二	戊戌	續廿一	二供祭療患以外ハ飲酒ヲ禁ズ又強テ集會セムトスル時ハ官司ニ申サシメ犯者ハ罪ヲ科ス、大和國城下郡大和神山ニ奇藤ヲ生ズト奏ス、三先帝登遐ハ五月ナルニ依リ端午ノ節ヲ停ム、六陸奧國去年八月以降歸降男女一千七百餘王民トシテ邊軍ニ充ツルヲ許ス、七以後六十ヲ老丁トシ六十五ヲ耆老トス（以上卷二十）、八高野天皇（孝謙）皇太子大炊王ニ禪位、百官及僧綱上表上臺（孝謙）中臺（光明）ノ尊號ヲ上ル、先帝ニ尊號ヲ上リ勝寶感神聖武皇帝ト稱シ又日並皇子ヲ岡宮御宇天皇ト稱ス、歸化新羅人ヲ武藏國地ニ移シ始メテ新羅郡ヲ置ク、藤原仲麿ヲ太保ニ任ズ、官名ヲ改易ス、十國司更替期四年ヲ改メテ六年トス、十一乾政官ノ院ニテ大甞由機丹波須岐播磨遣渤海使歸朝唐安祿山ノ叛亂ヲ告グ
一、四一九	西七五九	三	己亥	續廿二	正大極殿ニテ受朝、高麗（渤海）方物ヲ貢ス、高元度ヲ迎入唐大使トス、五諸國ニ常平倉ヲ置キ平準署ヲシテ掌ラシム、六舍人親王ヲ崇道盡敬皇帝ト稱シ當麻夫人ヲ大夫人ト稱シ奉ル、新羅ヲ伐ムトスルヲ以テ大宰府ニ令シテ行軍式ヲ造ラシム、九新羅ヲ征セムタメ北陸山陰山陽南海ノ諸道ヲシテ船ヲ造ラシム、陸奧國桃生城出羽國雄勝城ヲ造ル、始メテ出羽國ニ雄勝平鹿二郡及驛家ヲ置ク、坂東八國並北陸四國ノ浮浪二千人ヲ雄勝柵戸トス、十諸姓君字ヲ着クル者ハ公字ヲ伊美吉ハ忌寸ト改メシム、渤海使來朝、十一大風ニ依リ今年ノ田租ヲ免ズ、國分二寺ノ圖ヲ諸國ニ頒下ス、保良宮ヲ造ラシム、十二高麗使入京
一、四二〇	西七六〇	四	庚子	續廿三	正押勝ノ第ニ幸ス、七道諸國ノ巡察使ヲ任ズ、惠美押勝大師トナル、渤海使方物ヲ貢ス、高野天皇及帝押勝第ニ幸ス、三萬年通寶大平元寶開基勝寶等ノ新錢ヲ鑄ル、六仁正皇太后崩ズ、大和國添上郡佐保山ニ葬ル（以上卷二十二）、七大僧都良辨等僧位四十三階ヲ制セムコトヲ請フ、八藤原不比等ヲ追封シテ淡海公トス、播磨備前讃岐等ノ糒ヲ小治田宮ニ貯フ、小治田宮ニ幸シテ天下諸國當年ノ調庸ヲ收納ス、九新羅朝貢又學語二人ヲ進ル受ケズシテ之ヲ還ス、十二太皇太后宮皇太后ノ御墓ハ以後並ニ山陵ト稱シテ忌日ハ國忌ノ例ニ入ル

皇紀	年	西暦	干支	出典	事項
一、四二一	五	西七六一	辛丑	同	正 廢朝新宮未ダ就ラザルヲ以テナリ、新羅ヲ征セムタメ美濃武藏二國ノ少年二十人ヲシテ新羅語ヲ習ハシム、車駕小治田宮ニ至リ武部曹司ヲ以テ御在所トス、三 百濟高麗新羅人等ニ賜姓アリ、七 筑前筑後等ノ諸國ニ甲刀弓箭ヲ造備セシメ毎年其樣ヲ大宰府ニ送ラシム、遠江國荒玉河堤ヲ修築セシム、八 國司ノ怠慢ヲ戒ム、高野天皇及帝藥師寺ニ幸ス、十 遣唐使船四隻ヲ安藝國ニ造ラシム、諸國ニ命ジ牛角七千八百隻ヲ貢セシム唐國ニ贈ラムガ爲ナリ、保良宮行幸、遣唐大使副使及遣高麗使ヲ任ズ、十一 東海、西海ノ節度使ヲ任ズ
一、四二二	六	西七六二	壬寅	續廿四	正朔廢朝宮室未成ヲ以テナリ、唐使人沈惟岳等ヲ大宰府ニ饗セシム、東海南海西海道等ノ節度使料綿襖冑各二萬二百五十具大宰府ニ造ラシム、二 藤原押勝ニ正一位ヲ授ケ近江國ノ鐵穴二處ヲ賜フ、三 參河等九國旱、四 河內國狹山池堤ヲ修造ス、始メテ大宰府ニ弩師ヲ置ク、五 京師及畿內伊勢等國飢美濃飛驒信濃等國地震、高野天皇帝ト隙アリ、六 太上天皇(孝謙)大事ヲ親裁ス、十 伊吉益麿渤海ヨリ至ル其國使隨テ來朝、十一 多治比小耳ヲ送高麗使トス、伊勢奉幣、新羅征討ノタメ軍旅調習ヲ以テ香椎奉幣天下ノ神祇ニ幣及弓矢ヲ奉ル
一、四二三	七	西七六三	癸卯	同	正朔大極殿ニ受朝百寮及高麗蕃客拜賀、高麗使方物ヲ貢ス、五年五穀不登ニヨリ其以前ノ公私ノ債負ヲ免ズ、二 新羅朝貢ス以後王子ニ非レバ執政大夫ヲシテ入朝セシメヨトイフ、三 諸國不動倉ノ鈞匙ヲ進ラシム、五 大和上鑑眞物化、八 不熟ニヨリ京畿七道諸國今年ノ田租ヲ免ズ、高麗ニ遣セル船(能登)ニ從五位下ヲ授ク、儀鳳曆ヲ廢シテ始メテ大衍曆ヲ用フ、九 疫死多ク水旱アルニヨリ國郡司ヲ戒ム、十 山背國ニ幸ス、十二 中臣伊加麿等言語忌諱ニ渉ルヲ以テ左遷
一、四二四	八	西七六四	甲辰	續廿五	七 東海道節度使ヲ止ム、新羅使博多津ニ到着其由ヲ問ハシム、八 節部省火アリ、山陽南海二道旱疫大和河內山背等ノ諸國ニ池ヲ築ク、九 押勝逆謀泄ル官位ヲ解免シ遣使三關ヲ固メシム、押勝近江ニ走リ官軍追討、軍士石村石楯押勝ヲ斬リテ首ヲ京師ニ傳フ、道鏡ヲ大臣禪師トス、仲麿執政ノ時改メシ官名ヲ舊ニ復ス、十 放鷹司ヲ廢シテ放生司ヲ置ク、帝ヲ廢シテ淡路國公ニ降ス、船親王ヲ隱岐池田親王ヲ土佐國ニ流ス、大赦、東海東山等ノ國ニ騎女ヲ貢セシム、近江國名神社ニ奉幣、長上官ハ四考外散位ハ十考ヲ以テ成選ス、十二 薩摩海中ニ三島化成
一、四二五	天平神護元	西七六五	乙巳	續廿六	七 天平神護ト改元、二 授刀衞ヲ改メテ近衞府トス又始メテ內廐寮ヲ置ク、三 天平十五年ノ格ニ依リ許セル墾田ヲ禁ズ、怡土城ヲ築ク、五 天下ノ郡司米ヲ糶スルモノニ敘位、七 左右京籾ヲ諸司官人ニ糶ス、八 和氣王謀反ニ坐シテ誅セラル、九 新錢神功開寶ヲ鑄ル、十 紀伊國行幸、河內國弓削行宮ニ到リ給フ、弓削寺ニ幸シ禮佛奏樂アリ、閏十 道鏡ニ太政大臣禪師ノ位ヲ授ク、文武官ヲシテ太政大臣禪師ヲ拜賀セシム、弓削寺ニ幸ス、十一 天下ノ神社修造、天皇重祚ニヨリ更ニ大嘗
一、四二六	二	西七六六	丙午	續廿七	正 藤原永手ニ右大臣ヲ授ク、右大臣邸ニ幸ス、近江國ノ穀五萬斛ヲ松原倉內ニ貯納セシム、四 大赦、五 采女ノ養物ハ采女司ニ全納セシム、吉備眞備奏シテ二柱ヲ壬生門ニ立テ寃枉ヲ申訴セシム、九 畿內巡察使及六道ノ使ヲ任ジ百姓ノ疾苦ヲ採訪シ頃畝ノ損得ヲ檢セシム、十 員外ノ國司赴任ハ一切之ヲ禁ズ、道鏡ヲ法王トシ圓光ヲ法臣トス、右大臣藤原永手ヲ左大臣ニ吉備眞備ヲ右大臣トス、十一 陸奧國磐城宮城二郡ノ稻穀ヲ貧民ニ賑給、十二 西大寺ニ幸ス、此歲私鑄錢者ヲ捕ヘテ鑄錢司ニ配ス
一、四二七	神護景雲元	西七六七	丁未	續廿八	正 畿內七道國分金光明寺ニ於テ一七日間吉祥悔過ノ法ヲ行ハシム、二 東大寺ニ幸ス、大學ニ幸シ釋奠シ給フ、山階寺ニ行幸林邑及吳樂ヲ奏ス、三 出雲國造神事ヲ奏ス、三 元興寺ニ幸ス、西大寺ノ法院ニ幸シ曲水ヲ賦セシム、大安寺ニ幸ス、藥師寺ニ幸ス、始メテ法王宮職ヲ置ク、東院ノ玉殿新造、四 鹿島神賤男女百五十餘人ヲ良ニ從ハシム、勸農ノ勅アリ、飽波宮ニ幸ス、六 東山道巡察使ノ檢括隱首ヲ戒ム、七 內竪省ヲ置ク、八 癸巳神護景雲ト改元、九 八幡比賣神宮寺ヲ造ル、西大寺ノ鵤院ニ幸ス、十 陸奧伊治城ヲ作ル、十一 陸奧國栗原郡新置
一、四二八	二	西七六八	戊申	續廿九	二 出雲國造神事ヲ奏ス、筑前國怡土城成ル、此月頻ニ眞婦孝子ニ賞ス、三 武藏國白雉ヲ獻ズ、七 日向國白龜ヲ獻ズ、勅シテ孔子ヲ文宣王ト號ス、八 參河國白烏ヲ獻ズ、下總常陸ニ命ジ結城郡ヨリ新治郡ニ川ヲ掘ラシム、九 陸奧國上言兵士四千人ヲ點加シテ他國ノ鎭兵ヲ停メ、調庸ハ國ニ收置シ十年一度進納セムコトヲ請フ之ヲ許ス、十 長谷寺ニ幸ス、新羅交關物ヲ買ハムガ爲ニ大宰綿ヲ左右大臣以下ニ賜フ、十一 美作國白鼠ヲ獻ズ、弓削淸人ヲ撿挍兵庫將軍トス、十二 山階寺僧基眞飛驒國ニ棄セラル

年	干支	出典	事項
一、四二九 三 西七六九	己酉	續 卅	正 法王道鏡ニ賀拜、二 神服ヲ天下ノ諸社ニ奉ル、陸奥ノ桃生伊治二城成ル、三 大赦、四 西大寺ニ幸ス、五 縣犬養姉女等巫蠱ニ坐シテ配流セラル、六 備前國藤野郡ヲ改メテ和氣郡トス（以上卷廿九）、八 大宰府ニ綾師ヲ置ク、和氣清麿ヲ宇佐ニ遣シ八幡ノ神教ヲ乞ハシム、清麿ハ道鏡ノ怒ニ觸レテ大隅國ニ姉法均ハ備後ニ配セラル、十 詔シテ五位已上ニ紫綾ノ帶ヲ賜フ、飽波宮由義宮ニ幸ス、由義宮ヲ西京トシ河內國ヲ河內職トス、十一 新羅使百七十七人及導送者卅九人對馬ニ來著、陸奥國ノ俘囚ヲ調庸ノ民トス
一、四三〇 寶龜元 西七七〇	庚戌	續 卅一	二 由義宮ニ行幸、三 新羅使ヲ大宰府ニ饗ス、四 陸奥俘囚四千餘人王民ニ復ス、車駕由義宮ヨリ至ル、天皇御願ノ三重塔一百萬基成ル、大赦、由義宮ニテ天皇不豫左右大臣ヲシテ近衞中衞ノ事ヲ攝セシム、八 天皇西宮ニ崩ズ春秋五十三、左右大臣等白壁王ヲ皇太子ニ立ツ、天皇ヲ大和國高野山陵ニ奉葬、道鏡ヲ造下野藥師寺別當ニ任ズ、河內職ヲ復シテ河內國トス、九 令外ノ官要司ヲ除クノ外悉ク廢省、和氣清麿廣蟲ヲ召還（以上卷卅）、十 皇太子卽位、寶龜ト改元、十一 天皇ノ御父施基皇子ヲ春日宮天皇ト奉稱
一、四三一 二 西七七一	辛亥	同	正 他戶親王ヲ立テ皇太子トス、二 交野ニ幸ス、難波宮ニ到リ給フ、車駕竹原行宮ニ到ル、左大臣藤原永手薨年五十八、三 天下ヲシテ疫神ヲ祭ラシム、隼人ノ帶劍ヲ禁ズ、大納言大中臣清麿ヲ右大臣トシ藤原良繼ヲ內臣トス、和氣清麿ヲ本位ニ復ス、閏三 陸奥國司戶內ノ雜傜ヲ免ズ、五 右京人蠶產字ヲ成スヲ獻ズ、六 渤海國使等三百餘人出羽ノ能代湊ニ著ス、九 左右平準署ヲ罷ム、十 武藏國ヲ東海道ニ屬セシム、十一 大嘗、參河ヲ由機、因幡ヲ須岐トス、十二 筑前官員ヲ大宰府ニ隸ス、渤海使入京
一、四三二 三 西七七二	壬子	續 卅二	正 渤海蕃客等拜賀ス、渤海國使方物ヲ貢ス、先是渤海王表ノ無禮ヲ責メ信物ヲ却斥ス、渤海使表文ヲ改メ王ニ代リテ申謝ス、二 渤海王ニ書ヲ賜フ、內竪省及外衞府ヲ罷ム、三 皇后井上內親王巫蠱ニ坐シテ廢セラル、四 下野造藥師寺別當道鏡死ス、五 皇太子他戶王ヲ廢ス、八 使ヲ遣シテ廢帝ヲ淡路ニ改葬セシム、九 送渤海客使能登ニ漂著、十 寶字五年聽セシ少領已上ノ嫡子出身ノ制、神護元年禁斷セシ天下墾田ノ制並ニ止ム、十一 大風ニヨリ京畿七道田租ヲ免ス、酒人內親王ヲ伊勢齋トス、筑紫營大津城監ヲ廢ス、十二 彗星南方ニ見ユ
一、四三三 四 西七七三	癸丑	同	正 災祥屢々ナルニヨリ大赦、山部親王（桓武）ヲ皇太子トス、二 揚梅宮成ルニヨリ徙御、三 常平倉ヲ設ク、災異屢々ナルニヨリ大赦、五 旱ニヨリ畿內群神ニ奉幣、六 渤海國使能登國ニ來著、表函無禮ヲ責メテ卻ク、七 疫神ヲ天下諸國ニ祭ラシム、八 霖雨、九 常陸國白烏ヲ獻ズ、閏十一 僧正良辨卒、十二 大赦
一、四三四 五 西七七四	甲寅	續 卅三	正 大臣二位ヲ帶スル者中紫ヲ著セシム、二 疫氣ヲ攘フタメ一七日天下讀經、三 新羅使等二百人來朝渡海料ヲ給シテ放還、五 大宰府ニ勅シテ頻年新羅人漂著多キニヨリ所司量リテ歸ラシム、七 上總國白烏ヲ獻ズ、鎭守將軍大伴駿河麿等ニ勅シテ蝦夷ヲ討タシム、八 坂東八國ニ勅シ陸奥國ノ危急ヲ救ハシム、新城宮ニ幸ス、九 齋內親王伊勢ニ向フ、諸國溝池ヲ修造セシム、十一 坂合部內親王第ニ幸ス、陸奥國漏尅ヲ置ク、十二 是年諸國飢疫旱多シ
一、四三五 六 西七七五	乙卯	同	正 大赦、三 陸奥蝦夷騷動ニヨリ課役田租ヲ除ク、四 河內攝津鼠害アリ群神ニ奉幣、近江國白龜ヲ山背國白雉ヲ獻ズ、井上內親王、他戶王並ニ卒ス、五 白虹天ニ竟ル、大津大浦卒、陸奥國ニ綿ヲ送リテ襖ヲ造ラシム、六 遣唐使ヲ任ズ、八 始メテ蓮葉宴ヲ設ク、太政官奏シテ諸國公廨四分ノ一ヲ割テ在京俸祿ヲ增ス、十 前右大臣吉眞備薨天長節ヲ行フ、十一 畿內溝池ヲ修造セシム、鎭守將軍大伴駿河麿等征夷ノ功ヲ賞ス
一、四三六 七 西七七六	丙辰	續 卅四	正 諸道ニ檢稅使ヲ遣ス、二 出羽國ニ勅シ軍士ヲ發シ雄勝ヨリ其西邊ヲ伐タシム、南門ニ御ス大隅薩摩隼人俗伎ヲ奏ス、四 災異荐發、勅シテ神祇ノ祭祀ヲ重ゼシム、五 出羽國志波村ノ賊ヲ伐ツ、災變屢々見ルヲ以テ大祓ス、六 太白晝見ハル、七 大伴駿河麿卒ス、八 天下群神ニ奉幣、天下ニ蝗アリ、閏八 遣唐使船信風ヲ得ズ博多ニ歸ル、九 陸奥俘囚四百人ヲ大宰管內ニ分配ス、十一 遣唐大使歸京節刀ヲ進ム、陸奥軍ヲ發シ膽澤ノ賊ヲ伐ツ、出羽俘囚ヲ大宰管內ニ配ス、十二 渤海國遣使我卽位ヲ賀ス

皇紀	年	西暦	干支	出典	事項
一、四三七	八	七七七	丁巳	同	正 内臣藤原良繼ヲ内大臣トス、二 遣唐使渡海ヲ得ザリシニヨリ天神地祇ヲ春日山下ニ拜ス、三 内嶋院ニ宴シ文人曲水ヲ賦ス、宮中妖怪アリ大祓ス、陸奧夷俘來降多シ、四 渤海使入京、遣唐大使辭見、渤海使方物ヲ獻ズ、五 渤海使還ル送使ヲ任ジ渤海王ニ書ヲ賜フ、九 内大臣藤原良繼薨、十 大赦、十一 天皇不豫、長門國白雉ヲ獻ス、十二 出羽國蝦狄ニ敗ラルルニヨリ鎭守權副將軍ヲ任ジ之ヲ鎭メシム、皇太子不悆、出羽ノ蝦狄叛ス
一、四三八	九	七七八	戊午	續卅五	正 井上内親王ヲ改葬セシム、三 勅シテ淡路親王(淳仁)ノ墓ヲ山陵ト稱セシム、皇太子ノ病ニヨリ大赦天下ノ諸神ニ奉幣、六 出羽陸奧國司征戰有功者二千餘人ニ賜爵、七 飛驒國慶雲見ハル、十 遣唐第三船肥前ニ來著、皇太子伊勢神宮ヲ拜ス、十一 遣唐第四船薩摩國ニ泊ス第二船亦到ル第一船ハ肥後國天草郡ニ著ス歸途風ニ遭ヒ副使小野石根等卅八人唐使等廿五人沒死ス、十二 唐客入京ノ爲六位已上子孫騎馬ニ耐フルモノ八百人ヲ差發セシム
一、四三九	一〇	七七九	己未	同	正 渤海國使朝賀方物ヲ獻ス、二 渤海使還國其王ニ璽書ヲ賜フ、故入唐大使藤原淸河及副使ニ贈位、三 遣唐副使大神末足等歸朝、五 唐使孫興進等朝見朝堂ニ饗ス、閏五 諸國史生員數ヲ改定、八 勅シテ新舊錢同價並行ヲ許ス、九 慕化入朝渤海及鐵利三百五十九人ニ例ニ依テ支給ス、制シテ僧尼員數ヲ檢シテ公驗ヲ與フ、勅シテ百姓利潤ヲ求メテ貸與者ハ違勅ノ罪ヲ科セシム、十 天長節、十一 大宰府ニ遣使新羅使入朝ノ由ヲ問ハシム、官稻出擧ノ數ヲ定メ違犯ノ國司等ヲ罰ス
一、四四〇	一一	七八〇	庚申	續卅六	正 唐新羅使拜賀、新羅使獻物例ニヨリ學語生ヲ進ム、大赦、詔シテ僧侶ヲ戒ム、二 伊勢大神宮寺ヲ便地ニ移造ラシム、陸奧國覺鱉城ヲ造ラシム、三 冗官ヲ省ク、兵農始メテ分ル、陸奧大領伊治呰麿反ス、五 出羽國ヲシテ渡島ノ蝦狄ヲ慰撫セシム、七 西國緣海諸國ヲシテ警固セシム、筑紫大宰ニ勅シテ非常五事ヲ戒ム、八 革甲ヲ以テ鐵甲ニ代ラシム、九 七道諸國部内ノ浮宕ヲ檢括セシム、征夷使ニ勅シテ征討ヲ努メシム、十二 常陸國神賤七百七十四人神部ニ編入、陸奧桃生白河等郡ノ神社ヲ幣社ニ預ラシム
一、四四一	天應元	七八一	辛酉	同	正 天應ト改元大赦、二 坂東諸國ニ仰セテ穀十萬斛ヲ陸奧ノ軍所ニ送ラシム、四 天皇不豫遣使三關ヲ固メシム、皇太子受禪即位、皇弟早良親王ヲ立テ、皇太子トス、伊勢大神宮ニ即位ヲ告グ、天皇大極殿ニ御シ即位ノ詔ヲ宣ス、五 始メテ中宮職ヲ置ク、六 内外文武官員外ノ任ヲ悉ク解却ス、藤原魚名ヲ左大臣トス、八 蝦夷ノ亂平ク、十一 大嘗越前ヲ由機備前ヲ須機トス、十二 地震、太上天皇(光仁)崩ス春秋七十三
一、四四二	延曆元	七八二	壬戌	續卅七	正 太上天皇ニ天宗高紹天皇ト奉謚、廣岡山陵ニ葬ル、大祓、閏正 氷上川繼謀反、三 三方王山上船主等乘輿ヲ魘魅セシニヨリ遠流ニ處ス、四 公私彫弊ニ由テ造宮勅旨ノ二省法華鑄錢兩司ヲ罷ム、六 左大臣藤原魚名事ニ坐シ免官、七 右大臣以下上奏敬神ノ爲ニ凶服ヲ除カムコトヲ請フ、勅旨宮ニ移御、八 百官釋服、十九日天應二年ヲ改メテ延曆元年トス、十二 公廨ノ濫費ヲ戒ム
一、四四三	二	七八三	癸亥	同	正 服色ノ僭差ヲ戒ム、二 故式部卿藤原百川ニ右大臣ヲ贈ル、四 藤原夫人(乙牟漏)ヲ皇后トス、坂東諸國軍役屢ナルニヨリ存慰優給セシム、六 坂東八國散位郡司ノ子弟及浮宕ノ軍ニ耐フルモノヲシテ用兵ノ道ヲ習ハシム、京畿定額諸寺ノ數ヲ嚴守セシメ私ニ佛寺ヲ造ルヲ禁ズ、七 大納言藤原是公ヲ右大臣トス、九 交野ニ遊獵、十二 私ノ出擧ヲ戒ム
一、四四四	三	七八四	甲子	續卅八	正 大伴家持ヲ持節征東將軍ニ任ズ、五 國師ノ人撰ヲ嚴ニシ秩滿ノ期ヲ六年トス、遷都ノ爲山背國乙訓郡長岡村ノ地ヲ相ス、六 造長岡宮使ヲ任ジ都城宮殿ヲ經營ス、七 阿波國等三國ニ仰セテ山崎橋ヲ造ル料ヲ進ラシム、閏九 河内國茨田堤ヲ築カシム、右大臣田村第ニ幸ス、十一 朔旦冬至王公已下普ク物ヲ賜リ京畿當年租ヲ免ズ、長岡宮ニ移幸、賀茂松尾乙訓社ヲ修理セシム、十二 國司ノ水田ヲ營ミ墾開スルヲ禁ズ、畿内七道ニ遣使大祓セシム

皇紀	年	西暦	干支	出典	事項
一、四四五	四	西七八五	乙丑	續紀卅八	正攝津ノ野ヲ掘リ三國川ヲ通ゼシム、二出雲國造神吉事ヲ奏ス、五外曾祖紀朝臣ニ正一位太政大臣ヲ贈ル又詔シテ先帝及天皇ノ諱ヲ避ケシム、貢進ノ調庸粗惡ヲ戒ム、六赤雀見ハル慶瑞表ヲ上ル、七正稅ノ濫費ヲ禁ズ、八平城宮ニ行幸、大伴家持死、九齋內親王伊勢ニ向フ、中納言藤原種繼賊ニ射ラレテ薨、十山科(天智)田原(光仁)後ノ佐保山陵(聖武)ニ皇太子ヲ廢スルヲ告グ、河內國堤破壞ニヨリ修築セシム、十一天神ヲ交野柏原ニ祀ル、安殿親王ヲ皇太子トス
一、四四六	五	西七八六	丙寅	續紀卅九	正坂上苅田麿薨、藤原旅子ヲ夫人トス、近江國滋賀郡ニ梵釋寺ヲ造ル、二出雲國造神吉事ヲ奏ス、四調庸支度等ノ物ノ未納多キヲ戒ム、六勅シテ諸國公廨ノ處分ノ出擧收納ヲ規定ス、七太政官院成リ百官始メテ朝座ニ就ク、九出羽國言ス渤海國使漂着ス、諸國驛戶ノ調ヲ免ズ、十太上天皇ヲ大和國田原陵ニ改葬シ奉ル、
一、四四七	六	西七八七	丁卯	同	三養老ノ詔アリ、四山背國白雉ヲ獻ズ、五蘇敬注新修本草ヲ以テ陶隱居集注本草ニ代フ、七太白晝見ハル、八高椅津ニ行幸、十交野ニ行幸遊獵、十一天神ヲ交野ニ祀ル
一、四四八	七	西七八八	戊辰	同	正皇太子元服ヲ加フ、三來年蝦夷ヲ征セムガタメ軍粮ヲ多賀城ニ運ビ又糒鹽ヲ運バシメ同年三月ヲ限リ東海東山坂東諸國ノ兵ヲシテ多賀城ニ會セシム、和氣淸麿ノ上言ニヨリ河內攝津兩國ノ境ニ川ヲ掘リ墾闢シテ沃壤ヲ得シム、四雨降ラザルコト五ケ月天皇親シク祈給フ雨滂沱、五夫人旅子薨年卅、七大隅國曾乃峯噴火、紀古佐美ヲ征東大使トス、大中臣淸麿薨年八十七、十二征東大將軍紀古佐美辭見勅書ヲ賜フ
一、四四九	八	西七八九	己巳	續紀四十	三諸國ノ軍多賀城ニ會シ分道シテ賊地ニ入ル、蝦夷征討ヲ伊勢神宮ニ告グ、造東大寺司ヲ廢ス、五良賤婚嫁所生子處分法ヲ定ム、七伊勢美濃越前ニ勅シテ三國ノ關ヲ停廢ス、征東將軍ニ勅アリ、九持節征東大將軍紀古佐美陸奥ヨリ至リ節刀ヲ進ム、太政官曹司ニ於テ征夷將軍ノ敗狀ヲ勘問セシム、十二皇太后崩明年正月高知日之子姫尊ト諡シ大枝山陵ニ葬ル
一、四五〇	九	西七九〇	庚午	同	正三十日百官釋服大祓、二藤原繼繩ヲ右大臣トス、閏三勅シテ蝦夷征伐ノタメ諸國ニ革甲二千領ヲ三年ニ限テ造ラシム、皇后崩天之高藤廣宗照姫尊ト諡シ長岡山陵ニ葬ル、春秋卅一、征夷ノタメ東國ヲシテ糒十四萬斛ヲ備ヘシム、四大宰府ニ仰セテ鐵冑三千枚ヲ作ラシム、六神祇官曹司ニ神今食ノ事ヲ行フ、八大宰府所部飢民九萬人賑恤、十復大鑄錢司ヲ置ク、征夷功アル五千人ニ授勳進階、十一欠負未納塡補ノ法ヲ定ム、諒闇ニヨリ新嘗ヲ神祇官ニテ行フ、十二詔シテ外祖父母ニ追贈アリ
一、四五一	一〇	西七九一	辛未	同	正蝦夷ヲ征セムガ爲東海東山ノ軍士ヲ閱シ戎具ヲ檢セシム、三吉備眞備等ノ刪定セシ律令廿四條ヲ行ヒ用ヒシム、京畿七道ニ仰セテ甲ヲ造ラシム、五來年班田ノ爲天平十四年勝寶七歲等ノ圖籍ニ由テ田地ヲ改正セシム、六鐵甲三千領新樣ニヨリ修理セシム、七伊豫白雀ヲ獻ズ、八伊勢神宮火アリ、畿內班田使ヲ任ズ、九平城宮諸門ヲ長岡宮ニ移ス、十交野ニ行幸、東海東山ニ仰セテ征箭三萬五千餘具ヲ作ラシム、十一坂東諸國ニ仰セテ軍粮ノ糒十二萬餘斛ヲ備ヘシム
一、四五二	一一	西七九二	壬申	後一缺	二京中ヲ巡幸、三南院ニ幸シ禊飲、內膳奉膳安曇繼成ヲ佐渡ニ流ス、伊勢大神宮ヲ造ル、四大納言紀船守薨、六寒クシテ人絮ヲ著ル、七六世以下ノ王賜姓ニ付キ勅アリ、十京畿百姓ノ班田ニ付キ勅アリ、閏十一新彈例八十三條ヲ彈正臺ニ賜フ

紀元	延暦	西暦	干支	後紀	事項
一、四五三	**一二**	七九三	癸酉	後二缺	**正** 大納言藤原小黒麿ヲ遣シテ山背國葛野郡宇太村ノ地ヲ相ス都ヲ遷サムガ爲メナリ、東院ニ遷御、**二** 遷都ヲ賀茂大神ニ告ゲシム、征東使ヲ改メテ征夷使トス、**三** 葛野ニ幸シテ新京ヲ巡覽ス、攝津職ヲ改メテ國トナス、伊勢奉幣遷都ヲ告ゲ給フ、**四** 葛野ニ幸ス、**七** 新宮ヲ巡覽シ給フ、**八** 車駕京中ヲ巡覽ス、**九** 菅野眞道等ヲシテ新京ノ宅地ヲ班給セシム、**十一** 新京ヲ巡覽ス
一、四五四	**一三**	七九四	甲戌	後二三缺	**正** 征夷大將軍大伴弟麿ニ節刀ヲ賜フ、山階田原山陵ニ征夷ヲ告グ、伊勢奉幣征夷ヲ告グ、**五** 甲斐國白烏ヲ献ズ、**六** 征夷副將軍坂上田村麿已下蝦夷ヲ征ス（以上卷二）、**八** 先是藤原繼縄等勅ヲ奉ジテ國史ヲ修ム是ニ至テ成ル、勅シテ十四卷トシ先ニ成レル二十卷ノ末ニ繫ク、**九** 幣帛ヲ諸國名神ニ奉リ遷都及征夷ヲ告グ、**十** 車駕新京ニ遷御、遷都ノ詔アリ、**十一** 大學寮ニ勸學田ヲ賜フ、詔シテ山背ヲ改メテ山城トシ新京ヲ平安京ト曰ヒ又近江ノ古津ヲバ昔號ヲ追ヒテ大津ト改稱ス
一、四五五	**一四**	七九五	乙亥	後三四缺	**正** 大伴弟麿朝見節刀ヲ進ム、**三** 勅シテ重ネテ私ニ養鷹ヲ禁ズ、**四** 勅シテ僧尼ノ乖法淫濫ヲ戒ム、**閏七** 詔シテ正稅出擧ノ息利ヲ減ズ、畿內七道ノ巡察使ヲ任ズ、詔シテ雜徭三十日ヲ以テ法トス、近江若狹ノ驛路ヲ廢ス（以上卷三）、**八** 近江國相坂剗ヲ廢ス、巡察使ヲ停止ス、**九** 肥後國ヲ大國トス、**十一** 渤海國使等六十八人夷地漂著越後國ニ遷シテ供給ス、**十二** 車ヲ逃クル諸國軍士三百三十人ヲ陸奥國ニ配シテ柵戶ト爲ス
一、四五六	**一五**	七九六	丙子	後五	**二** 南海道驛路舊路ヲ廢シテ新道ヲ通ズ、**三** 北辰ヲ祭ルヲ禁ズ、**四** 渤海國入貢、**五** 山陽道諸國ノ賊ヲ捕ヘシム、渤海國使歸蕃使ヲシテ送ラシム（以上卷四）、**七** 右大臣藤原繼縄薨、肥後國阿蘇山上ノ神靈池凋減、**八** 諸國ノ地圖ヲ作ル、**九** 山城河內便宜ノ地ニ烽燧ヲ置カシム、**十** 御長廣岳等渤海ヨリ歸朝王ノ啓アリ、**十一** 新錢隆平永寶ヲ鑄ル、相摸武藏等八國民九千人ヲ陸奥國伊治城ニ遷ス
一、四五七	**一六**	七九七	丁丑	後六缺	**正** 阿波伊豫土佐ノ驛家ヲ廢置ス、**二** 菅野眞道等上表續日本紀卌卷ヲ進ル、**三** 甲斐相摸ノ國境ヲ定ム（以上卷五）、**四** 布勢內親王ヲ伊勢ノ齋トス、僧正善珠寂ス、**五** 宇治橋ヲ造ル、**六** 詔シテ租稅處分法ヲ改ム、詔シテ刪定令格四十五條ヲ遵用セシム、七道諸國名神ニ奉幣萬國ノ安寧ヲ祈ル、輸錢求爵ヲ禁ズ、**七** 陰陽博士等ヲシテ大和平群山河內高安山ヲ鎭祭セシム、**七** 男女會集別ナキヲ禁ズ、**八** 浮宕ノ徒王臣ノ勢ヲ假リテ調庸ヲ免シ莊長私田ヲ營ムヲ禁ズ、**十一** 地震、暴風屋舍多倒、坂上田村麿ヲ征夷大將軍トス
一、四五八	**一七**	七九八	戊寅	後六七缺	**正** 公廨ヲ停止シテ正稅ニ混ジ又書生及事力ノ數ヲ定メテ公廨田ヲ停ム、諸國神宮司神主神長等ノ任限ヲ定ム、**三** 詔シテ郡領譜第ノ選ヲ停廢シ國造兵衞亦同ジク停止ス、**四** 四國造ノ名ヲ除キテ兵衞ノ例ニ補ス、地震、**五** 使ヲ渤海國ニ遣ス、**閏五** 勅シテ曰ク五世王ハ皇親ノ限ニアラズ、已後一ニ令條ニ依ルベシ、**六** 唐人十人歸化、**八** 伊豫親王山莊ニ幸シ御製アリ、**九** 祈年幣帛ヲ奉ルベキ神社ヲ定ム、**十** 糒穀ヲ貯收スル耗分ヲ加フルヲ得ザラシム、**十二** 渤海國入貢
一、四五九	**一八**	七九九	己卯	後八	**二** 私稻出擧ヲ許ス、和氣清麿薨ズ、**四** 渤海國使歸蕃使ヲシテ押送セシム、畿內ノ郡司ヲ內考ニ居ク、**五** 伊勢大神宮正殿改作、**六** 美作國等十一國去年ノ田租ヲ全免ス、勅シテ大和國司廣瀨龍田ソノ祭祀ヲ怠ルヲ戒ム、**七** 天竺人參河國ニ漂著、綿種ヲ齋ラス、**八** 伊勢奉幣、**九** 齋內親王伊勢ニ赴ク、送渤海客使歸朝、**十一** 地震、**十二** 歸化百濟高麗人ノ請ニ依テ賜姓多シ、和氣廣世私墾田ヲ賑救田トス、勅シテ天下ノ本系帳ヲ進ラシム
一、四六〇	**一九**	八〇〇	庚辰	後九缺	**正** 五百井女王ノ庄ニ幸ス、**四** 大極殿ニ御シテ朔ヲ視給フ、王臣豪民山村ヲ占メ民利ヲ奪フヲ禁ズ、**五** 諸國ニ下知シ田租ヲ改張セシ意ヲ徹底セシム、**六** 富士山噴火、**七** 故皇太子早良親王ヲ崇道天皇ト追稱シ故廢后井上內親王ヲ追復シテ皇后ト稱シ並ニ其墓ヲ山陵ト稱ス、**八** 依舊更ニ國司公廨田ヲ置ク、**九** 公廨依舊出擧セシム、**十** 山城等六國ノ民ヲ發シテ葛野川ノ堤ヲ修ム、**十一** 征夷大將軍坂上田村麿ヲ遣シテ諸國ノ夷俘ヲ撿校セシム

平城

皇紀	年	西暦	干支	出典	事項
一、四六一	二〇	西八〇一	辛巳	後九・十缺	閏正 出雲國造神賀事ヲ奏ス、二 征夷大將軍坂上田村麿ニ節刀ヲ賜フ、三 近江ノ大津ニ幸ス、四 越前國牛ヲ殺シテ神ヲ祭ルヲ禁ズ、五 諸國ニ舟檝浮橋等ヲ設ケテ貢調ヲ便ナラシム(以上卷九)、六 大宰府隼人ヲ進ルヲ停ム、七 參河國慶雲見ル、八 藤原葛野麿ヲ遣唐大使トス、九 坂上田村麿蝦夷討平ヲ奏ス、十一 田村麿ヲ從三位ニ敍シ已下叙位
一、四六二	二一	西八〇二	壬午	後十缺	正 坂上田村麿ヲ遣シテ陸奥國膽澤城ヲ造ラシメ鎮守府ヲ移ス、駿河甲斐等十一箇國ノ浪人四千人ヲ膽澤城ニ配ス、美作國白鹿ヲ献ズ、四 俘囚大墓公等種類五百餘人ヲ率キテ降ル、五 相模國足柄路ヲ廢シテ函根路ヲ開ク富士燒碎石道ヲ塞グヲ以テナリ、六 坂上田村麿俘囚二人ヲ從ヘテ入京、八 豐後國白雀ヲ献ズ、俘囚ヲ河內國植山ニ斬ル
一、四六三	二二	西八〇三	癸未	後十・十一缺	正 美作國白鹿ヲ豐後國白雀ヲ献ズ、始テ齋宮寮ニ史生四員ヲ置ク、二 遣唐大使以下ニ物ヲ賜フ(以上卷十)、三 入唐大使藤原清河ニ正二位ヲ贈ル、近江國滋賀可樂崎ニ幸ス、四 遣唐大使辭見、近江國志賀可樂崎ニ幸ス、五 相摸國筥荷路ヲ廢シ足柄舊路ヲ復ス、遣唐使節刀ヲ還シ奉ル船舶破壞渡唐ヲ得ザルヲ以テナリ、八 伊豫親王愛宕庄ニ幸ス、閏十 近江國蒲生野ニ幸ス、十一 朔旦冬至是日百官上表、大赦
一、四六四	二三	西八〇四	甲申	同十二	正 武藏國木連理ヲ近江國白雀ヲ献ズ、僧侶戒行ノ缺クルヲ誡ム、征夷ノ爲武藏以下陸奥等七箇國ノ糒及米ヲ陸奥國ニ運バシム、坂上田村麿ヲ征夷大將軍トス、三 薩摩國薩摩郡櫟野驛ヲ置ク、遣唐大使藤原葛野麿ニ饌ヲ賜ヒ節刀ヲ授ク、五 陸奥國斯波膽澤城ノ間一驛ヲ置ク、齋宮寮白雀ヲ献ズ、六 越中國ヲ上國ト爲ス、能登國ヲシテ渤海國使客院ヲ造ラシム、九 使ヲ新羅ニ遣ス先ニ發セシ遣唐使ノ船舶ノ消息ヲ訪ハムガ爲ナリ、十 和泉國ニ行幸其夕難波行宮ニ至給フ、紀伊國玉出嶋ニ幸ス雄山道ヨリ日根行宮ニ還御、難波行宮ニ御ス、難波ヨリ還幸、十一 陸奥國栗原郡新ニ三驛ヲ置ク、秋田城ヲ廢シテ郡トス、十二 聖體不豫、天下赦除
一、四六五	二四	西八〇五	乙酉	後十二・十三	正 廢朝、崇道天皇ノ爲ニ寺ヲ淡路國ニ建ツ、二 石上神社ノ兵仗ヲ返納セシム、諸王ニ賜姓アリ、三 天下赦除、四 勅シテ貢調脚夫ヲ撫養慰勞セシム、天皇皇太子已下參議已上ヲ召シ後事ヲ託セサセ給フ(以上卷十二)、七 遣唐大使藤原葛野麿歸朝節刀ヲ進ル、唐物ヲ山科後田原崇道天皇三陵ニ献ズ、入唐求法僧最澄歸朝ス、十一 攝津國治ヲ江頭ニ移ス、十二 公卿議シテ黎民ヲ優矜シ存濟ヲ得シムベシト奏ス、造宮職ヲ廢ス
一、四六六	大同元	西八〇六	丙戌	後十三・十四	正 出擧雜稻ニツキ勅アリ、二 造宮職ヲ停メテ木工寮ニ併ス、三 辛巳十七日天皇正寢ニ崩ズ春秋七十、四 日本根子皇統彌照尊ト御謚ヲ奉リ山城國紀伊郡柏原山陵ニ葬リ奉ル、伊勢齋內親王歸京、右大臣神王薨(以上卷十三)、五 群臣上表朝位ニ昇ラムコトヲ請フ、辛巳十八日大極殿ニ即位、大同ト改元ス、神野親王ヲ皇太弟トス始テ六道ニ觀察使ヲ置ク、六 池及栗林ノ用ニ就キテ勅アリ、大宰府ニ大少監大少典各一員ヲ增加ス、外祖父藤原良繼ニ正一位大政大臣ヲ外祖母阿倍古奈美ニ正一位ヲ贈ル、勅シテ諸王及五位已上子孫十歲以上ノ者大學ニ入リ敎習セシム、閏六 勅シテ王臣神寺ノ山河ヲ占有スルヲ禁ズ、勘解由使ヲ廢ス、七 紀伊國安諸郡ヲ改メテ在田郡トス御諱ニ涉ルヲ以テナリ、中內記ヲ廢ス、內記史生四員ヲ置ク、八 勅シテ中臣忌部兩氏ノ訴ヲ裁セシム、是月霖雨天下諸國其害ヲ被ル、十 十一日桓武天皇ヲ柏原陵ニ改葬、河內攝津兩國ノ境ヲ定ム、十一 大原內親王ヲ以テ伊勢齋トス
一、四六七	二	西八〇七	丁亥	後十五・十六缺	正 綵幣ヲ香椎宮諸山陵ニ奉ル、大嘗國郡ト定伊勢ヲ由貴備前ヲ須貴トス、四 參議ヲ罷メ近衞府ヲ左近衞中衞府ヲ右近衞トス、五 聖武帝ノ國忌ヲ廢ス、諸國采女ヲ貢スルヲ停ム、七 畿內國司ニ私佃ヲ聽ス、八 唐國信物ヲ伊勢大神宮ニ奉ル、憲法十五條ヲ頒ツ、九 淫祀ヲ禁斷ス、十 勅シテ三位以上並ニ淺紫ヲ着シム、左右衞士府官人ノ服色ヲ定ム、國司交替六考ヲ以テ限トス、藤原宗成三品伊豫親王ニ勸メテ不軌ヲ謀ル、葛野川ニ行幸大嘗御禊、十一 大嘗ヲ停ム、伊豫親王幷ニ母夫人藤原吉子ヲ川原寺ニ幽ス藥ヲ仰テ死ス、宗成等ヲ配流ス
一、四六八	三	西八〇八	戊子	後十七	正 京中ノ骼胔ヲ埋歛セシム、疫癘死亡多シ、二 大極殿ニ御シテ名神ニ祈禱ス疫癘ニ因レリ、三 諸國ヲシテ仁王講ヲ講ゼシム(以上卷十六)、五 大同類聚方一百卷成ル、七 衞門ヲ廢シテ左右衞士府ニ併ス、八 太政官ニ少納言一員ヲ加ヘ左右大舍人寮ヲ併セテ一トス、諸國ヲシテ備帳ヲ進ラシム、勅シテ調庸闕怠ナキヲ期セシム、九 齋內親王伊勢ニ向フ、詔シテ要劇馬料等悉ク前例ヲ革メテ普給セシム、十 大嘗御禊近江國大津ニ行フ、大嘗散齋ノ期三月ヲ改テ一月トス、十一 朝堂院ニ御シ大嘗ノ事ヲ行ハセ給フ

紀元	年號	西暦	干支		事項
一、四六九	四	西八〇九	己丑	同 十七缺 十八缺	正 諸國ヲシテ正月七日十六日雨節會ノ珍味ヲ獻ズルヲ停メシム、二 倭漢惣歷帝譜圖ヲ藏スルヲ禁ズ、少納言一員中監物二員少監物二員ヲ加置、天皇不豫、三 雅樂寮雜樂師ヲ定ム、四 朔天皇皇太弟ニ禪位、天皇(平城)病ヲ數處ニ避ケ五遷ノ後平城ニ宮造給フ、四 十三日受禪大極殿ニ即位、十四日高丘親王ヲ皇太子トス、勅シテ諸國神社修造ノ遲レタルヲ戒ム、參河ヲ悠紀ニ美作ヲ主基トス、太上天皇不豫天下ニ大赦、五 五位以上義倉不輸者ノ俸祿ヲ留ム、諸國天神地祇ニ奉幣、勅シテ今年大嘗會ヲ停ム、八 仁子內親王ヲ伊勢齋トス、三十日天皇太上天皇ニ朝ス、九 伊豫國神野郡ヲ改メテ新居郡トス上諱ニ觸ルルヲ以テナリ、觀察使起請十六條ヲ諸國ニ裁下ス、十 渤海國入貢、天皇東院ニ遷御、十一 藤原仲成等ヲ遣シテ平城宮ヲ造ラシム、十二 太上天皇平城ニ幸ス
一、四七〇	弘仁元	西八一〇	庚寅	缺 十九缺 二十缺	四 渤海使歸國、王ニ書ヲ賜フ、平城宮ヲ造ル、五 天下諸國ノ相撲人ヲ進ムルヲ停ム、渤海使首領高多佛脫身越前國ニ留ル、史生羽栗馬長及習語生等ヲシテ渤海語ヲ習ハシム、六 觀察使ヲ罷メ參議ノ號ヲ復ス、七 東宮ニ遷御(以上卷十九)、九 平城天皇重祚ヲ圖リ平城遷都ヲ擬シ坂上田村麿等ヲ造宮使ト爲ス、六日藤原仲成ヲ右兵衞府ニ繫ギ尙侍藤原藥子ヲ宮中ヨリ退ク、十一日平城ヨリ太上天皇東國ニ入給フト告グ、是夜仲成ヲ禁所ニ射殺、十二日太上天皇宮ニ旋リテ剃髮入道シ給ヒ藤原藥子自殺、十三日皇太子高岳親王ヲ廢シテ大伴親王(淳和)ヲ立テ皇太弟トス、大同五年ヲ改メテ弘仁元年トス、諸國出擧官稻ノ利率ヲ定ム、大臣以下服色ヲ改ム、渤海國方物ヲ獻ズ、十 松崎川ニ禊ス、十一 乙卯大嘗ヲ朝堂院ニ行フ、十二 林東人ヲ送渤海客使トス、詔シテ左右近衞舊數ニ復ス
一、四七一	二	西八一一	辛卯	同 廿一	正 陸奧國ニ和我薭縫斯波三郡ヲ置ク、渤海使ヲ朝集院ニ饗ス、渤海國使歸蕃其王ニ書ヲ賜フ、二 勅シテ祭祀ニハ散齋前一日諸司ニ頒告セシム、郡司採用ニ就テ詔ス、西宮ニ遷御ス、上野國ヲ大國トス、三 諸國ヲシテ俘囚計帳ヲ進ラシム、四 遣渤海國使辭見、五 農民ニ酒ヲ喫スルヲ嚴禁、坂上田村麿薨、六 伊勢奉幣、七 軍事ニツキ征夷大將軍文室綿麿ニ勅アリ、九 齋內親王伊勢ニ向フ、十 林東人等渤海國ヨリ歸朝、左右衞士府等兵數舊ニ復ス、十一 左右衞士府ヲ改メテ左右衞門府トス、十二 蝦夷征討ニ功アリシ文室綿麿等ヲ賞ス
一、四七二	三	西八一二	壬辰	同 廿二	二 神泉苑ニ幸シ花樹ヲ覽給フ花宴ノ節ノ始トス、三 出雲臣神賀辭ヲ奏ス、連理木ヲ獻ス、四 鎭守府ノ官員ヲ定ム、勅シテ僧尼戒律ヲ虧クヲ誡ム、紀伊國名草驛ヲ廢シ萩原驛ヲ置ク、五 諸國公廨田ノ外水田ヲ營ムヲ禁ズ、神社ノ修理ヲ怠ルヲ誡ム、諸王五位已上ノ子孫ノ教學ヲ獎勵、六 諸國ニ俘囚長ヲ置カシム、紀廣濱等ヲシテ日本紀ヲ讀マシム、攝津國長柄橋ヲ造リ、大輪田泊ヲ修ム、住吉香取鹿嶋三神社造營ノ年限ヲ改定ム、郡司ノ詮擬ヲ嚴ニセシム、七 疫旱並行ハル名神ニ奉幣、十 右大臣藤原內麿薨、常陸國六驛ヲ廢シテ更ニ三驛ヲ置ク
一、四七三	四	西八一三	癸巳	同 廿三	三 大宰府言上新羅人一百十人小近島ニ着シ土民ト相戰ヘリトイフ、四 皇太弟南池ニ幸シ御製アリ、五 文室綿麿ヲ征夷將軍トス、十 名神ニ奉幣シテ豐稔ニ報ユ
一、四七四	五	西八一四	甲午	同 廿三缺 廿四缺	二 陸奧國白雉ヲ獻ズ、五 新羅王子來朝ノ日朝獻ノ志アラバ渤海ノ例ニ准ジ但隣交ヲ修メムト願ハバ答禮ヲ用ヒズ直ニ還却スベシトノ制アリ、神泉苑ニ幸シ曲宴、出雲國未納稻十六萬束ヲ免除ス俘囚ノ亂ヲ以テナリ、六 姓氏錄成ル、八 大和國八嶋寺嘉禾アリ一莖十八穗、詔シテ官社ニ奉幣高年僧尼及耆老鰥寡孤獨ヲ賑給、九 渤海國入貢ス、十 新羅商人卅人長門國ニ漂着ス、新羅人廿六人投化、十二 歸降夷俘ヲバ夷俘ト號セズ官位ニ隨ヒ又官位ナキヲバ姓名ヲ稱セシム
一、四七五	六	西八一五	乙未	同 廿四	正 渤海國大使以下ニ授位賜祿、渤海國使歸蕃賜書、三 陸奧國人ニ賜姓多シ、四 近江國滋賀韓崎ニ幸ス、六 畿內井ニ近江丹波播磨等國ニ茶ヲ植エ毎年之ヲ獻ゼシム、渤海大使王孝廉歸蕃中途ニ薨ズ詔シテ正三位ヲ贈ル、七 夫人橘嘉智子ヲ皇后トス、諸國司ノ遷替ヲ復シテ四年トス、十 親王以下諸臣ノ服色裝身ニツキテ勅アリ、十一 囚徒斷決ノ勅アリ、十二 常陸國板來驛ヲ廢ス、是歲五月ヨリ九月ニ及ビテ霖雨諸國被害多シ
一、四七六	七	西八一六	丙申	同 廿五缺	二 小野石子長岡ノ第ニ幸ス、辨官曹司ニ遷御ス禁中修造ヲ以テナリ、三 大宰府ヲシテ毎年絹三千疋ヲ進ラシム、最澄天台靈應圖及本傳集等ヲ上ル、七 鑄錢司ヲ廢ス、八 伊勢奉幣、大風羅城門倒ル、九 聖躬不豫、伊勢奉幣、新羅人一百八十人歸化ス

紀年	干支		事項
一、四七七 八 西八一七	丁酉	後 廿五缺 廿六缺	二 新羅人四十三人歸化、四 入色四人白丁六人漢語ヲ習ハシム、新羅人一百三十四人歸化、五 贈皇后藤原帶子ノ國忌ヲ除ク、六 天下諸國ヲシテ雨ヲ祈ラシム、七 攝津國言ス海潮暴溢二百廿人ヲ漂殺スト、十 常陸國新治郡災不動倉十三宇穀九千九百九十斛ヲ燒ク
一、四七八 九 西八一八	戊戌	同 廿六缺 廿七缺	正 新羅人驢四ヲ獻ズ、三 長門國司ヲ改メテ鑄錢使トス、朝會ノ禮及服制等改テ唐法ニ依ル、四 大秦公寺災、殿閣及諸門ノ號ヲ改メテ皆之ニ題額ス、是月雨ナク使ヲ伊勢及諸大寺諸寺山林禪場等及柏原山陵ニ遣シ祈雨、服御物並常膳省減ノ詔アリ、五 山城國貴布禰社ヲ大社トス、始メテ齋院ノ職員ヲ置ク、六 僧玄賓卒、八 詔シテ今年ノ租調ヲ免ジ正税ヲ以テ賑恤ス、九 詔シテ天下諸國ヲシテ齋ヲ設ケ金光明寺ニ於テ金剛般若經ヲ轉讀セシム又畿内諸國弘仁八年以前ノ租税ヲ免ズ、十一 錢文ヲ改メテ富壽神寶トス、十二 右大臣藤原園人薨左大臣正一位ヲ贈ル
一、四七九 一〇 西八一九	己亥	同 廿七	二 畿内富豪ノ貯ヲ錄シテ困窮ノ徒ニ借貸ス、三 勅シテ山城國賀茂御祖別雷二神ノ祭ヲ中祀ニ准ズ、詔シテ故皇子伊豫（桓武皇子）夫人藤原吉子（親王母）等ヲ本位號ニ復ス、六 制諸司朝堂ニ於テ親王大臣ヲ見ル磬折ヲ以テ跪伏ニ代ヘ起立ヲ以テ動座ニ代フ、唐人來リテ唐國ノ騷擾ヲ告グ、十一 渤海國入貢、十二 更ニ捕魚ヲ禁ズ
一、四八〇 一一 西八二〇	庚子	同 廿八	正 渤海國入覲大使等ニ敍位、二 遠江駿河ニ配セシ新羅人七百人反ス相模武藏等七國ノ軍ヲ發シテ追討ス、大和國高市郡泉池ヲ築ク、四 七道諸國介以上ヲ以テ夷俘專當トス、詔シテ天下百姓負税未納言上及調庸未進者京畿七道諸國咸除セシム年不登ヲ以テナリ、唐人李少貞等二十人出羽國ニ漂着ス、十 近江國國分寺災定額國昌寺ヲ以テ之ニ代フ、十二 勅シテ針生五人ヲ置ク
一、四八一 一二 西八二一	辛丑	同 廿八缺 廿九缺	正 十條ノ斷例ヲ定ム、藤原冬嗣ヲ右大臣トス、二 文章博士ヲ改メテ從五位下ノ官トス、五 播磨國人銅鐸ヲ獲タリ、阿育王塔鐸ナリト云フ、讃岐國萬農池ヲ作ル別當ヲ充テ其事ヲ濟サシム、九 名神ニ奉幣豐稔ニ報ユルナリ、十一 渤海國入貢、十二 畿内諸國各博士醫士ヲ置ク
一、四八二 一三 西八二二	壬寅	同 卅	正 驛子ニ借貸ノ稻ヲ量給シ兼ネテ口分田ヲ一處ニ授クルコトヲ許ス、渤海國使等歸蕃其國王ニ賜書、三 近江國穀十萬斛ヲ以テ穀倉院ニ收メ、越前國ノ物ヲ以テ塡補スルコトヲ許ス、六 最澄卒ス、七 灌漑ノ事貧ヲ先ニシ富ヲ後ニスベキコトヲ重ネテ禁ズ、新羅人卌人歸化、八 諸國ヲシテ國分二寺ニ於テ七日七夜悔過、十一 朔旦冬至百官奉賀
一、四八三 一四 西八二三	癸卯	同 卅缺 卅一缺	二 有智内親王ノ山庄ニ幸ス、是月天下大疫海道尤甚シ、三 越前國江沼加賀二郡ヲ割テ加賀國ト爲ス、四 十日天皇冷泉院ニ遷御、十六日讓位、正良親王ヲ皇太子トス、伊勢及山陵ニ即位ノ由ヲ告グ、文室綿麿薨、廿七日天皇即位、大伴宿禰ヲ改メテ伴宿禰トス、五 皇妣藤原旅子ニ皇太后ヲ追贈ス、諸道名神ニ奉幣、外祖父藤原百川ニ太政大臣外祖母ニ正一位ヲ贈ル、六 越前國今立郡及加賀國能美石川ノ二郡ヲ建ツ、贈一品高志内親王ニ皇后ヲ追贈ス、十 佐比河ニ幸シテ修禊、十一 大嘗會ノ餝ヲ停メ弊ヲ省カムガ爲ニ宮内省ヲ悠紀所トシ中務省ヲ主基所トス、渤海國入覲使加賀國ニ到着ス、八幡樫日廟ニ奉幣、十二 詔シテ内年ノ間禮服ノ著用ヲ停止ス
一、四八四 天長元 西八二四	甲辰	同 卅二	正 五日弘仁十五年ヲ改メテ天長元年トス、二 渤海國史ニ詔ヲ賜フ、三 詔シテ五月五日ノ節ヲ停廢ス、四 伊勢大神宮ニ御劔并ニ幣帛ヲ奉ル、渤海副使ノ貢物ヲ返還ス、十五大寺并ニ五畿七道諸國ヲシテ大般若經ヲ奉讀シ疫旱ヲ防ガシム、五 五畿七道諸國諸神ニ奉幣疫氣ヲ謝ス、七 七日平城天皇崩、楊梅陵ニ奉葬、春秋五十一、九 度會離宮ヲ常ノ齋宮トス、高雄寺ヲ定額寺トス、十 多褹嶋司ヲ停メテ大隅國ニ隸ス

年	紀元	西暦	干支		事項
二	一、四八五	八二五	乙巳	同卅三缺	三 攝津國江南四鄕ヲ和泉國ニ隷ス、四 藤原冬嗣ヲ左大臣ニ同緒嗣ヲ右大臣ニ任ズ、攝津國豐島郡家ヲ以テ南地ニ遷ス、七 若狭國遠敷郡ヲ割テ大飯郡ヲ建ツ、閏七 柏原山陵ニ肥後阿蘇郡神靈池凋渇ノ狀ヲ告グ、攝津江南四箇郡ヲ和泉ニ隷スルヲ停ム、八 五畿七道巡察使ヲ任ズ、十一 施藥院使司ヲ置ク、太上天皇ノ御壽四十ヲ奉賀ス、十二 渤海國使百三人隱岐國ニ到來ス
三	一、四八六	八二六	丙午	同卅四缺	正 和泉國ニ池五處ヲ築ク、二 備前國田原池ヲ停メテ神崎池ヲ築ク、改葬石作山陵司ヲ任ズ、五 渤海國使等ニ授位、客徒歸國、六 相撲節七月七日ヲ改メテ十六日トス、七 卿雲見ル、左大臣藤原冬嗣薨年五十二正一位ヲ贈ル、內藥司ニ河內國荒廢田ヲ充ツ、十一 五畿內校田使ヲ任ズ、十二 公卿上表慶雲ノ瑞ヲ賀ス詔シテ之ヲ停ム、重ネテ上表アリ大赦調庸ヲ免ズ
四	一、四八七	八二七	丁未	同卅五缺	正 畿內校田使ヲ任ズ、聖體不豫、二 正子內親王ヲ皇后トス、四 伊勢大神宮ニ奉幣齋內親王病ノ爲退出ヲ以テナリ、五 武藏國白雉ヲ獻ズ、良岑安世等經國集ヲ撰ス、六 和泉國ニ易田五百町ヲ置ク、彈正臺ニ近江國荒廢地ヲ給ス、七 地大ニ震スルコト連日、八 地震連日、九 地震連日、十 地震連日、十一 地震數回、十二 地震數回
五	一、四八八	八二八	戊申	同卅六缺	正 渤海國入貢、畿內班田使ヲ任ズ、二 宜子女王ヲ齋王トス、是月地震三回、三 聖躬乖和、地震二回、四 渤海客大使已下ニ賜物、六 地大ニ震ス、七 詔シテ山崩地震責躬ニ在リ冤滯アラバ申理ヲ得シメヨト宣給フ、八 北山神ヲ祭ル、十 美濃國菩提寺伊豫國彌勒寺肥後國淨水寺定額ニ預ル、大地震
六	一、四八九	八二九	己酉	同卅七缺	二 五畿七道ノ名神ニ奉幣春雨ヲ祈ル、三 地大ニ震ス、大和國飛鳥社ヲ鳥形山ニ遷ス、十二 賀茂川ニ幸シテ修禊
七	一、四九〇	八三〇	庚戌	同卅八缺	正 鴨川ニ幸シテ御禊、出羽國大地震被害多シ、四 出雲國造獻レル神寶等ヲ覽給フ、鴨川ニ幸シテ御禊、萬多親王薨ス、出羽地震ニツキ詔アリ租調ヲ免シ賑恤セシム、七 良岑安世薨ス、使ヲ十八寺ニ遣シテ讀經五畿七道ノ名神ニ奉幣ス、伊勢大神宮ニ奉幣、九 伊勢齋王參入、藥師寺ヲシテ毎年最勝會ヲ設ケシム、清原夏野新造山庄ニ幸ス、十 格式ヲ上奏ス、出羽國ノ出舉ヲ増加ス、十一 地震、神祇八省彈正臺ノ格式ヲ頒行ス、閏十二 北野及清原夏野ノ雙岡宅ニ幸ス
八	一、四九一	八三一	辛亥	同卅九缺	二 山城國綴喜郡ニ香達池ヲ築ク、德氏ヲ通取シテ造酒司酒部ニ補ス、囚獄司物部亦同ジ、六 紫色滅紫立上ヲ禁斷ス、八 名神ニ奉幣ス、伊勢大神宮ニ奉幣ス風雨ノ災ヲ防グヲ祈ルナリ、山城國河內國ニ各氷室三宇ヲ加置ス、九 伊勢大神宮ニ奉幣、十二 賀茂齋內親王老病ヲ以テ時子女王ヲト定シテ代ラシム
九	一、四九二	八三二	壬子	同卌缺	四 梨本院ニ遷御ス大內ヲ修メムガ爲ナリ、紫野雲林亭ニ幸ス、皇后雲林亭ニ幸シ農業ノ風ヲ觀給フ、五 四畿內國司ニ仰セテ雩セシム、沒官書千六百九十三卷ヲ秀良親王ニ賜フ、七 五畿內七道諸國名神ニ奉幣風雨ヲ防グ、八省院ニ御シテ伊勢大神宮ニ奉幣、八 明神ニ頒幣止雨ヲ祈ル、十一 藤原緒嗣ヲ左大臣ニ清原夏野ヲ右大臣ニ任ズ

年	干支	出典	事項
一、四九三 西八三三 一〇	癸丑	續後一二	二清原夏野等新撰令釋疑起請ヲ校讀ス、乙酉譲位、天皇受禪、恒貞親王ヲ皇太子トス、三伊勢奉幣即位ヲ告グ、天皇大極殿ニ即位、大嘗國郡卜定悠紀近江高嶋郡主基備中下道郡、齋宮齋院ヲ定ム、天皇外祖父母ニ贈位、四八幡香椎ニ奉幣即位ヲ告グ、節會五月五日ニ復ス、五武藏國ニ悲田處ヲ置ク（以上卷一）、六彈正臺史生二員ヲ置ク、天皇不豫、天下ノ寺塔神社修理ス、大赦、聖躬平復、七諸國人民姓名郡郷山川等ノ諱ニ觸ルヲ改易セシム、八伊勢奉幣、大嘗御禊、八省院ニ禋祀ス、十二諸國ニ經羅ヲ行ハシム
一、四九四 西八三四 承和元	甲寅	同三	正天長十一年ヲ改メテ承和元年トス、筑前國慶雲見ル群臣上表奉賀、遣唐大使藤原常嗣副使小野篁ヲ任ズ、二大宰府百姓泊著新羅人ヲ射傷ス太政官府司ヲ責メ傷者ヲ療シテ放還ス、造舶使遣唐裝束使ヲ任ズ、公私ノ金銀薄泥ヲ用ルヲ禁ズ、三女官別當四年ヲ限トシ解由ヲ責ム、天狐宮禁ノ上ニ鳴ク、四紀傳博士ヲ停メテ文章博士一員ヲ加フ、五坂東諸國ヲシテ一切經ヲ書寫奉進セシム、七左大舍人寮ノ地ヲ式部省主稅寮ニ賜フ、八先太上天皇嵯峨院ニ遷御、清涼殿ニ芳宜華宴アリ、九僧護命卒、十一國造田ノ地稅ヲ內射調習ノ責ニ充ツ、十二令義解ヲ施行ス
一、四九五 西八三五 二	乙卯	同四	正承和昌寶ヲ鑄ル、二錢鐵司秩限六年ニ更メ定ム、三後太上天皇皇太后ノ御對ヲ冷然院ニ准ジテ行フ、壹伎嶋ニ防人ヲ置ク、甲斐國不動穀倉災、四諸國文珠會ヲ修セシム、高子內親王齋院ニ入ル、先太上天皇不豫、六大膳職職掌二員ヲ加置ク、六東海東山兩道ノ河津ニ渡舟二艘ヲ加增セシム、七近江國所出ノ雲母私採ヲ禁ズ、八齋內親王祓禊、九齋內親王伊勢ニ向フ、新弩ヲ發明ス、大村福吉ヲシテ治瘡記ヲ撰セシム、十一賜姓多シ、美濃國荒田十町ヲ後院勅旨田トス、十二大宰府ヲシテ續命院ヲ管セシム、夷俘任意入京ス因テ陸奧出羽按察使等ヲ譴責ス
一、四九六 西八三六 三	丙辰	同五	二遣唐使ノ爲ニ天神地祇ヲ北野ニ祠ル、遣唐使賀茂ニ奉幣、四遣唐使ニ節刀ヲ賜フ、五京大寺眞言院ニ灌頂道場ヲ建ツ、遣唐使發船、地大ニ震フ、遣唐使ノ爲諸陵ニ奉幣、閏五改賜姓多シ、七曜曆ニヨリ小月ナルヲ改メテ大トス、遣唐使船肥前ニ漂著、九遣唐大使入京節刀ヲ奉還、十出雲國ニ勅旨田ヲ置ク、畿內國次山城ヲ以テ第一トス、十一石見國ノ百姓ヲ選ミ銅ヲ採ルコトヲ習ハシム、十二遣新羅國使紀三津復命
一、四九七 西八三七 四	丁巳	同六	正石見國十五社ヲ始メテ官社ニ預ラシム、二遣唐使天神地祇ヲ愛宕郡家ニ祀ル、陸奧國弩師ヲ置ク、三入唐使賜餞節刀ヲ賜フ、四陸奧出羽按察使百姓ノ騷擾ヲ告グ、五別當ヲ定メ諸寺ヲ糺正セシム、遣唐第一舶太平良ニ從五位下ヲ授ク、六疫癘ニヨリ諸國國分僧寺ニ畫ハ金剛般若ヲ讀ミ夜ハ藥師悔過ヲ修セシム、山城大和等七國ニ遣使境界ヲ鎭祭シ時氣ヲ攘ク、名神ニ奉幣風雨ヲ防ガシム、七白丁文章生ヲ出身ニ預ラシム、八陸奧課丁三千餘人ニ給復五年、九八幡奉幣、十右大臣清原夏野薨、十二盜春興殿ヲ開テ絹ヲ盜ム、夜分女盜清涼殿ニ入ル
一、四九八 西八三八 五	戊午	同七	正藤原朝臣三守ヲ右大臣ニ任ズ、二盜賊横行、三豐前彌勒寺火、山城國空閑地ヲ春宮坊ニ賜フ、四大和ノ富家ノ資ヲ錄シ困窮ノ輩ニ借貸セシム、大宰府管內諸國飢ウ賑給、七京中ノ水田ヲ禁ズ、九大宰管內地子交易法ヲ定ム、近江國ニ勅旨田ヲ置ク、勅シテ天下諸寺社ヲ修理セシム、東國ニ米華降ル、十神寶ヲ伊勢ニ奉ル、彗星見ユ、其氣赤白天ニ竟ル數許里、大宰府例進ヲ改定ス、十一彗星東方ニ見ユ其長七八丈、皇太子元服、十二清涼殿ニ於テ始テ佛名懺悔ヲ修ス、小野篁ヲ隱岐國ニ流ス
一、四九九 西八三九 六	己未	同八	閏正勸農ノ詔アリ、毎季疫神ヲ祭ラシム、三窮弊ヲ救ハム爲陸奧百姓三萬餘人ニ復三年ヲ給フ、四伊賀國ノ山中私鑄錢群盜ヲ索捕ス、五和泉國安樂寺ヲ國分寺トス、六外祖父贈正一位橘朝臣清友ニ太政大臣ヲ贈ル、七左右京職幷五畿七道ヲシテ庚午年籍ヲ寫進シ中務省庫ニ收メシム、大宰府ヲシテ新羅舶ヲ造ラシム、畿內國司ヲシテ蕎麥ヲ種エシム、八住吉氣比ニ奉幣船舶ノ歸着ヲ祈ル、典藥寮御藥園成ル、九遣唐持節大使節刀ヲ進ム、十唐物ヲ伊勢大神宮ニ奉ル、建禮門前唐物ヲ雜置シ交易セシメ名付テ宮市ト云、十一伊勢齋宮災
一、五〇〇 西八四〇 七	庚申	同九	二群盜遍起、六衞府ヲシテ京城ヲ夜行セシム、大宰府ヲシテ例進ノ朴消ヲ停止セシム、流人小野篁ヲ召ス、三勅シテ儉約ヲ勸メ女人ノ服重著ヲ禁ズ、四大宰府奏遣唐第二舶大隅ニ廻着スト、諸司百官ニ改正格式ヲ頒行、勅アリ史生ノ員ヲ復舊、五五畿七道ニ下知シテ黍稷稗麥大小豆ヲ植エシム、八日淳和太上天皇崩、諱謚ヲ上リ山城國乙訓郡物集村ニ奉葬、七右大臣藤原三守薨、天皇紫宸殿ニ始メテ萬機ヲ見給フ、八大納言源常ヲ右大臣ニ任ズ、九對馬嶋司ニ新羅船一隻ヲ分給ス、十一橘字ヲ以テ姓トナスモノハ椿ノ字ニ改メシム

皇紀・西暦・年號	干支	天皇年	事項
一、五〇一 西八四一 八	辛酉	同十	二武藏國田ヲ嵯峨院ニ充ツ、出羽國百姓二万人ニ賜復一年、五崇ニ賽スベク宣命使ヲ山科柏原兩山陵ニ遣ス、重ネテ神功皇后陵ニ使命ヲ遣ス、六伊勢ニ奉幣シテ國家平安、寶位無動ヲ祈ル、七伊豆大震ニヨリ優恤ヲ加フ、八土佐國ニ高岡郡ヲ置ク、九加賀國勝興寺ヲ以テ國分寺トス、閏九無位小野朝臣篁本爵ニ復ス、十天皇不豫、十一朔旦冬至公卿慶賀、彗星見ル、十二日本後紀ヲ修シ訖ル
一、五〇二 西八四二 九	壬戌	同十一 十二	正新羅李少貞等卅人筑紫大津ニ到ル粮食ヲ支給シテ放歸、二田邑皇子加冠、渤海客徒ヲシテ入京セシム、但馬國壽永寺ヲ定額寺トス、三女官別當閏年ヲ限トス、渤海客徒入京鴻臚館ニ置ク、四渤海客等ニ時服ヲ賜ヒ之ヲ饗シ且詔叙アリ、渤海王ニ書ヲ賜フ(以上卷十一)、七太上天皇嵯峨院ニ崩ズ、山北幽僻ノ地ヲ撰ビ即日奉葬、伴健岑橘逸勢等謀反發覺、勅使近衞ヲ率キテ皇太子直曹ヲ圍ム、藤原愛發藤原吉野文室秋津等ヲ院中ニ幽ス、皇太子ヲ廢ス、橘逸勢ヲ伊豆ニ伴健岑ヲ隱岐ニ流ス、八道康親王ヲ皇太子トス、九勅シテ伊豆ニ死セル逸勢ノ孫ヲ京師ニ召還セシム、東國ヲシテ三史ヲ寫進セシム、十二淳和太皇后別髪入道
一、五〇三 西八四三 一〇	癸亥	同十三	正中務省上言京畿七道ヲシテ庚午年籍ヲ寫進セシム、四陸奧國ノ上言ニヨリ兵士年役六十箇日分結六番ヲ八番トス、五石見國ニ鹿足郡ヲ置ク、六始メテ日本紀ヲ讀マシム、始メテ主計主税二寮ニ寮掌各二人ヲ置ク、十八箇國飢ウ賑恤ヲ加フ、七致仕左大臣藤原緒嗣薨年七十、八大宰府對馬嶋司ノ上言ニヨリ筑紫防人ヲ之ニ充ツ、九始メテ陸奧鎮守府ニ學員ヲ置ク、十一校畿內田使ヲ任ズ、十二能登國大興寺ヲ國分寺トス、文室宮田麿謀反伊豆ニ流サル
一、五〇四 西八四四 一一	甲子	同十四	正太皇太后ニ朝覲シ給フ三月亦朝覲、二校田使ヲ除ス、六大宰府白烏ヲ献ズ、日本紀ヲ讀畢ル、七源常ヲ左大臣ニ橘氏公ヲ右大臣ニ任ズ、閏七仁壽殿ニ御シ始メテ林邑樂ヲ奏セシメ給フ、八紫宸殿ニ芳宜花宴ヲ覽給フ、文章博士春澄善繩等上言ト筮告ル所强ニ信ズベカラザルヲ云フ、嵯峨太皇太后不豫、十班田使ヲ除ス、攝津國鴻臚館ヲ以テ國府トス
一、五〇五 西八四五 一二	乙丑	同十五	正尾張濱主和風長壽樂ノ舞ヲ奏ス、四近江國荒廢田ヲ後院開田トス、六齋宮寮頭幷助ヲシテ大神宮幷ニ多氣度會兩郡ノ雜務ヲ檢校セシム、八配流人橘田舍麿等ヲ入京セシム、淡路國ニ船幷ニ渡子ヲ置キテ以テ往還ニ備フ、九石川龍田兩河ノ諸流ヲ引キ西海ニ通ゼム爲ニ難波川ヲ苅掃セシム、十聖躬不豫、十二新羅人我漂蕩人ヲ送リ來ル
一、五〇六 西八四六 一三	丙寅	同十六	正太皇太后ニ朝覲、百十四歲ノ老翁尾張濱主ヲ召シ清涼殿前ニ舞ハシム、二諸王十七人ニ清原眞人ノ姓ヲ賜フ、三勘王世所ノ上言ニヨリ五畿內ニ仰セテ氏姓ノ出自ヲ申告セシム、六諸王四十七人ニ清原眞人ノ姓ヲ賜フ、七諸王三十九人ニ清原眞人ノ姓ヲ賜フ、十一太政官所司ニ下符シテ前參議正躬王等ノ贖銅ヲ徵セシム、十二山城大和等班田使長官ヲ任ズ、諸王十二人ニ清原眞人ノ姓ヲ賜フ
一、五〇七 西八四七 一四	丁卯	同十七	正太皇太后ニ朝覲、二配流人藤原高直等ヲ入京セシム、五清涼殿ニ莊子竟宴ヲ行フ、天皇始テ漢書ヲ讀給フ、六松尾ニ奉幣、八始テ施藥院ニ史生四員ヲ置ク、十圓仁唐ヨリ到ル、詔シテ橘奈良麿ニ更ニ太政大臣正一位ヲ贈ル、雙丘東墳ニ從五位下ヲ授ク、十二右大臣橘氏公薨年六十五、大和國長谷山寺壺坂山寺ヲ定額トス
一、五〇八 西八四八 嘉祥元	戊辰	同十八	正七道ニ仰セテ身上六尺已上ノ者ヲ貢セシム、藤原良房ヲ右大臣ニ任ズ、二上總國俘囚丸子廻毛等叛逆ノ狀ヲ奏ス之ヲ斬ル、三地震フ、四諸王三人ニ文室朝臣ノ姓ヲ賜フ、五大宰府白龜ヲ献ズ、六在唐僧圓載ニ黃金ヲ賜フ、承和十五年ヲ改メテ嘉祥元年トス、大赦、諸社奉幣、地震、七白龜ノ瑞ニ依リ五畿七道ノ神祇ニ奠幣又十二陵ニ告グ、八京中洪水大同元年ノ水ニ倍スト云、九新錢長年大寶ヲ鑄ル、茨田堤ヲ築カシム、十地震、十二和氣齊之大不敬ヲ犯ス一等ヲ減ジテ伊豆國ニ流ス、渤海入覲使能登國ニ來着

紀元・年	干支	出典	事項
一、五〇九 二 西八四九	己巳	續後十九	正 伊勢多度神宮寺法雲寺ヲ眞言別院トス、二 對馬史生一員ヲ減ジテ琴師一員ヲ置ク、聖躬不豫、存問渤海客使客ノ將來セル啓牒案ヲ奏上、興福寺天皇寶算四十ニ滿ルヲ賀ス、四 諸國穀價ヲ改メシム、渤海國使入京、五 渤海客徒ヲ宴シ叙位アリ、使ヲ鴻臚館ニ遣シ勅書太政官牒ヲ賜フ、六 聖躬不豫、七 諸王十八人ニ姓清原眞人ヲ賜フ、九 伊勢大神宮ニ神寶ヲ奉ル、廿年一度ノ例ナリ、十 太皇太后天皇ノ寶算四十ヲ賀シ給フ、十一 皇太子上表天皇四十寶算ヲ賀シ獻物アリ、十二 大宰府豐後權守登美直名ノ謀反ヲ告グ、閏十二 京城ヲ巡省シ給フ
一、五一〇 三 西八五〇	庚午	同二十・文一・同二	正 天皇大皇太后ニ朝覲シ給フ、聖躬不豫、京畿及五畿內國司ニ勅シテ盜賊ヲ戒メシム、二 御病劇シ御床ニ加持ヲ奉ス、三 十九日天皇落飾、廿一日天皇崩、春秋四十一(以上續後紀)、深草山陵ニ奉葬、四 十七日大極殿ニ即位、五 四日嵯峨太皇太后崩、橘逸勢正五位下ヲ追贈、石見國甘露降ル、六 伊勢奉幣即位ヲ告グ、七 外祖父冬嗣ニ太政大臣ヲ外祖母美都子ニ正一位ヲ贈ル、八 五畿七道諸神ニ班幣即位ヲ告グ、賀茂社松尾社ニ即位ヲ告グ、八幡宮及香椎廟ニ實劍明鏡名香綵帛ヲ奉ル、十一 惟仁親王ヲ皇太子トス
一、五一一 仁壽元 西八五一	辛未	文三	正 諒闇、詔シテ天下諸神ヲ正六位上ニ叙ス、三 皆既月蝕、四 國郡卜定伊勢ヲ悠紀播磨ヲ主基トス、大嘗祭行事司ヲ定ム、廿八日改元嘉祥四年ヲ仁壽元年トス、八 河內國嘉禾ヲ獻ズ、駿河國瑞草ヲ獻ズ、伊勢齋內親王鴨川ニ禊シ野宮ニ入ル、九 伊勢大神宮ニ細馬八匹ヲ奉ル、十 大嘗會御禊裝束使等ヲ任ズ、伊勢大神宮ニ大嘗祭ヲ告グ、十一 辛卯大嘗、壬辰豐樂院ニ幸シ群臣ニ賜宴、悠紀主基國風俗歌舞ヲ奏ス、悠紀主基二國ニ進位免租、晦朱雀門前ニテ解齋ノ大祓、十二 刑部斷罪文ヲ奏ス、大嘗祭ニ依テ延引セリ
一、五一二 二 西八五二	壬申	同四	二 播磨國紫雲見ル、三 近江國叡魚ヲ獻ズ、四 諸國名神ニ奉幣、賀茂齋內親王紫野齋院ニ入ル、五 紫雲甘露ノ瑞アリ、肥前豐後ノ貧民ニ復ヲ賜フ、八 廩院米ヲ以テ京師ヲ賑給ス、九 齋內親王伊勢參入ニ就キ長奉送使ヲ任ズ、十 宿禱ニ賽セムガタメ諸社ニ奉幣、十二 小野篁薨年五十一
一、五一三 三 西八五三	癸酉	同五	二 東宮ヨリ移テ梨下院ニ幸ス、藤原良房ノ第ニ幸ス、是月京師及畿外皰瘡ヲ患ヒテ死者甚多シ、四 皰瘡ヲ以テ賀茂祭ヲ停ム、疫癘ニヨリ赦除ス、又醫藥ヲ給ス、五 東國六國ニ一切經ヲ分寫セシム、齋院長官ヲ任ズ、美濃國ニ詔シ出穀皰瘡患者ニ給セシム、六 葛原親王薨年六十八、諸皇子女九人ニ源姓ヲ賜フ、七 地震、伊勢大神宮奉幣災疫ヲ禳フ、九 僧正延祥卒、大宰府ヲシテ皰瘡患者ニ出穀賑給セシム、十二 諸國ヲシテ毎年陰陽書法ニヨリ害氣ヲ鎭メシム
一、五一四 齊衡元 西八五四	甲戌	同六	正 大宰府赤腹魚ヲ貢ス、梨下院ニテ賜宴、二 大和國ヲシテ灌頂經法ヲ修シ災疫ヲ攘ハシム、三 不動稻三萬五千束ヲ石見國ノ飢民ニ賑給、四 僧ヲ七道名神ノ社ニ遣シ轉經民福ヲ祈ラシム、皇太后ヲ太皇太后、皇太夫人ヲ皇太后トス、陸奧國ニ一千人ヲ發シ逆亂ニ備ヘシム、五 陸奧國ヲシテ穀一萬石ヲ俘夷ニ賑給セシム、是月寒甚シ、六 左大臣源常薨年四十二、正一位ヲ贈ル、七 石見國ニ醴泉出ヅ、十一 卅日仁壽四年ヲ齊衡元年ト改元、諸國ニ詔シ諸神ニ奉幣賀瑞ヲ告グ
一、五一五 二 西八五五	乙亥	同七	正 陸奧國ニ援兵二千人ヲ差發ス、二 藤原良房等ヲシテ國史ヲ修メシム、四 私ニ鷹鷂ヲ養フヲ禁ズ、美濃國多藝武義二郡ヲ多藝石津武義群上ノ四郡トス、五 地震多シ、東大寺毘盧舍那佛頭顚落ス、六 安祥寺ヲ定額ニ預ラシム、七 紀伊國甘露ヲ獻ズ、九 宇佐八幡ニ大佛ノ頭落タルヲ告グ、地震多シ、僧正長訓卒、伊豆國大興寺ヲ定額ニ預ラシメ海印寺別院トス、十 出羽國困窮萬九千口ニ給復、是年地震多シ
一、五一六 三 西八五六	丙子	同八	三 出羽國法隆寺ヲ定額ニ預ラシム、四 朔地震、五世王ノ服色ヲバ諸臣ニ准ゼシム、國康親王出家、七 藤原長良薨、十一 晋書ヲ講ゼシム、後田原山陵ニ遣使配天ノ事ヲ告グ、圓丘ニ事アリ、十二 常陸國木連理ヲ言シ美作國白鹿ヲ獻ス、常陸國鹿島郡大洗磯前ニ神新ニ降ルト云フ、是年亦地震多シ

淸和

年	干支		事項
一、五一七 天安元 西八五七	丁丑	文八九	正大衍暦ヲ廢シ五紀暦ヲ用フ、禁中ニ子日態アリ、二諸名神ニ賀瑞ヲ告グ、良房ヲ太政大臣ニ源信ヲ左大臣ニ藤原良相ヲ右大臣ニ任ズ、廿一日天安元年ト改元、鴨齋內親王慧子ヲ廢シ述子內親王ヲ立ツ、三京南及平城ニ群盜ヲ捕ヘシム、四近江國相坂關ヲ復シ大石龍花ノ二關ヲ置ク、六陸奧國極樂寺ヲ定額ニ預ラシム、大宰府對馬嶋司ノ擾亂ヲ告グ、七地大ニ震フ、聲アリ雷ノ如シ、對馬賊類賊黨ニ劫入セラレタル者ヲ赦免ス、十大洗磯前酒列磯前神ヲ藥師菩薩名神ト號セシム、遠江國言ス木連理、十一惟喬親王元服
一、五一八 二 西八五八	戊寅	同十三實一	正參河國木連理、二越後國木連理、京中群盜ヲ捕ヘシム、四遣使諸社ニ奉幣、穀倉院ヲ開キ左右京ノ窮民ヲ賑給、大宰府大風ノ災害ヲ告グ、七武藏國白雉ヲ上ル、八僧光定卒ス、天皇不豫、赦除、天下ニ大赦、廿七日帝新成殿ニ崩ズ春秋卅二、皇太子東宮ニ移幸、九田邑山陵ニ奉葬(以上文德實錄)、十一朔伊勢大神宮ニ、五日山階柏原嵯峨深草眞原山陵及愛宕墓等ニ遣使郎位シ給ハムコトヲ告ゲ奉ラシム、七日大極殿ニ即位時ニ御年九歲、十二贈皇后高志內親王ノ國忌ヲ除ク、十陵四墓ヲ定ム、十日詔眞原山陵ヲ改メテ田邑山陵トス
一、五一九 貞觀元 西八五九	己卯	同二•三	正京畿七道諸神惣テ二百六十七社進階叙位ノコトアリ、二使ヲ備中國ニ遣シテ石鐘乳ヲ採ラシム、藤原良相奏請崇親院延命院ヲ建ツ、四十五日天安三年ヲ改メテ貞觀元年トス、國郡ト定參河國播豆郡ヲ悠紀美作國英多郡ヲ主基トス、新錢饒益神寶鑄造ノ詔出ヅ、五肥後國合志郡ヲ分チテ山本郡ヲ置ク、渤海國入朝、啓牒信物ヲ奉進ス、六渤海國王ニ勅書ヲ賜フ、七諸國ノ寺院堂塔ヲ修理セシム、使ヲ諸社ニ遣シ神寶幣帛ヲ奉ル、八高山祭ヲ行フ、十恬子內親王ヲ伊勢齋トス、十一十六日大嘗
一、五二〇 二 西八六〇	庚辰	同四	正僧正眞濟卒、三阿波國三好郡ヲ置ク、四仁王會ヲ設ク、十制御注孝經ヲ用ヒシム、十一朔旦冬至、十二大赦、釋奠式ヲ七道諸國ニ頒ツ
一、五二一 三 西八六一	辛巳	同五	正渤海弔喪使李居正等百五人出雲國嶋根郡ニ來著、二皇太后落飾入道文德天皇女御藤原古子相從出家、三防鴨河葛野河二使ヲ停メ山城國ニ隷セシム、十四日東大寺毘盧舍那佛修理落成無遮大會大供養、四文德天皇皇子女二人親王トシ三人源氏ヲ賜フ、六始メテ長慶宣明暦經ヲ頒行ス、八天皇始メテ論語ヲ講ジ給フ、五畿內七道諸國ヲシテ佛頂尊勝陀羅尼經ヲ書寫シ諸寺塔心柱ニ安置セシム、九伊勢齋內親王發遣、十一武藏國每郡檢非違使一人ヲ置ク
一、五二二 四 西八六二	壬午	同六	三左京職言皇親公卿五位以上ノ有位者ノ住メル坊里ニ保長ヲ置クヲ請フ之ニ依ル、畿內五國出擧官稻簡點官稻ノ事ニツキテ詔出ヅ、四參議已上ヲシテ時政ノ是非ヲ論ゼシム、五海賊橫行ニツキ山陽南海十二箇國ニ下知シテ之ヲ追捕セシム、六太政官處分諸國校田帳ハ大帳ニ準據シテ損減ヲ許サズ、七會放帳ヲ進ル期程ハ不與解由狀ノ期ニ准ゼシム、唐國商人四十三人來ル、八明法博士讃岐永直卒、九是月京師人家井泉皆悉枯竭、十一地大ニ震動
一、五二三 五 西八六三	癸未	同七	正去年冬ヨリ是月ニ至ル京畿咳逆ヲ患ヒテ死者多シ、二大和國吉野郡ニ高山祭ヲ行フ、三七道諸國名神ニ班幣宿禱ヲ賽ス、諸國牧宰私ニ鷹鷂ヲ養フヲ禁ズ、五神泉苑ニテ御靈會ヲ修ス、六越中越後等國大地震民舍破壞壓死者衆、七大極殿ニ於テ伊勢大神ヲ禱リ奉ラシム、八房世王ニ平朝臣ノ姓ヲ賜フ、九禪林寺ヲ定額ニ預ラシム、十太政大臣賀算ヲ內殿ニ行ハセ給フ、十一新羅國人五十四人丹後國ニ來著、新羅國人五十七人因幡國ニ來著
一、五二四 六 西八六四	甲申	同八•九	正天皇御元服、百官五畿七道諸國ニ宣告シテ傜役ヲ少クシ功價ヲ用フルコトヲ戒ム、延暦寺座主圓仁卒、諸國不課口ヲ以テ功口ニ入ルヲ停ム、大和守紀今守等正稅出擧田租減徵沽增加ニ就テ上言ス、二僧綱位階ヲ定ム、太政大臣藤原良房第行幸、三空海最澄ニ法印大和上位ヲ贈ラル、五駿河國淺間大神山大噴火(以上卷八)、七甲斐國富士大山ノ噴火ヲ告グ、勅シテ五畿並伊賀伊勢等ノ國ヲシテ神社ヲ修造セシム、八符ヲ諸國ニ下シテ調庸麁惡ヲ責ム

一、五二五	七	西八六五	乙酉	同 十 十一	正 親王年料給分ノ制ヲ改ム、二 敬神崇佛及恩惠ヲ施スベキ詔下ル、和氣朝朝臣巨範ヲシテ宇佐八幡宮ニ奉幣セシム、山階柏原嵯峨深草田邑山陵ニ遣使阿蘇靈池沸騰ヲ告グ、三 貢蘇違期ニ就キテ制アリ、四 諸明神ニ神田ヲ奉充、五 制五畿七道諸神社祝部白丁ヲ補スルヲ停ム、六 京畿及近江國貿買ノ輩惡錢ヲ擇棄ツルヲ禁ズ、御靈會聚衆走馬騎射ヲ禁ズ、八 對馬銀穴掘開ノ費ヲ給ス、九 材木ノ短狹ヲ禁ジ截車法ヲ定ム、十二 尾張國廣野河口ノ開掘ヲ聽ス
一、五二六	八	西八六六	丙戌	同 十二 十三	正 燒尾荒鎭並人ヲ責メ飲ヲ求メ及臨時群飲ヲ禁斷ス、三 右大臣藤原良相第ニ幸ス、閏三 太政大臣第ニ幸ス、應天門火棲鳳翔鸞兩樓延燒、五 圓珍ヲシテ眞言止觀兩宗教ヲ弘傳セシム、六 五畿七道諸神奉幣セシム、延曆寺ノ爲ニ式四條ヲ立ツ、七 尾張河口掘開ヲ暫ク停ム、九 伴宿禰善男等應天門ヲ燒クニ坐シ伊豆ニ流サル、唐商張言等四十人大宰府ニ來著、十二 藤原須惠子ヲ以テ春日并大原野神齋トス
一、五二七	九	西八六七	丁亥	同 十四	正 二品仲野親王薨、三 五畿七道ニ下知シテ毎鄕結保奸濫ノ徒ヲ督察セシム、四 東西京始メテ常平所ヲ置キ官米ヲ出シテ糶セシム、五 蓄錢ヲ禁ズ、七 權僧正壹演卒、十 右大臣藤原朝臣良相薨、十二 上總國ニ撿非違使ヲ置ク
一、五二八	一〇	西八六八	戊子	同 十五	二 應天門ヲ造リ始ム、田邑山陵ノ樹木ヲ燒損ス、山陵失火ニ依リ錫紵ヲ服シ廢朝五日、六 撰格所起請十三條、七 地震播磨國官舍寺塔盡ク頽倒、閏十二 新定內外交替式二卷ヲ天下ニ頒ツ、左大臣源朝臣信薨
一、五二九	一一	西八六九	己丑	同 十六	二 貞明親王ヲ立テ、皇太子トス、四 貞觀格撰成ル、五 陸奧國地大ニ震動濤潮泝漲忽チ城下ニ至ル溺死者千許資産苗稼殆ト孑遺ナシ、六 大宰府言去月廿二日夜新羅海賊來襲、七 肥後國大風雨人畜壓死勝計スベカラズ潮漲六郡ヲ漂沒ス、九 新撰貞觀格十二卷內外ニ頒行、十 大宰府ヲシテ德政ヲ施サシム
一、五三〇	一二	西八七〇	庚寅	同 十七 十八	正 藤原氏宗ヲ右大臣ニ任ズ、新ニ貞觀永寳ヲ鑄ル、二 元長王以下十四人源朝臣ヲ賜フ、公卿奏請シテ諸王ノ季祿ヲ減ジ兼ネテ給祿ノ定額ヲ立ツ、大宰大貳藤原冬緒起請四事ヲ進ル、八 對馬嶋弩師一員ヲ置ク、九 新羅人廿人ヲ諸國ニ配置ス、十一 大宰少貳藤原元利萬侶新羅ト通ジテ國家ヲ害セムト謀ル
一、五三一	一三	西八七一	辛卯	同 十九 二十	四 勅シテ太政大臣藤原朝臣良房ニ准三宮隨身兵仗ヲ賜フ、五 出羽國鳥海山噴火、八 貞觀式撰成ル、九 廿八日太皇太后崩、十 五日太皇太后ヲ山城國宇治郡後山階山陵ニ奉葬、天皇祖母太皇太后ノ喪ヲ服スベキヤ否ニツキテ疑義アリ諸儒ヲシテ議セシメ朝議心喪五月服制三日トス、勅シテ貞觀式ヲ頒チ內外ニ施行セシム
一、五三二	一四	西八七二	壬辰	同 廿一 廿二	二 右大臣藤原朝臣氏宗薨、五 渤海國使入覲位階ノ告身ヲ授ク大使從三位副使從四位下、七 惟喬親王頓ニ出家沙門トナル、八 源朝臣融ヲ左大臣ニ藤原基經ヲ右大臣ニ任ズ、九 太政大臣藤原朝臣良房薨正一位ヲ贈リ美濃公ニ封ジ忠仁ト諡ス、十二 良房愛宕墓ヲ五墓ノ一ニ加フ

皇紀	年	西暦	干支	同	事項
一、五三三	一五	西八七三	癸巳	同 廿三 廿四	四地大ニ震動、親王八人源氏四人ヲ定ム、五渤海國人薩摩甑嶋郡ニ漂著、十太政官候廳成ル、十一詔シテ太皇太后皇太后宮春宮坊封及服用五位以上封祿等往年減省ノ物ヲ復舊セシメ給フ、藤原朝臣佳珠子女御トス、十二陸奥守安倍貞行三事ヲ起請ス
一、五三四	一六	西八七四	甲午	同 廿五 廿六	三貞觀寺道場新ニ成リ大齋會ヲ設ク、四淳和院失火、閏四天皇群書治要ヲ讀ミ畢リ給フ、六渤海人宗佐等五十六人石見國ニ漂著、七薩摩國開聞山噴火、唐商人卅六人肥前國松浦郡ニ著岸、八新羅人對馬嶋ニ漂著、遣使伊勢奉幣、大風雨洪水、九撿非違使五條ヲ起請ス、十五畿七道ニ詔シテ屍骸漂散セルヲ意ヲ加ヘテ埋掩セシム、十二伊勢奉幣、攝津國悉檀寺官寺ニ預ラシム、撿非違使二事ヲ起請ス、地大ニ震動
一、五三五	一七	西八七五	乙未	同 廿七	正冷然院火アリ圖書財寶悉燒失、四皇太子始メテ千字文ヲ讀ム、天皇始テ史記ヲ讀ム、五下總國俘囚叛亂官寺ヲ燒キ良民ヲ殺略ス、六春日伊勢奉幣、十一藤原意佳子ヲ以テ春日大原野ノ齋トス、出羽國言ス渡島荒狄反叛スト牧宰ニ勅シテ討平ス、十二五畿七道ニ勅シテ諸國境內名神ニ奉幣國分二寺諸定額寺ニハ讀經セシム明年三合ニ當ルヲ以テナリ
一、五三六	一八	西八七六	丙申	同 廿八 廿九 三十	二淳和太皇太后ノ請ニ依テ嵯峨院ヲ大覺寺トス、三大宰權帥在原行平二事ヲ起請ス、値嘉嶋司ヲ置ク、四大極殿災、五伊勢神宮ニ大極殿ノ災ヲ告グ、松尾賀茂兩社幷柏原山陵同上、六伴中庸犯大逆隱岐ニ流サル、一萬三千佛ヲ東海山陰南海三道諸國ニ分置ス、八唐商人卅一人筑前國ニ著岸、五畿七道諸國境內神社ニ班幣、十五畿七道諸社奉幣、十一廿九日天皇讓位、藤原基經ヲ攝政トス、十二八日清和天皇ニ太上天皇ノ尊號ヲ奉ル、伊勢大神宮ニ明年正月即位ノ由ヲ告グ
一、五三七	元慶元	西八七七	丁酉	同 三十 廿一 廿二	正三日豐樂院ニ即位、渤海國使出雲國ニ著岸、大流星アリ、京師及畿內諸國飢饉東西京中常平司ヲ置キ官米ヲ出賣シテ賑給ス、二識子內親王ヲ伊勢齋敎子內親王ヲ賀茂齋トス、宇佐香椎ニ即位ヲ告グ、伊勢賀茂ニ即位並齋內親王ト定ノ由ヲ告グ、五畿七道諸社ニ班幣天皇即位ニ緣テナリ、四貞觀十九年ヲ改メテ元慶元年トス、存問兼領渤海客使渤海國王啓並中臺省牒ヲ奏ス、大嘗會國郡ト定シ悠紀美濃席田郡主基備中國都宇郡、六渤海國使出雲國ヨリ還蕃、是月大旱民農業ヲ廢ス、八唐商人崔鐸等六十三人筑前國ニ來著ス、九五畿七道諸國ニ使ヲ遣シ天神地祇二千一百卅四神ニ班幣ス大嘗會供奉ニ緣テナリ、十地大ニ震ス、大江音人薨、十八日天皇豐樂院ニ御シ自ラ大嘗祭ヲ供ス、十二元慶寺ヲ定額寺トス、荷前ノ幣ヲ獻ルベキ五墓ヲ定ム、禪院寺ヲ以テ元興寺別院トス、能登佐渡兩國並ニ始テ撿非違使各一人ヲ置ク、賜姓多シ
一、五三八	二	西八七八	戊戌	同 廿三 廿四	正京師及畿內諸國飢饉東西常平司ヲ置キ官米ヲ出賣ス、是月京師偸盜多シ、二善淵愛成ヲシテ日本紀ヲ讀マシム、三伊勢大神宮ニ幣帛神寶ヲ奉ル、五畿內國ニ頒告シテ按班ノ政ヲ勵行セシム、四大極殿立柱、仁王會咒願文ヲ五畿七道ニ頒下ス、五出羽國夷俘叛亂藤原保則小野春風等ヲ遣シテ之ヲ討タシム、大流星、七藤原基經ニ隨身兵仗ヲ賜フ、八大風雨、伊勢大神宮ニ奉幣、九關東諸國地大震裂相模武藏特尤甚シ公私屋舍一モ全キモノナク、百姓壓死勝記スベカラズ、十地震、出羽國ノ亂平グ
一、五三九	三	西八七九	己亥	同 廿五 廿六	正僧正眞雅卒年七十九、二都良香卒、三地大震動、淳和太皇太后崩春秋七十、嵯峨山ニ奉葬、四天皇始メテ御注孝經ヲ讀ム、五太上天皇清和院ヨリ栗田院ニ遷御、善淵愛成ヲシテ日本紀ヲ讀マシム、太上天皇落飾入道、八天皇始メテ論語ヲ講ズ、九美濃信濃國ヲシテ縣坂上岑ヲ以テ國堺トナサシム、齋內親王進發、十大極殿成ル、太上天皇大和國ニ幸ス、十一朔旦冬至、朔旦冬至ニヨリテ群臣進階徒罪以下赦免、十二民部卿藤原冬緒二事ヲ奏ス、山城畿內ノ班田ヲ撿挍ス
一、五四〇	四	西八八一	庚子	同 廿七 廿八	二使ヲ伊勢及賀茂松尾平野大原野稻荷等ノ社ニ遣シ大極殿成ルヲ告ゲ奉ル、四地大ニ震ス、八太上天皇水尾山寺ヨリ嵯峨棲霞觀ニ遷御、菅原是善薨、九五畿七道ニ頒下シ永ク淳和院ノ號ヲ避用セムコトヲ勅ス、十國司交替ニツキテ制アリ、地大震、出雲國神社佛寺官舍百姓居廬顚傾ス、十一太上天皇棲霞觀ヨリ圓覺寺ニ遷御、十二藤原基經ヲ太政大臣ト爲ス、太上天皇圓覺寺ニ崩ス、地大震動、大極殿一部破裂京師廬舍頽損衆シ、太上天皇ヲ山城國愛宕郡上栗田山ニ奉葬御骸ヲ水尾山上ニ置奉ル

一、五四一 五 西八八一	辛丑	同 卅九 四十	二 不動穀ニ就キテ勅アリ、大宰府公廨處分帳ヲ進ラシム、三 五畿七道諸國神社祝部氏人本系帳ヲ三年ニ一進セシム、五 下野國ヲ大國ニ准ズ、山陽南海山城攝津播磨等ノ海賊ヲ追捕ス、六 採山城國岡田銅使ヲ停ム、十 高丘親王羅越國ニテ遷化ノ由ヲ所司ニ頒下ス、茜紅花支子交染服色ノ使用ヲ禁ズ、官田ニ就キテ勅アリ、十二 伊勢神宮ニ天皇明年正月元服ヲ加フベキヲ告グ、淳和院別當ヲ置ク、山階深草田邑山陵ニ天皇元服ヲ加フベキヲ告グ
一、五四二 六 西八八二	壬寅	同 四十一 四十二	正 天皇元服ヲ加ヘ給フ、皇太后ヲ太皇太后ニ皇太夫人ヲ皇太后ニ上奉ル、源多ヲ右大臣ニ任ズ、四 揭子內親王ヲ伊勢齋穆子女王ヲ賀茂齋トス、五 使ヲ伊勢賀茂ニ遣シ齋王ト定ノ事ヲ告グ、六 權僧正遍照七條ヲ起請ス、八 宮閣門ヲ出入スルニ門籍ヲ進メザルコトヲ嚴ニス、日本紀竟宴ヲ設ク、十 渤海國入覲使加賀國ニ著岸、渤海客徒ト私ニ交易ヲ禁ズ、十二 畿內及諸國ニ禁野ヲ定ム
一、五四三 七 西八八三	癸卯	同 四十三 四十四	正 伊勢近江丹波獵ノ事ヲ制ス、二 上總國俘囚ノ叛クヲ追捕ス、五 渤海國大使裴頲等朝堂ニ於テ王啓及信物ヲ進メ奉ル、天皇豐樂殿ニ御シテ渤海客徒ニ賜宴及授位物ヲ賜フ、客徒歸蕃、大宰府司ノ怠慢ヲ譴責ス、十 備前國ヲシテ國司公廨稻十萬束ヲ出擧シテ饗賊兵士ノ粮ニ充テシム、七道諸國ニ民部省去年下ス所ノ關郡司職田地子正稅ニ混合スル符ヲ返サシム、民部省ヲシテ諸國貢調郡司省ニ參ル日見物ヲ勸會スル後五日內大藏省ニ移送セシム、散位源蔭ノ男益殿上ニ侍シ猝カニ格殺セラル、十二 山城大和等十一箇國禁野ニ於テ百姓ノ樵蘇スルヲ聽ス
一、五四四 八 西八八四	甲辰	同 四十四 四十五 四十六	二 四日天皇遜位是日天皇綾綺殿ヨリ出デテ二條院ニ遷幸、是夜皇太后常寧殿ヲ出デテ二條院ニ遷幸、親王公卿等天子ノ璽ヲ光孝天皇ニ奉ル、伊勢大神宮井ニ山階柏原嵯峨深草山陵ニ使ヲ遣シ即位スベキヲ告グ、五 畿內七道諸國名神ニ奉幣、廿三日天皇大極殿ニ即位、藤原澤子ニ皇太后ヲ贈ル、太上天皇ニ封二千戶ヲ充奉ル、齋王ヲト定、伊勢ハ皇女繁子ト食賀茂齋ハ舊ノ如シ、國郡ト定悠紀ハ伊勢主基備前國、四 燒尾荒鎮及人ヲ責メテ飲ヲ求ムルノ類ヲ禁ズ、天皇始テ文選ヲ讀給フ、梅宮祭ヲ復ス、皇女伊勢齋繁子賀茂齋穆子ヲ並ニ內親王トス、五 勅アリ諸道博士ヲシテ太政大臣職掌ノ有爲ヲ勘奏セシム、六 皇子男女廿九人賜姓、勅シテ百事先ヅ基經ニ諮稟シテ後奏セシム、田原天皇ノ國忌ヲ省キ贈皇太后ノ國忌ヲ設ク、九 遠江國濱名橋改造、十一 伊勢奉幣大嘗會ヲ修スベキヲ告グ、廿二日天皇朝堂院齋殿ニ御シ大嘗祭ヲ奉ス、十二 荷前幣ヲ獻ル、十 十陵五墓ヲ定ム
一、五四五 仁和元 西八八五	乙巳	同 四十七 四十八	正 始テ貂裘ノ着用ヲ禁ズ、二 田原天皇裔十九人ニ惟原朝臣ヲ賜フ、廿一日元慶九年ヲ改メテ仁和元年トス、四 服御ヲ減ズ、六 大宰府言新羅人卅八人肥後國ニ來著放還スト、八 北陸道及長門國大宰府等ヲシテ警固ヲ愼マシム、九 藤原總繼ニ太政大臣ヲ贈ル、五畿內七道諸國ニ下符流人楊雄王ヲ索ム、十 使ヲ遣シテ春宮田獲稻幷地子ノ直ヲ京師ニ運送ス、大宰府ニ令シテ唐物私買ヲ禁ゼシム、十一 左右近衞兵衞府等送ル所ノ釋奠祭牲ヲ定ム、大中臣ノ罕雄等ヲ遣シ伊勢神宮ヲ造ル、十二 遍照七十ノ賀筵ヲ賜フ、基經齡五十ヲ賀ス
一、五四六 二 西八八六	丙午	同 四十九	正 基經ノ男時平仁壽殿ニ於テ元服ヲ加フ、四 大地震、五 近江國新ニ阿須波道ヲ通ズルノ利害ヲ檢セシム、六 奧羽大宰府ノ警固ヲ愼マシム、大地震、八 安房上總下總等國ヲシテ不虞ヲ警メシム、丹後國丹波竹野兩郡熱田百四十三町餘荒田十二町餘ヲ後院田トス、九 天皇大極殿ニ御シ伊勢齋ヲ發遣ス、十一 出羽國最上郡ヲ分テ二郡トス、十二 芹川野行幸
一、五四七 三 西八八七	丁未	同 五十	二 貢蘇違期國司ノ位祿公廨ヲ奪フ、四 使ヲ伊勢大神宮ニ遣シテ奉幣久石清水伊勢國多度近江國日枝駿河國淺間神社ニ奉幣シ給フ、六 伊賀伊勢等十九國貢絹麁惡ヲ譴責シ正倉舊樣絹ヲ賜ヒ舊樣ニ依テ織作ラシム、七 地大震動、五畿內七道諸國同日大震官舍多損海潮漲陸溺死者無數攝津國尤甚シ、八 是月不根ノ妖語行ハレ人口ニ在ルモノ卅六種アリ、廿六日天皇聖體乖豫、第七皇子ヲ立テ皇太子トス是日天皇仁壽殿ニ崩ズ春秋五十八、是月地震二十餘回

昭和十六年四月五日印刷
昭和十六年四月十日發行
[illegible]

豫約頒價 金二圓

不許複製

增補 六國史
卷拾壹
（六國史年表）

編纂者 東京市淀橋區西大久保一丁目三七三番地 佐伯有義
發行者 東京市麴町區有樂町二丁目三番地朝日新聞社 櫻木俊晃
印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 小坂孟
印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 大日本印刷株式會社

發行所 東京 大阪 朝日新聞社